平成28年度 公開園·校指導案

No.

子どもを主体とした保育 公開園【舞鶴幼稚園】

もみじ組 公開保育指導案

保育者 梅原 みさき

3 時 平成28年6月17日(金)

2. 園児数 男児 6名 女児 12名 計 18名

3.学級の実態

入園当初、新しい環境、生活に対する不安な気持ちが強く、登園時には涙を流す姿が多く見られたが、入園式から1ヶ月がたち、少しずつ幼児にとって幼稚園が安心出来る場となり、色々な遊びに興味を持ち、笑顔で過ごす姿が見られるようになった。

体・生活習慣について)

入園まで家庭で過ごしていた子がほとんどである。生活習慣は個人差が大きいものの、身支度では「やってみたい!!」「自分でする!!」と意欲的に取り組む姿が見られ始めている。排泄も入園式までオムツで過ごしていた子がほとんどであったが、すぐにオムツも外し、時間を決め誘いかけることで排泄の習慣も身につき始めている。「自分で出来る!!」という意欲的な思いを大切にしつつ、1つ1つの習慣がきちんと身につけられるよう丁寧に関わっているところである。食事面では食生活の偏りが大きく、個別の援助が必要である。偏食のほとんどが食べず嫌いであることは保護者も理解しているものの、甘えが見られ前に進めていないのが現状である。家庭との連携を深め、少しずつ食に対する意識を変えていきたい。

学級活動として毎日、「小ミック・表現遊び、サーキットなどを行っている。体を動かすことが好きであり、色々な運動用具にも意欲的に挑戦している。やってみたい!!出来るようになりたい!!と挑戦する気持ちを大切に、遊びの投げかけを行っていきたい。

(人間関係について)

保育者と触れ合うこと、関わることが嬉しく、楽しく、「見て見て!!」「来て来て!!」と一緒にいることで安心して生活することができている。毎朝の欠席調べの中でチームの友達に目が向き始め「なんでおってないん?」「今日○○ちゃんおやすみなん?」と欠席している友達がいると気にする様子が見られるようになった。また、遊びの中では気の合う友達と一緒にいること、一緒に遊ぶことで友達との繋がりが広がっているところである。入園当初から優しく関わってくれる年長児も大好きな存在となり、自然な形で異年齢での関わりが深まりつつある。

回然替わのかかわりにしいて)

園生活の中でダンゴムシやザリガニなど身近な生き物との触れ合いを楽しむ姿が見られるようになった。触るのは怖いけど、見てみたい…と興味が広がっている。生き物には命があることを知り、3歳児なりに大切に扱えるように扱い方を知らせているところ

年長児、年中児の姿を見て、草花を使った色水つくりも大好きな遊びとなっている。

色々な色、形、においを楽しみながら日々、製作している。幼児の不思議や発見を受け止め自然物への興味、関心を高めていきたい。

言葉について)

話すことが好きであり、保育者にたくさんの思いを伝えることが出来る。やりとりする楽しさを感じ始めているので、一人一人と関わる時間を大切にしていきたい。また、歌うことが好きであり、歌詞はわからなくても歌うことを楽しんでいる。色々な言葉、音、リズムとの出会いを大切に、たくさんの歌と出会える場を設けていきたい。またま、自分が!!の思いが強く、言葉も不十分であり時折友達に対して強い口調も見られ始めている。自分だけでなく、友達にも思いがあることを知り、「貸して」「いいよ」「ごめんね」「ありがとう」と色々な言葉を扱い、思いが伝え合えるようトラブル時には話をしているところである。

描いたり、しくしたりにしいて)

学級活動で行っている表現遊びの中で、色々な動物に変身することを楽しみ始めている。「何に変身しようかな~」と保育者が投げかけると「うさぎ」「ライオン!!」「ブタ!!」と変身したいものを知らせてくれるようになった。「ブタさんって?」ときらに投げかけると幼児からどんどんアイディアが出始め、なりきって表現する面白さを感じている姿が見られるようになった。

ぬたくりやどろんこ、ローラーなど初めての事柄に少し緊張感を抱いている子も遊びが始まると感触の心地よさ、描く面白さを知り良い表情で参加出来るようになった。一人一人の表現をあたたかく受け止め、出来た嬉しさを共有していきだい。

4. 本日のねらい

○保育者と一緒、友達と一緒を喜び伸び伸びと生活する。

○いろいろに体を動かすことを楽しむ。

きさな 梅原 保育者

の心地よさを感じたり、広い園庭を力強く三輪市で走り回ったり…と園庭で色々な遊具を使って体を動か す場面が多く見られるようになった。「わたしま出来る!!」と友達の姿を見てプランコの立ち乗りに挑戦す る子や、友達と一緒に三輪車に乗ることで自然と笑い合う声が間にえたり、天像の良い日は進んで園庭に 一部がけ、それぞれが遊びの楽しまを感じ過ごしているところである。 あいところに上ったり、体を描らしたり、乗り物で進んだりする楽しさを感じて遊ぶ。

☆笑顔で遊ぶ姿に寄り添い、「すごいね」「気持ち良いね」などたくさんの言葉をかける。 ☆「代わって」と願蕾を待っている子の姿を知らせ、友達の思いにも気づける場面を大切に取り上げてい 女伯なさを感じて気をつけようと思えるように、その瞬間をとらえ、どこが危ないのかを具体的のに知ら

○危険がないよう安全面に留意する。

◇汗だくになるくらい、体を動かす楽しさを感じて遊んでいるか。

来て来て、見て見て」と固定遊具で挑戦したことを大きな声で保育者に知らせたり、ブランコ

始めは、花をたくさん入れることが難しかったが、年長児の豪からすりはちを「使うと花から色が出ることに気づき、色を出すことにも興味が広がっている。「「どうシュースができましたよ~」「はい、お茶ピラぞ。」と出来が難しい気持「エピラシュースができましたよ~」「はい、お茶ピラぞ。」と出来が難しい気持 ちを自分の言葉で保育者に伝える姿も見られるようになった。少しずつ花が少なくなり始めると、保育者と一緒に見つけた草(ヨモギ、ミント)や関然見つけた柿の実を使ってみようとする姿も見られ始めている。これまでは保育室前

にプレゼントする!!」と作ること、持ち帰ることが嬉しい3歳児である。遊び始めは、花をたくさん入れることが嬉しかったが、年長児の姿からすりばちを

年中児が遊んでいる姿に興味が広がり、「わたしも作る!! 」「お母さん

やりたい遊びの指導案 ◇評価の視点 会保育者の援助 4 П 赤色帽子 1 7 ш 赵 ○環境の構 y 3級 枡 28 もなのこ もみじ組 平成

クラス活動で全員線足になって遊んだことがきっかけとなり、やりたい遊びが始まると砂や泥の感触を求め、進んで様足になり砂場へと向かう姿が見られるようになった。こちそうを有らうと思って制でインケ選んで砂を塗ったりする中で、保育者に食べて関ったり、見てものよりすることを導んでいる。温泉作りでは保着者を表達が水を消したり、Lでものよりすることを導んでいる。温泉作りでは保着者を表達が水を消したりしている姿を見て、同じようにしたい思いを指いたりしている。 ●保育者や友達がしているのを見て自分もしたいと思って遊びに参加する。 ●砂や泥、水の感触の心地よさ、面白さを感じて遊ぶ。

な砂や泥、水の感触を感じられるように、保育者が率先して裸足になり驚きや気持ち 一緒にしたい、やってみようと思えるよう、 な保育者や友達が遊んでいる姿を見て、一緒にしたい、* 楽しく遊んだり、誘ったり、友達の姿を知らせたりする。 ○幼児が手にとりやすいように用具を用意しておく。

◇同じことをしたり、何度も繰り返して遊んでいるか。 ◇保育者や友達と話したり、笑いあったりして遊んでいるか。 よさを声にして知らせてい

爾天:保育室前

(晴:テラス前

遊ぼうタイムやクラス活動時

に3歳犯ようの遊びのコーナーを設定していたが、砂場でのごちそう作りとの繋がりを考え、遊びの場所を移動したしたで、繋がりを考え、遊びの場所を移動したしたで、 74年8名ことだけでなく、こっこ遊びの中で製作した白水を扱う姿も見られ始 と、美味しそうなジュースが出来たことなど幼児の思いを ◇「出来た!!」「○○ジュース作ってるねん」と保育者に思いを伝えて遊んでいた ○公同じ場にいる友達のしていることを感じたり、声が聞こえてきたりして、 ないろいろな草花の名前や形、においなどを保育者から知らせていく。 ●3歳児なりにいろいろな草花との出会いを大切にしようとする。○幼児の手に届くところに用具を用意しておく。 ●作ったものやしていることを保育者に見て貰うことを喜び遊ぶ。 丁寧に受け止め、嬉しい気持ちを共有しながら言葉をかける。 一緒にいる心地よさを感じられるよう遊びの環境を構成する。 ☆綺麗な色が出た

(ままごと、お医者さんごっこ)

同じ空間にい ることで友達の姿も身近に感じ、一緒にいること、一緒に遊ぶ中で笑顔が見られるようになった。まだまだ「自分のシ!!と玩具に対する思いは強く、友達とのいざこざも多々 ぶつけあえる場面を見 見られる。「○○のシ!!」「△△のやしシ!!」と自分の思いを出し、ぶつけあえる守りつつも、最後には保育者が仲介となりお互いの思いを知る場面を設けている っこ遊びをする姿が見られるようになった。 (風天時:もみじ組

ごっこ遊びでは保育者に見てほしい、来てほしい思いも強く、完成したごちそうを「は、 田来ましたよ~」と笑顔で遥んで来てくれる。幼児の思いを丁寧に受け止め、やりと りする中でいろいろな言葉と出会うことができるように関わりながら遊んでいるところ

●自分の思いを伝えて遊ぶ。

○ままごとコーナーのカーテンを開け、遊び出せるようにしておく。 なお母さん役や赤ちゃん役、病院の人などなりきって遊ぶ姿を見守り、幼児の世界の中 ●友達にも思いがあることに気づく

公保育者が仲介役となり友達の思いを知らせ、3歳児なりに友達の思いを受け止める事 で保育者とのやりとりが楽しめるように言葉をかける。 も出来るようにする。

巧技台、鉄棒、縄プランコ (雨天時:遊戯室)

47. いるり下がることをプランコに見立てたりと、いるいろな形で幾7の歌でなりとなる形しいるところである。田来た「燐 しい気持ちやゆらゆら描れる心地よさなどを保育者と共有することで次の遊びへの意欲 (挑戦する意欲) に繋 6 月上旬頃から巧技合や鉄棒に興味が広がり始め、挑戦しようとする姿が見られるようになった。サーキット状に設定された巧技台では、色々な運動用具 を使う面白さを感じ始めている。鉄棒では、異年齢児の姿を見て前回り

●いろいろに身体を動かし、飛んだり、まわったり、描らしたり、ぶら下がっ たりする楽しさを感じて遊ぶ。

●保育者と思いを共有して遊ぶ。挑戦する。○設置の仕方や扱い方など安全面に配慮する。

公出来た嬉しい気持ちをたっぷりと受け止めたり、昨日より頑張れた姿を褒め ○☆「やってみたい」と思えるように用具を設定する。

たり、新しい事柄に寄り添うなど個々の姿に応じて言葉をかける。 ◇運動用具を使い、いろいろに体を動かすことができていたか。

フープ (爾天時:遊戲室) 遊ぼうタ

たくさんのフープを持 ちたい子、たくさんのフーブを港べたい子など遊びの様子、触れもう様子は様々である。A児がフーブも転がることにも気づき、保育者のところまで転がそうするが、途中で曲がってしまう。あれれ?とそんなフーブの様子を楽しんでいる。 「ムで扱ったことのあるフープは幼児にとって身近な用具であり、 ●フープをいろいろに並べたり、たくさん運んだりすることを喜んで遊ぶ。

●保育者と関わりを楽しむ。

○振り回さないように注意する、なるべく広い場所で遊べるように環境を整える。 なるべく広い場所で遊べるれたすごさに驚いたり、力強く運ぶ姿を応援したり、フーブを身近に感じて遊ぶ姿 に言葉をかける。 な保育者のところまで転がそうとする姿を受け止めとめたり、届かなかったことを笑い合ったりでき る雰囲気つくり、言葉かけを大切にする。

◇保育者と笑顔で顔を見合わせたりして遊んでいるか。 ◇フーブを並べたり、転がしたり、自分なりに試しながら遊べていたか。

総合遊具 多目的 ~ т 0 なくら 5 AL (2階) 職員室 業が開こえてくるとどんどん遊びの仲間は増え始め、保育者や友達と一緒にいるいるな 体の動かし方を楽しんでいるところである。リズムや音楽を体全体で楽しむ中で、一人 一人の表現の素敵さ、面白きを伸ばしていきたい思いで言葉をかけているところであ ☆保育者自身が笑顔で遊びに参加し、楽しい雰囲気作りを行っていく。 ☆幼児が笑顔で表現遊びに参加する姿を受け止め、気持ちを共有しあえる言葉かけを行 保育室前にデッキを用意し自分たちで表現遊びが始められるようにした。B児は 音楽に合わせて体を動かすことが大好きであり、登園直後から音楽を鳴らし始める。音 に、笑顔で体を動かす姿が多く見られた。その姿を受け

「電車に乗る人いませんか~」縄跳びを車両に見立て電車ごっこが始ま (風天平):湖域大街 (風下) りの製作遊びをする場面もも見られ始めた。自然な形での異年輸児交流を大切にしつつその中で、年長児からいるいろいるな刺激を感じられるように遊びの様子を見守っていきた 広告紙を丸めたものにパロンテーブをつけてもらったものを「シャラシャラ」と名付け、手に持つことを喜んでいる。また、見よう見まねでパロンテーブと雑材料を扱い自分な で何かを作ってもらうこと、年長児の保育室にあるもので自分なりの何かを作ることが

してくれている年長児は大好きな存在であり、年長児の保育室

(兩天時:もみじ組保育室 さくら組保青室)

嬉しい3歳児である。 ス関当初から優

●保育者や友達と同じ場所で遊ぶ(過ごす)ことを喜ぶ。○いつでも遊びが始められるように用具を用意しておく。

●音楽に合わせているいるに体を動かして表現する。

、こに行きますか~」と保育者が投 云えることが多いが、保育者との た。何かを持つこと、身につけることが好きであり、幼児の中で遊戯室においてあった細胞がが電車になる!!とイメージし遊ぶ姿が見られるようになった。1人ではなく、保育者と一緒に乗りたい!!友達と一緒に乗りたい!!と誘 やりとりの中で色々なイメージを言葉にする面白さを知ってほしいところで う場面も増えているところである。「次ほどこに行きますか〜」とげかけると、「あっち!!]と、まだ指さしで伝えることが多いが、)複数で電車ごっこをする際はとくに安全面に留意する。 ●保育者や友達と一緒にある喜びを感じる。 ●電車のイメージの中で遊ぶ。

とこに行く? 」「これは何電車かな?」と遊びの中で保育者からたくさん投 保育者が思い ◇保育者とのかかわりの中で、「○○電車です」「乗って下さい」などの言葉を げかけを行い、幼児のイメージを広げていけるように援助する。 **公入りたい気持ちを持ちつつも遊びに参加できにく幼児には、** を代弁し友達と関わる場面を持てるようにする。

☆出来た!!持って帰る!!だけでなく、製作したもの持って(使って)次の遊びが広げて いけるよう幼児の思いを受け止めたり、保育者から投げかたりしていく。

○安全面に留意し、個々の姿に応じて用具の扱い方を伝える。 もらった嬉しい気持ちをたっぷり受け止め共有する。

○遊びに必要な材料・用具を用意しておく。

|分なりのイメ-ジを広げ製作する。 い。また、自分なりの製作が出来た劇 ていきたい。 ●自分なりのイメ-ジを広げ製作する ●年長児とのやりとりを広げでいく。 ◇年長児に自分の思いを伝え作って貰うことができていたか。 ◇「つくって」「この色がいい」などの思いを年長児に伝えられていたか。

発して遊べていたか。

また、自分なりの製作が出来た嬉しさをたっぷりと受け止め幼児の満足感を満たし

-子どもを主体とした保育 公開園【舞鶴幼稚園】

きく組の開保育指導案

保育者 西野 のぞみ

- . 日時 平成28年6月17日(金)
- 園児数 男児 15名 女児 8名 計 23名
- 3. 学級の実態

進級児 18 名、新入園児 5 名の学級である。4 月は担任や保育室が変わったことや新入園児も加わったことでしばらく落ち着かない様子であったが、保育者や友達との触れ合いや、遊びの中でのやりとりなどを重れ、少しずつ気持ちが落ち着き生活を楽しみ始めている。

(体・生活習慣について)

入園前の様々な生活体験の不足や体の使い方、体を動かす遊びの経験が少ないことで、課題が大きいことが感じられ、昨年度から学級でも様々な活動を経験した。しかし、まだ両足跳びが難しい、姿勢が保持しにくいなど、個人差はあるが様々な課題があり、引き続き楽しく遊ぶ中での体作りができるように工夫していく必要がある。学級活動でリトミック、サーキットなどで様々な動きの経験をし、やりたい遊びの中でも鬼ごっこ、相撲、砂場遊び、三輪車など体を動かして遊ぶことが好きで、十分に楽しめるように考えている。

生活習慣も個人差が大きいが、なかなか気持ちが向きにくかった幼児も意欲的にしようとする姿も出てきており、それぞれが自分なりに取り組んでいるところである。

(人間関係について)

友達や保育者の存在を意識することや、思いを伝える力が育んでいけるようにと 4 月当初から触れ合い遊びを継続して取り組んでいる。誘ったり、誘われたり、時には断られたりしながらも触れ合いの楽しさや友達の思いを感じ、子どもたちの笑顔が多く見られる時間となっている。遊びの中でも気の合う友達がそれぞれに見つかり一緒に遊びを楽しむ姿も多く見られる。 少人数でのやりとりは増えてきたが、たくさんの友達の中では個々の遊びになったり、友達の思いには気づきにく、受け止めにくい為いざこざになったりする。また、集団行動の際、友達を待たせてしまう等マイペースに行動してしまう部分があり、友達への意識の低きも感じられる。

(回然替わらかかわりにしいた)

昨年度から保育者と一緒に世話をしていた赤ちゃんカタッムリに関心を持つ幼児がいたり、ダンゴムシ探しを思い出して楽しんだりする姿が当初から見られた。子どもたちだけで世話を継続するほどの気持ちにはなっていないが、保育者と一緒に世話をする中で関心が深まってきてわり、家の近くで捕まえたカタッムリを持ってきて園で飼育することになった。同じメンバーが世話・観察をすることが多いが、学級でも変化を知らせる機会も作り、少しずつ色々な幼児が関わろうとしている。飼育の際にカタッムリの動きを表現する幼児もおり、おもしろさを極いた他児にもひろがって、

草花に対しても昨年度経験した色水遊びや収集を喜ぶ姿があり、現在は花束作り、花冠作りを楽しむ幼児がいる。

言葉について)

少し発音が不明瞭な幼児がいたり、思いを伝えることに消極的な幼児がいるが、それぞれに伝えたい思いは育ってきている。話しやすい雰囲気を作り、様子に合わせて言葉を補ったり、言葉で知らせることを伝えたりしながら関わっているところである。

描いたり・作ったり・踊ったり)

カタツムリの動きの表現が刺激となり、カエル、チョウチョ、ダンゴムシなど知っている生き物の動きを真似る遊びも生まれた。その表現が増え鬼に入り、カエル鬼ごっこ、かいじゅう鬼ごっこと名付けて楽しむ姿も見られる。

4月の下旬から製作コーナーで遊びを楽しむ姿が見られ出し、のびのびと自分のイメージを表現する幼児が他児への刺激となり、女の子を中心にヘアアクセサリー、手紙作りをしている。着飾って保育者に驚いてもらうこと、やりとりをすることも楽しいようである。

自分らしくのびのびと表現していることや工夫している様子が感じられたところなどを認めていき、一人一人の良さが十分に発揮できるようにしていきたい。

道具や用具の扱いについては個人差が大きく、一人一人丁寧に関わって知らせていきたい。

4. 本日のねらい

○やりたい遊びを見つけて夢中になって遊ぶ。

○友達に思いを伝えたり聞いたりしながら一緒に遊ぶ楽しさを感じる

やりたい遊びの指導案 ④ ◇評価の視、 Ш 公保育者の援助 Щ 黄色帽子 ○環境の構成 # 搬 ねらい 平成 ~ 然

作ったり、作ったものを使って遊んだりす

やりたい遊びの中で自由に製作し、はさみで切ったり、接着剤で貼ったり、折り 紙を折ったりする経験が積めるようにと製作コーナーを設定している。K児が好き な歌手のイメージでアクセサリーを作り始めたことをきっかけに、女の子たちに広 がり、現在は紙に絵を描いたり、掲示してある折り紙の折り方を見て折ってみた 鞄など作りたいものを作ったりしている。また年長組からの刺激もあり、三つ 編み、ねじり編みに挑戦し、それを製作に使う姿もある。できたものを身につけダ ンスをすることや、楽器遊びも楽しんでいる。

- ●自分の作りたいもののイメージに合わせて作る事を楽しむ。
- ●作ったものを身につけ、踊ったり、楽器を鳴らしたりして楽しもうとする。 ○製作しやすいように材料や机などを整えておく。
- ○他の遊びをしている友達にも目が向くように園庭にも製作コーナーを準備する。 **☆それぞれのイメージでのびのび表現する姿や工夫が見られたところなど言葉に** ○天候に合わせて楽器や音楽なども使って表現を楽しめるようにしておく
 - **☆材料に合わせた接着剤(テープ、のり、ボンド)や片付けの仕方を知らせてい** て伝え自信や意欲につなげていく。
- と自分なりに作ったものを言葉にしていた **☆友達の姿に刺激を受けて作ったり、工夫したりできるよう仲介となる。** 「○○を作った」 「何色で作った」
- なりきって表情を作ったり と誘いかけているか。 ◇完成したことが嬉しくて、身につけ笑顔になったり、 しているか。保育者や友達に見てもらいたくて「見て」

昨年の冬、年長・年中が相撲遊びをしていたのを見て、やってみようという刺激に なり年少だった子どもたちも楽しんだ遊びである。今年度、雨天時に遊戯室に行くと 戦いごっこを楽しむ姿に、戦いごっこよりもさらにしっかりと体を支えたり、踏ん ○もする!!」と次々に子どもたちが参加し、色々な友達と触れ合いながら楽しんで

※配天時

いる。昨年よりもどの子もしっかりと踏ん張る力がつき、自分の力や友達の力を感じ

張ったり、相手の力を感じたりする機会となればと思い相撲遊びを誘いかけた。

●勝って嬉しい気持ちや、負けて悔しい気持ちを感じながら何度も挑戦しようとす

ながら「勝つぞ!」と意気込んで何度も対戦している。 ●友達を押したり、押されたり、相手の力を感じながら楽しむ。

(→表現 カタツムリの世語

タッムリへの関心が出てきた。家の近くでつかまえたカタッムリを持ってくる幼児がおり、現在もカタッムリの世話をしている。その際にカタッムリの動きを真似て、殻に見立てた通園鞄を背負い腹ばいで表現する姿に、それを見ておもしろさを感じた他児にも広がっていった。カタッムリを表現する幼児とダンゴムシ、チョウチョなどを表現する幼児が、表現の中でやりと 昨年度から園庭で見つけた赤ちゃんカタッムリの飼育を保育者と一緒に経験し、 りすることが楽しく、色々な生き物の表現をしようとしている。

な変化や様子に気がりく声を拾い、 共殿 したり、着たな気のきにつながるように注目するところを知られたりする。 カタッムリの様子や動きを見たり、触れたりして親しみを持ったり、興味を深めたりする。自分なりにのびのびと表現し、友達や保育者とのやりとりを楽しむ。○世話がしやすいように世話ができるセットを飼育ケースの近くに用意する。

☆イメージが表現しやすいように、カタツムリの動き方を問いかけたり、おもしろい動きをしている幼児を認めたり、一緒に表現したりする。 ◇目、□、体の動きやうんちの色、何を食べたかなど気づきを言葉にしていたか。

どんなところがおもしろいか言おうとしているか。

◇どんな動きを表現しているかや、

達と同じイメージで遊んだり、自然に役割分担ができていることもある。 また砂や泥を使ってのアイスクリームやカレー、納豆ご飯などを作る 遊びで友達や先生とのやりとりを楽しむ姿も継続している。 ●「すべり台」「アイスクリーム」などのイメージを友達に伝えたり、

掘ったり、じょうろで水を入れたりして、水たまりができたり、灰道が 掘っているところとつながったりすることを喜んで遊んでいる。といを 組み合わせて水の流れ方を変えたり、板を使って橋や船、水のすべり台

繰り返しスコッ

暑くなってきた頃から盛り上がってきており、

水を使った砂場遊び

にするなど用具を工夫して使おうとする姿も見られており、その中で友

友達が理解し、同じイメージを持って遊ぼうとする。 ●用具を子どもたちなりに工夫して使おうとする。

●道具や水を運んだり、スコップで掘るなど、楽しみながら色々な体の ○水のすべり台の角度を変えられるようなビールケースや土管なども目 につきやすい場所に準備する。 動きを経験する。

○ごちそうを作り、友達に食べてもらうやりとりがしやすいように、 場の近くに机、椅子などを準備しておく。

Ĭ,

本の部屋

2 階)

雨天時

--4 多目的

ランチル

おみじ

職員室

遊戲室

なしたいと思うことが実現できて嬉しいと思えるように、視線を捉えたり、どうしたいか尋ねてしたいことを把握し、うまく言っていないところはどうすればいいか一緒に考えていく。 **☆自然と役割分担ができている時や、友達と一緒にしたことで遊びが楽** しくなったことを言葉にして知らせ、友達と関わる楽しさが感じられる

になっているか。

◇したいことができて「流れた!」「やった!」などと言ったり、笑顔 ◇友達に「アイスクリームです」「納豆ご飯食べて」など自分のイメー を話したり、友達が作ってくれたことを喜んだりしているか。

三輪車(いろんな道を通ってみよう!)

なしっかりと踏ん張ったり、「勝つぞ!」と意気込んで押したりする姿を具体的に言葉にしていき、意欲や刺激となるようにする。 **☆勝って嬉しい気持ちや、負けて怖しい気持ちを共感したり、何度も挑戦する姿を認**

○相撲のマットは出しやすい場所に準備しておき、幼児とともに設定する。

総合遊具

0

のながいが

に乗ることがとても楽しいようだ。白線で書かれたコースや狭いところを採して進んだり、友達とペースを合わせたり追いかけたり、競争しながら走ったりしている。また、二人乗りの三輪車で友達と一緒に乗ることや、どこに乗るかの取り合いや交代ができずいざこざになったり ●ペダルを漕いで進んだり、ハンドルの向きを変えて曲がったり、足でブレーキをかけたりするなど三輪車に乗って色々な道を進むことを楽 運動面で課題のある子どもが多いクラスであり、昨年度末にようやく乗れるようになった幼児もいた。そのような経緯もあり、今、三輪車 しながらも、喜んで毎日のように遊んでいる。経験していくうちに土山から乗って降りる遊びも盛り上がってきた。

○白線やコーンを使ってコースを作ったり、洗車機やガンリンスタンドなどを、子どもたちのイメージに合わせて子どもたちと一緒に準備を ●友達に「代わって」と思いを伝えたり、聞いたり、速さや距離を競争したりしながら友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。

○進さの競走用に直線のコースを準備しておく。 ○土山から乗って降りる遊びでは、進んだ距離にも目が行き競争につながるように石灰でラインを引いておく。 なコースや人の動きを見て進んだり曲がったり止まったりしている姿に驚いてみせたり認めたりし、次の意欲や遠成感につなげていく。 な自分のしたいことや困っていることを言葉にし、伝えると分かってもらえることを知らせたり、どう言えば相手に伝わるか知らせたりす

☆遠さや土山から下って進んだ距離に驚いて見せたり、保育者も競争に参加したりして、友達との競争につながっていくようにする。

◇コースや人の動きを見て進んだり曲がったり、止まったりする楽しさや達成感を感じて笑顔になっているか。

った※雨天時は遊戯室

展

◇友達を押したり、押されたり、相手の力を感じて笑顔になっているか。

昨年度から楽しんできたパナナ鬼ごっこをルールを守って遊ぶ楽しさを感じてほしいと学級活動で継続して取り組んでいる。走ったり、太道の動きを見て逃げたり、よけたり、思い切り走ったりと、楽しみながら体を動かす事、また友達と一緒に遊ぶ楽しきを買じてほしいとい類いを持っている。やりたい遊びの中で数人が「パチナ鬼したい」と声を上げてもなかなか人数が独まらなかったが、栄養活動で取り上げたけったツ」と呼を上げてもなかなか人数が独まらなかったが、栄養活動で取り上げたことや、かいじゅう鬼(増え鬼)・リンゴ鬼など子どもの姿から出てきたむったが、

☆友達をつかまえることができたことや逃げ切ったことを嬉しく思えるように、保育者も一緒に喜んだ ●追いかけることや追いかけられること、助けることや助けられることを楽しむ。 を感じる子が増えてきている。

なみんなが遊びを楽しめるように、ルールを知らせたり、困ったことがあれば他児に知らせる機会を持っ しい気持ちを言葉にしたりする。 雪

追いかけられたりすることや、助けたり助けられたりすることを楽しみ笑顔になってい ◇追いかけたり、

7

子どもを主体とした保育 公開園【舞鶴幼稚園】

さくら組 公開保育指導案

保育者 坂根 由香

- . 日時 平成28年6月17日(金)
- 2. 園児数 男児5名 女児8名 計13名
- 3. クラスの実態

<生活の様子>

進級児12名、新入園児1名の学級である。4月は進級したことを喜びつつも年長になったことへの緊張や不安な気持ちが見られたりもしたが前年度からの継続したやりたい遊びを楽しむ時間を大切にすることによって気持ちも落ち着き新しい生活を楽しみ始めている。年長になった緊張が喜びに変わりつつある。

<基本的生活習慣について>

身支度や食事については個人差はあるが見通しを持てるようにすることでめあてを持ち自分でしようとする姿が見られるようになる。できることが増えると生活の中で必要なことに気がついて自分でしようとする子もいる。そのような姿を認め褒めることで自信に繋がるようにしている。

< 人間関係について>

気の合う友達とイメージを共有しながら遊びを進めていく姿が見られるようになってきた。自分の思いを伝えたり相手の思いを聞いたりすることができるようにはなってきたが、思いはあるけれどもうまく伝えられない子などまだまだ個人差が見られるので個々に応じて援助している。いろいろな友達(異年齢児)と関わり優しくすることを知ったり親しみを持ち過ごすことで年長になった喜びを感じているようである。

<自然物との関わり>

色水遊びを通して自然物に目を向けることが多くなり草花を集めていく中で様々な虫を見つけ、そこから虫さがしが始まっていった。譲り受けたカタッムリの世話を続けることで4歳児の時のように飼い方に関心がなく死なせていた様子とは違い、親しみを持ち世話ができるようになってきている。
 園外に出かけたザリガニ釣りでは自然の中にいる小動物などの姿を見る良い機会となった。この体験を大切にして自分達で飼育の仕方を考えたり観察していき中で気づきや疑問を持ち調べようとしたり考えてみたりできるように思いを引き出していきたい。

ー人一人が話したい、伝えたいという思いが強く自分の思いを言うこと・聞いてもらうことで満足感を得ていることが多い。その中で相手の思いを聞くことができるように保育者も適宜言葉をかけて意識できるようにする。そうすることでやりとりをしながら遊びが進められるようになってきている。また強い□調や汚い言葉使いなどもあるので場面に応じた言葉を伝えていくようにする。

く描いたり・作ったり・踊ったり>

表現することが大好きであり、いろいろな素材や自然物で自分のイメージしたものを作り、出来上がりを認めてもらうことで満足感を得ている。また友達とイメージを共有しながら作りそれを使ってごっこ遊びを楽しむこともある。

リトミックでいろいろな動きをしていく中で小動物や動物になりきって表現することを楽しんでいる。毎日の日課として降園前当番が好きなものを一つみんなに伝えてそれになりきり表現することを楽しんだ後さよならの挨拶をするようにしている。繰り返しの経験の中で友達からも良い刺激を受けている。その題材として出てくるのはよく関わっているザリガニやカタツムリである。

4. 本日のねらい

- ・身近な生き物に自分から関わり大切にしようとする。
- ・友達と一緒に共通の目的を持って遊びを楽しむ

やりたい遊びの指導案 ◇評価の視点 4 17日 (公保育者の援助 黄緑色帽子 9 H 5歳児 ○環境の構成 28年 なへの쐂 ねらい 平成

ザリガニとの触れ合い・世話

た後脱走したザリガニがいた。どうしたら脱走したのかがわかるんだろうと言い数を数えておいたらいいとみんなで数えることもし触める。今では世籍をすることが生活の一部になってきて「今日はモモチームさんやけど手伝おか」とやりとりが開こえてくるようになる。 ガニが弱っていることに気がついた男の子が病院を作ると言い出した。みんなに聞 返ることでエサが多かったんや・水が少なかったかもと話が出てきくるようになる。 保育者はその言葉を書き留めておき掲示しておいた。そこからザリガニの様子 とする姿が見られるようになる。世話はみんなでしたほうがいいんとちがうと提案 気づいたことや思いを伝え合いコーナーに掲示することで次の世話の仕方にも変化 友達が持ってきてくれたザリガニをみんなで飼うことにしたことから始まったザ リガニとの触れ合い。最初は嬉しくて触りたいばっかりで弱っていても全く気にし ない姿が見られた。そこで振り返りにお世話をするのはどうしてかなと話してみ いてみるとそれがいいとの返事がくる。でも死んでしまった。どうしてかなと振り を観察するようになったり元気がないけどどうしたらいいかを友達同士で考えよう されグループで世話をすることになり今は順番に関わっている。その関わりの中で が出てきて石の置き場所なども図鑑を見てしようとしている。ザリガニ釣りに行っ る。死んでしまうでと言うものの関わり方は変わらなかった。そんな時一匹のザリ

●生き物と関わりながら命あるものを大切にしようとする。 ●自分の役割を知り最後まで世話をしようとする。 ●気づいたことや発見したことを方達に伝えようとする

コーナーを作り今、感じているザリガニの姿を知ることができるように図鑑や絵 本などを置いておく

○ザリガニの体の様子や昨日とは違う姿に気づいた子どもの言葉をを掲示してお ☆グループでの協同的な活動になるように

一人一人の動き方や言葉に周りの子が気 づくことができるように役割を分けることができるように見守り言葉をかけてい **☆活動の中で一人一人の関わり方を見守りながら場面に応じた言葉をかけていく。**

◇昨日と今日の姿の違いやエサの状態・死んでいるザリガニがいないのかなど観察 しながら世話ができていたか。

池の生き物との触れ合い

ザリガニに興味を持ちだした子が園の池でメダカを見つけ網で捕ろうとしていた。するとエビや藻など池に住む生き物が見つかり興奮して保育者に伝えに来る。その喜びを友達にも言ってみたらと投げかけるとどんどん興味を持つ子来る。 来る。その喜びを友達にも言ってみたらと投げかけるとどんどん興味を持つ子達が池の周りに増えてきた。なかなかエビが捕まらずに網には薬が引っかかるばかり、その薬を見てザリガニのコーナーに行き

逃がしたくないそんな気持ちの葛藤が見られる。 ●池の生き物に興味を持ち関わる ●生き物と関わりながら命あるものを大切にしようとする。

◇池にはエビやメダカがいることを知っているが他にはいないかなということ 公エビやメダカを見つけその取り方や見つけた後の思いを聞きながら見守る 公エビやメダカを捕る時に難しかったことや世話の仕方を一緒に調べてみる ○網や虫かごなど用具の準備しておく

◇捕った後、エビやメダカが元気でいるにはどうしたらいいのかを話してみた り考えてみたりしているか。 に興味を持ち始めているか。

◇その動きを観察することでどうしてだろうと思うことを伝えたり図鑑で見よ

うとしているか。

(風天時を) 製作遊び (保育室)

出来上がった時の達成感を味わっている。そんな友達の様子を見て周りの子ども達や3歳紀・4歳児も作ってと言ってきたり真似して作り出していくようになる。「ここどうしたん?」「これ他ったらできたで」などやりとり をしながら製作が進んでいる。また食へ物を作ろうと盛り上がりたこ焼きを作るためにはどんなものがいるのかなと話しながら作っている子もいる。人ごっこ(おかあさんごっこ)ができる環境を作っておくと、そこでここにテーブル置こかと話しながら遊びを進め次ぎはこれがいるかなと見通しが持てるようになってきている。 いろいろな材料を使い身につけるもの(プレスレットや首飾り)を形にしていくことに夢中になって楽しんだり

●友達と考えや思いを出し合いながら遊びをすすめていくことを楽しむ●一緒に作りながら異年齢児との関わり方を知っていく。

◇友達に「これどうしてつくるん?」「こうしたんやで」などのやりとりをして遊ぶことができていたか。 ☆3歳児や4歳児が作ってと頼む姿に子ども達が一緒に作ろうとしたりする姿を見守る。 ☆作りたい材料や道具など─緒に準備しながら使い方を知らせていく。 ○作りたいものが作れる材料や道具を準備しておく。

◇異年齢児の「作って」という要求を受け止めながら一緒に作ろうとしていたか。 ◇自分の作りたいものが自分の作りたい材料で作ることができていたか。

・泥だんご作り 温泉作り

春からしていた遊びではあったが次の展開に繋がらずまたザリガニや、やってみようマップなど他の遊びに夢中になり盛り上がりが継続しなかった。そんな中深く描ることに楽しさを感じ始めた子からその様子が伝わり遊びに変化が見られた。広くしたり二つの温泉をといで繋げて水を流したりする遊びから深さへの興味が加わり深く掲 温泉にも足を入れてみる。その両足を並べてみるとどっちが深いかがわかった。そこから深さ競争が始まりいつの間にか足定規と名付けられていた。一人ではなかなか進まないことがわかり友達に協力を頼んだことから次第にクラスでの遊びに加わって ることを楽しみ出した。その時に保育者の足をその温泉の中に入れると水の線が足に くっきりついた。「これでどれだけ深くなったかわかるかな」ともう一つ作っていた

ゲール

Kの部屋

~ ₩

(2階)

ーム 参田的

ランチル

もみじ

職員室

整膜室

●砂や泥で自分のイメージしたものを作ることを楽しむ。

○といやスコップ・ビールケースなどの道具や用具などを準備しておく。 ●友達や異年齢児と一緒に協力して遊ぶことを楽しむ。

公自分なりに深さや広さをひろげるためにはどうしたらいいのかを考えている姿を見 ◇足じょうぎや手じょうぎで深さはかりをして「もっと深くしてみよう」と友達に思 **公深さが変わるたびに「足じょうぎではかって」という期待する思いを受け止め次〜** 守りそうしてみようとする姿を認めながら達成感につなげていく。 の意欲につなげていけるように関わる。

いを伝え合い掘ろうとしていたか。

◇戴い合うことで友達と協力してやってみようとしていたか。 ◇といやケースなどの道具を使い工夫して遊びを楽しんでいたか。 ◇友達や異年齢児と一緒に言葉のやりとりをしながら温泉づくりを楽しんでいたか。

いろいろな種類の楽器に触れ音を出すことを楽しみだして今は慣れ親しんで きた歌に合わせてリズム打ちをしている。7種類の楽器の音が一緒になるこ とに興奮する姿が見られ自分でやりたい楽器の音をだして楽しんでいる。 ●いろいろな楽器に触れ音楽に合わせて音を出すことを楽しむ。

☆「そのリズムいいね」「鳴らし方が素敵」など具体的に言葉をかけて一緒 に楽しみながらも自信に繋げていけるようにする。 **☆楽器の扱い方を伝えながら楽器から出る音がどんな音か気づけるように言** 葉をかけていく。

く組からのバナナ鬼が5月まで継続し楽しむ姿がみられていたが最近

(雨天時は遊戯室)

ドッジボーグ・おにバット

47

総合遊具

ないた。のほり春

0

を決めて対決し勝敗が分かりはじめてきているので楽しさも膨らみ始めているようだ。小さないざこざはあるが自分道で解決しようとしたり一人一人の思いをみんなで共有する姿も見られるようになってきたいる。 ではバナナ鬼にこだわることが少なくなってきた。そんな中、友達と一緒にチームでの遊びを楽しんでほしいという願いから保育者がどろけいを投 げかけるも興味がなく楽しさを見い出せていないのかやりたい遊びには今 姿は昨年度から継続していて「今日は何する?」と話し合って決めてい る。ドッジボールは時々するぐらいだったが、自分達で線を引きグループ は繋がっていない。1日の中で必ず1回はみんなで遊びを楽しもうとする

●友達と一緒にルールのある遊びを楽しむ。

○十分にボールを投げたり、鬼ごっこで逃げたりできるように環境を準備 ●友達と思いを伝え合いながら遊ぶことを楽しむ。 ●めあてを持って遊んでみようとする。

☆子ども達でしてみよう・やってみようとする姿を見守りその思いをめあ てとして意識できるように言葉をかけていく。(今はボールをうけるこ しておく。

◇ボールを受けることを積極的にやってみようとする姿が見られていた

くようにする。

ないざこざが起きても子ども達が話し合おうとしている姿を見守り声を聞

○楽器が十分に鳴らせる広さを作り置くようにする。

◇自分の鳴らしたい楽器に十分触れて音を楽しむことができていたか。

子どもを主体とした保育 公開園 (朝来幼稚園)

さ(ら組(年少) 公開保育指導案

担任 藤本 友美

- 1 日 時 平成28年7月15日(金)
- 2 園児数 男児 14名 女児 8名 計 22名
- 3 学級の実態

4月当初より慣れない環境の不安から、泣いて登園する子や入室を拒む子が数人いたが、個別に関わっていくことで少しずつ信頼関係ができてきた。今では、安心して幼稚園生活を楽しむ子が増え、色々な活動や遊びに興味を持って行動している。

〈健康〉

力和型

生活習慣には個人差があるものの、生活の流れが分かるようになってきており、教師の助けを得ながら、身の回りのことに意欲的に取り組む姿が見られている。その一方で「できない」「次は何するん」などの戸惑いがある子もいるので、一人一人に応じた支援を心がけているところである。

〈人間関係〉

友だちのしていることに関心を持って見ている子、まねをして遊ぶ子、一緒にごっこ遊びをする子などの姿が見られるようになってきた。しかし、自分の思いと違うときやほしい物の取り合いでトラブルになることもある。その中で「~したらあかんで」「痛いでやめなよ」と友だちの立場に立って声かけをする子も出てきている。

思いを言葉や態度で伝えようとする姿を受け止め、温かく見守りながら子ども同士の関わりを つないでいきたい。

〈環境〉

年長組や年中組の子が生き物の世話をしている姿に興味を持ち、傍で見て、教えてもらったことや初めて知ったことなどを教師に話しに来る子がいる。

最近では、カニやザリガニの本を開き楽しむ姿や、庭にいるダンゴ虫探しに夢中になり生き物への関心が深まってきている。

また、ブルーベリーの実を食べたい子も多く、登園後、実が紫になっているか観察している子もいる。スイトピーの種を収穫し、秋に種まきをすることを楽しみにしている。

〈言葉〉

友だちを誘って一緒に遊べるようになり言葉のやり取りが増えてきている。遊びや生活の中で の必要な言葉をその都度教え、会話が楽しめるようにしている。

絵本の読み聞かせが大好きで、読んでほしい本を持ってきたり、話の中で好きなところを話 したりする子もいる。

話をしたり聞いたりする中で色々な言葉との出会いを大切にしていきたい。

〈表現〉

歌やリトミックなどの音楽遊びが大好きで、リズムに合わせて歌い、感じたとおりに表現し楽しんでいる姿が見られる。

砂遊びから泥遊びへと発展し、園庭に雨水がたまり、池のようになったことに気付き、海づくりをはじめた。「山から水を流したい」「道もつくるよ」と話をしながら友だちと一緒に遊んでいる。 泥や水の感触を十分に味わわせながら、日々楽しく遊ばせたい。

平成28年度 乳幼児教育ビジョン推進事業 【子どもを主体とした保育】朝来幼稚園 公開保育 平成28年 7月15日(金) 9:30~11:00

友美

評価の観点

公開保育 任】 藤本		評価の			・自分の思いえようとして、次への期待	2412		
朝来幼稚園 2名 【担		指導上の留意点	・子ども達が困ったことや 自分の思いが言える雰囲 気を作る	・水遊びの約束事を事前に 知らせておく	・子どもの思いに耳を傾け、 次の活動への意欲をもた せる			
年度 乳幼児教育ビジョン推進事業【子どもを主体とした保育】 年 7月15日(金) 9:30~11:00 さぐら組	₽	予想される幼児の姿・反応	・他のことに興味をもち、その場を離れる子もいる れる子もいる ・チげでキャブン芯バをオスエキいス	いる、マティーのできっている。 ・順番が守れなかったり、同じ物を使いたくてトラブルになることもある	・今日の遊びを振り返り、自分がして いたことや思ったことを話す	・自分で使っていた物を片付ける ・片付けを途中でやめて、入室しよう	とする・・自分で着替えをする	
3年度 乳幼児教育 3年 7月15日(金) さくら組		主な活動			〇振り返り	0片付け	~教室~ 〇着替え	
平成28年度 平成28年 7 3歳児 さくら	ารช	開組			10:40			
園 公開保育 [担任] 藤本 友美		評価の観点			・広い海を作ろうと	関心をもっている	・自分の思いか言 葉などで伝えら れている	・水や泥の気持ち 風水や隠じながら 回度も触ってい る
朝来幼稚園 2名 【拒		指導上の留意点	・音楽をかけることにより、 集会が始まることを知り、 広場に集まれるようにする	トンネルを作りた。。4	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	めながら、今日も楽しく遊 べるように話をする	準備物水をンク、	ルル () かなど に動する楽 まうにする きや動きを る言葉をか のように
ごジョン推進事業 【子どもを主体とした保育】 9:30~11:00 男児:14名 女児:8名 合計:2:	₽	予想される幼児の姿・反応	・集会に参加するために片付けをし、 広場に並ぶ ・体を動かしながら、歌や英語遊びを ※ 「 *、	・周りの様子を伺っている子もいるトン	道つくりたい 水入れするわ	・何をしたいか話し始める	・着容えかできたら、暑んで外へ行く	・海を大きくするために、スコップ や手で穴を掘る の道具に水をくみ海に流す したいことや思いを友だとと会話を しながら楽しさ子もいる ・水が流れる様子が嬉しくて、水路を 増やそうとする 部もうかべたいな 部もうかべたいな おるで ・ のますのなど)をしてみようと する ・ はなな素材で作った魚や船、身近 な自然物を水の中に浮かべてみる な自然物を水の中に浮かべてみる な自然物を水の中に浮かべてみる な自然物を水の中に浮かべてみる な自然物を水の中に浮かべてみる な自然物を水の中に浮かべてみる な自然物を水の中に浮かべてみる な自然物を水の中に浮かべてみる な自然物を水の中に浮かべてみる
8年度 乳幼児教育ビジョン推進事業 8年 7月15日(金) 9:30~11:00 さくら組 男児:		主な活動	〇集会・歌を歌う		・排泄・水分補給をする・出欠確認・日欠確認・今日の活動の話	をする	· 青晉 A - 園庭 ~	(大きな 海を作ろう) ・
平成28年度 平成28年 7 3歳児 さくら	いらみ		0:30					00:00

・自分の思いを伝 えようとしている ・次への期待がも てている

教師の環境構成

子どもの思い

子どもを主体とした保育 公開園 (朝来幼稚園)

ばら組(年中) 公開保育指導案

担任 梅本 佳恵

- 1 日 時 平成28年7月15日(金)
- 2 園児数 男児 10名 女児 9名 計 19名
- 3 学級の実態

4月当初は、新しい生活に楽しみを持ちながらも、不安を抱き確認を取る様子が見られた。 園生活の一日の流れが分かるようになると、自分からやりたい遊びを見つけて遊ぶようになってきている。

〈健康〉

TANK!

身の回りの始末や片付けなど自分のことは自分でしようとするが、時間がかかったり最後までできないことが多かった。日が経つにつれて自分のことは自分でやらなければという意識がでて、以前より早くできるようになってきた。

運動面では個人差があり、様々な課題が見られるため、サーキットや鉄棒など体全体を動かせる活動を取り入れているところである。。

〈人間関係〉

4月当初は、一人で遊ぶ子、教師の傍にいる子などもいたが、友だちへの関心が出てきて、気の合う友だちと一緒に遊ぶ姿が見られるようになってきた。その中で、自分の思いを強く出そうとする子がいて、トラブルになることもある。

自分中心の思いだけで行動するのではなく、相手にも思いがあることに気付かせ、友だちとのかかわりを大切にして、仲良く協力して遊べるようにしていきたい。

〈環境〉

ザリガニやクワガタなど身近な生き物を家から持ってきたことで、生き物に対する興味が広がり、自分達で世話をするようになった。偶然にも青虫が成虫になる姿を見たときには「わあ、チョウチョになった」「せんせい、見に来て」と部屋中で大喜びの歓声が上がった。

生き物を観察しながら不思議に思ったことや分からないことを図鑑で調べ、成長や変化を楽しんでいる。

〈言葉〉

発音が不明瞭な子や友だちとかかわって遊ぶのが消極的な子がいるが、気付いたことや楽しかったことは、友だちや教師に話したいという思いが強い。一人一人に合わせて教師が言葉を補うことで少しずつ元気に友だちとかかわれるようになっている。

絵本を好み、自分達で読んでほしい絵本を選んだり図書室で絵本を読んだりしながら絵本の時間を大切にしている。

〈表現〉

絵を描くことがとても好きな子が多く、じゆうがちょうや部屋に置いてある紙に自分の思いのまま楽しんで描いている。ザリガニやカメのえさについても自分で感じたことや思ったことを自主的に描いていた。

外遊びは、砂と赤土の性質の違いに気付き、水を含ませたり泥団子を作ったりして泥遊びを楽しんでいる。 また、年少組の海づくりの活動を見て、「赤土を入れたらかたまるよ」と教えに行く子や赤土をパラパラとかけてやっている子がいる。そうして砂遊びをしている中で船づくりに発展していき、自分達でイメージを共有しながら楽しんで活動している。

平成28年度 乳幼児教育ビジョン推進事業 【子どもを主体とした保育】朝来幼稚園 公開保育 平成28年 7月15日(金) 9:30~11:00 4歳児 ばら組

5	主な	[泥団子を て		<u>. </u>	〇振り返り	; ;	O 产 产	~数 を を を を が						
おふこ	時間			!	10:40									
遊びを楽しむ	評価の観点			・今日の活動に興 味をもって関わろ うとしている			・砂、大、泥に触た ・酸性を味わいな がら、その性質	をとらえている						
したり、比べたりしながら、泥	指導上の留意点	・音楽をかけることにより、ス ムーズに広場に集まれる ようにする			する ・困ったことや手伝ってほし いことなど、自分の思いが 言えるように促す		スコップ、バケッ、型など、自分で出し入	れできるように配置	・なんで固まったのか、赤土 と砂とどう違うのか、比ぐ られるような言葉がけを する		自分で足が洗えるように足洗い場をセッティングしておく	・子どもが気づいたこと、感じていることを にないることを思述さずに って、 - 幸祉をいける	8603の自業を2017の ・子どもたちの発想の広がり を大切に考え、遊びが発 展していけるように手助 けする	
砂、土、水などの感触を知り、友達と一緒に試したり、比べたりしながら、泥遊びを楽しむ	予想される幼児の姿・反応	・集会に参加するため、広場に各自 集まり整列する ・体全体でリズムをとり、歌ったり踊 ったり楽しく参加する	・各自、排泄・水分補給をすませる	・今日の予定を確認し、自分たちがしたい遊びのイメージをもつ	・早く遊びたい気持ちが強く、着替え終わったら喜んで船の所へ行く	を作ろう】	・砂や赤土に水を混ぜたり、固めたり することで、様々な土の違いに気づき、感触を楽しむ	カチコチやあ~	国まってきたな 気持ち いいなあ	・砂で作った船が壊れないように土選び、砂のかけ方、カ加減を工夫	している ・家庭から持参した材料で作った旗 や自然物などで船に飾りをつける	さら砂相当! おぶ おぶ タもト	能長は00~~ ある~ はない船が1番号	
	主な活動	〇集会 ・歌 ・英語遊び		~クラス入室~ 〇朝の挨拶 ・出久確認	〇泥遊び用の服に 着替える	~園庭~ ○泥遊び 【硬くて壊れない船を作ろう】		まいぶょこぶん				ゆり組さ んものせて あげよな	うみもいるで	>
おらい	時間	9:30			10:00	10:10								

l-	【担任】 梅本 佳恵 泥遊びを楽しむ	評価の観点	・出来上がっていく 泥団子や船に喜 びを感じている	・友達の話にも顕 味をもって聞き、 次の活動へ期待 をもてている		
呆育】朝来幼稚園 公開保育	i 合計:19名 【推 したり、比べたりしながら、泥i	指導上の留意点	準備物・・・ペットボトル、・・・スットボトル、 トユ、 バケッなど	・楽しかったことや気づいた ことを振り返られるように 話をする ・この後どうしていきたいか、 次へのステップになるよう に話を進める	・年少組の片付けを手伝っている姿を見逃さず、感謝 の気持ちを伝える	
:ジョン推進事業 【子どもを主体とした保育】 9-30~11-00	いエ/ 5:30 11:08 女児:9名 合計:19名 【担任】 梅本 別:10名 女児:9名 合計:19名 砂、土、水などの感触を知り、友達と一緒に試したり、比べたりしながら、泥遊びを楽しむ	予想される幼児の姿・反応	・様々な種類の土で泥団子を作り、 土の色や質感の違いに気づく ・作った泥団子を転がしたり、水を 流したり、友だちと強度や転が る速さを比べたりする も成がりやすい角度を考えなが ら、坂作りをする ・砂や泥、自然物などでカレーや ケーキを作り友だちに振る舞う	・自分がしていた遊びや楽しかったことを自分の言葉でみんなに伝えようと意欲的に発表する	・使った道具は、水洗いし、元の場所 に片づける ・自分で足を洗い、教室に入って着 替えをする	・着替えが終わったら、絵本を見て静かに待つ
平成28年度 乳幼児教育ビジョン推進事業 平成28年 7月15日(金) 9·30~11·00	· - - -	主な活動	【泥団子を転がして遊ぼう】	〇振り返り	O 片付け #	〈 ○ 強権 ~ 六
书供:	生恵 4歳児 1000 1000 1000	時間	がこ興 関わる 5	10:40	に触れ っしな でする	NG
	411	見点	が関	ı	頃の世	

教師の環境構成

子どもの思い

子どもを主体とした保育 公開園 (朝来幼稚園)

ゆり組(年長) 公開保育指導案

担任 林 裕美子

- 1 日 時 平成28年7月15日(金)
- 2 園児数 男児 5名 女児 9名 計 14名
- 3 学級の実態

あこがれていた年長に進級し、自分の得意なこと、好きなことには意欲的に取り組む一方、緊張や不安を感じる姿も見られたが、グループ活動、当番活動を通して、仲間意識も芽生え、お互い助け合いながら楽しく生活している。4月から逆上がり、縄跳びに力を入れ、毎日取り組む中でほとんどができるようになってきた。

〈健康〉

身支度、食事については、個人差があり、自分で気付き、見通しを持って進めようとしている子が多い中、数名においては、言葉かけが必要な場合もあった。2ヶ月が経ち、周りを見て合わせようとする姿も見られ、生活の中で必要な事に気付きはじめている。

運動面では個人差があるので、できるだけ外で元気に遊ばせ、鉄棒にぶら下がったり縄跳 び遊びをして進んで体を動かすことができるように声かけをしているところである。

〈人間関係〉

大きなトラブルもなく、気の合う友だちと好きな遊びを見つけて楽しむ姿が見られる。その中でも、自分の思いを伝えられる子とうまく伝えられない子があり、まだまだ見守り、声かけなどの支援が必要である。

グループ内で助け合ったり教え合ったりする姿もあり、友だちが上手くできたこと、できるようになったことに対して、素直に「すごい」と褒め合い、自分もできるようになりたいと思い、頑張って練習したりできるという自信につながったりしている。

〈環境〉

畑や園庭にひまわり、ゴーヤ、万願寺とうがらし、さつまいも、プチトマトなどを植え、毎朝、水やりをし生長を楽しみにしている。春には、昨年植えたイチゴが赤くなって大きな実になったので、毎日収獲し、食べることの喜びを味わった。栽培への興味は深い。4月から、ザリガニやカニの世話を通して生き物の生態に興味を持ち、自分達で飼育の仕方を考えて世話をする中で気付きや疑問が生まれてきている。

〈言葉〉

自分の思いをスムーズに言葉にして話ができる子と単語だけで話す子や言葉が不足していて、友だちに自分の思いがきちんと伝わらない子がいる。ゆっくり話を聞いてあげるようにしながら教師が言葉を補い、話している子が話ができてよかったと思えるようにして自信をつけていきたい。また、一日の振り返りなどで話す機会を作り、友だちの前で話ができるようにすると共に話している人の思いをくみ取りながら話が聞けるようにしていきたい。

〈表現〉

歌がとても好きで、すぐに覚えて友だちと楽しく歌ったり、楽器に慣れ親しんだりしている。小ミックでは、リズムに合わせ、体で表現を楽しんでいる。

暑くなり水遊びからシャボン玉に発展した。既成の物では物足りなくなり、自分達で道具を作るようになった。活動が楽しくなりはじめ、自分の工夫した道具で遊んでいる。中には友だちの飛ばしたシャボン玉を見て「シャボン玉のシャワーみたい」と満面の笑みを浮かべている子もいる。

平成28年度 乳幼児教育ビジョン推進事業【子どもを主体とした保育】朝来幼稚園 公開保育 平成28年 7月15日(金) 9:30~11:00 5歳児 ゆり組

【担任】 林 裕美子	評価の観点 ・集かの時間に気 づき自分たちで 広場に集まれて いる ・今日のめあての イメージができて いる	・自分たちで進んで 考え、準備しよう としている ・グルーブで協力し あい助け合い ながら作っている ながら作っている	・シャボン玉を作り たばずことで、 米や池の仕覧や 不用議さを感じて いる
::14名	指導上の留意点 ・音楽をかけ、スムーズに 広場に集まれるようにする ・ ぬるま湯、 のり たらい等 ・ 今日の活動について話をし 期待が高まるように声かけ をする。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	いつでも確認できるように量や手順を貼り出 しておく ・子どもたちのつぶやきや 発見を見逃さず、認める 言葉をかける ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・自分の作りたい物のイメージをもってエ夫している姿を認める を認める 長細いのに、何で まるくなるのかなあ ・子どもたちの驚きや発見に ・子どもたちの驚きや発見に ・子ともたちのなった。 ・子ともたちのなった。 ・子ともでいる。 ・子ともできる。 ・子ともでいる。 ・子ともできる。 ・子ををはった。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
9:30~11:00 男児:5名 女児:9名 合計 の不思議さ、面白さに気づき、作ることを楽しむ	予組 ・お互い声 ・お互い声 並ぶ	## 1	・シャボン玉とばしをする 長 ^編 大きなシャボン玉 になあれ たか一くとぶかび
7月15日(街) bu組 - ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	「 (シャボン玉の楽しく単ほう) ◇園歴→ ○シャボン玉液を ・グァ キる ・グレ かっ やす やす もか もか ・グレ かた かた かた かた かた かた かた かた かた かた	○実際にとばして みる
+ 成28年 5歳児 6 おらい	- 中国	10:00	10:20

平成28年度 乳幼児教育ビジョン推進事業【子どもを主体とした保育】朝来幼稚園 公開保育 平成28年 7月15日(金) 9:30~11:00 5歳児 ゆり粗 男児:5名 女児:9名 合計:14名 【担任】 林 裕美子

	評価の観点		自分が発見したことや思いを言葉で伝えられている。	・・・。 ・ 友だちの意見を 聞き自分の思い と照らしあわせて いる	
を楽しむ	指導上の留意点	・子どもたちの多様な気づきを認め称賛し、気づき きを認め称賛し、気づき を共有させる	・各グループの作り方を認め たり、気づいたことを評価 する	・自分が気づいたこと、不思 議に思ったこと、発見した ことを振り返らせる	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
シャボン玉の不思議さ、面白さに気づき、作ることを楽しむ	予想される幼児の姿・反応	・ピのグルーブの液が割れにくいか 比べてみる ・ピ人なが ・ピんなは 重ができるが、いろいろ試している ・ジャボン王の大きさや数、とぶ 高さや距離などを友達と競い合っ ている	・自分がシャボン玉液を作る上でエ 夫したこと、発見したことを伝えよ うとする	・みんなで協力して作れたことを話す ・困ったことや次にやりたいことを話 す	
	主な活動		〇振り返り 感想交流		O片付け
ならい	時間		10:40		

子どもの思い

教師の環境構成

子どもを主体とした保育 公開園【うみべのもり保育所】

4名 女児 8名) [担任] 坪倉 宇野 水口 久保 うみべのもり保育所 成28年9月13日(火) 9:30~11:30 う。 表現 はな組 【11ヵ月~1歳4ヵ月】12名(男児)歳児 はな組

子どもの姿~遊び・生活・発達~

[生活]

○お腹が空いた、眠たい等の生理的欲求を泣いて訴えたり、「アー、アー」 「マンマ」等、片言で伝えようとする姿が見られる。

〇自分でコップに手を添えて飲めるようになってきた。

〇手づかみや、時々スプーンを使って意欲的に食べる子が多い。





11ヵ月~1歳2ヵ月

[発揮]

Oはいはい、伝い歩きで自分の行きたいところへ行き、自分で玩具を選んで手に 取る。歩き始めたばかりの子は、不安定ながらも自由に移動できることを喜んで、 活動範囲を広げている。転んでも、すぐに立ち上がって、また歩き出す。歩きはじ めで両手はまだバランスをとって歩き、体の下には下りていない。 〇玩具を棚から引っ張り出して全部バラバラにする。玩具をロに入れて舐めたり、 玩具を叩き合わせたりする。

O「アー、アー」と声を出して自分の思いや欲求を喃語や身振り、泣いて知らせる。

〇食べ物を目で見て、手づかみで感触を確かめ、口に運び、意欲的に食べている。

〇好きな保育士のところへ自分からはいはいなどで移動して来て抱っこを求めたり、「アー、アー」と声を出して保育士を自分のそばへ呼ぶ。

〇歩行が安定し、自分で行きたいところへ行き、自分で玩具を選んで手に取る。

1歳2カ月~1歳4カ月

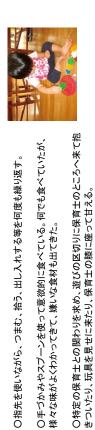
〇「アー、アー」「コー、コー(抱っこ)」「ワンワン」「マンマ」など声を出して自分の思いや欲求を片言や身振りで伝えようとする。

○同じ種類の玩具を集めて手に持ち歩いたり、他児が持っている玩具を触ったり、引っ張ったりする。引っ張られると、「イー」と声を出して拒否したり、泣いたり、引い張のたりする。引っ張られると、「イー」と声を出して拒否したり、泣い

て保育士の顔を見て訴える。







〇手づかみやスプーンを使って意欲的に食べている。何でも食べていたが、

様々な味がよくわかってきて、嫌いな食材も出てきた。

〇指先を使いながら、つまむ、拾う、出し入れする等を何度も繰り返す。

うみべのもり保育所 8、「甲 日 4名 女児 8名) 【担任】坪倉 宇野 水口 12名(男児 平成28年度 平成28年9月13日(火)9:30~11:30 0歳児 はな組 【11ヵ月~1歳4ヵ月】12:

子どもの姿~遊び・生活・発達

久保

「対点」

11ヵ月~1歳2ヵ月

〇箱の中の物、棚の中の物を出したり、ひっくりかえしたりしている。

〇玩具を手に取って口に入れ舐めている。

〇玩具を両手に持って打ち付けたり、叩き合わせたりしている。

○歩きはじめたところで、一人歩きをしようと意欲的に自分から立ち、歩く。 転んでもすぐに立ち、笑顔で歩く。

〇手押し車を押して歩くが、途中で膝をついて、膝をつきながら押して進

〇戸板やすべり台を自分の力で登る。すべり降りる時に階段の方へ頭か ら降りようとしたり、斜面を頭から滑って降りる。

〇音楽が流れたり、保育士の歌が聞こえると、笑顔になり拍手をする。









1歳2カ月~1歳4カ月

〇手押し車を押して歩く。方向転換が難しく、直線で走ることが多く、物や壁に当 たって止まる。 ○戸板やすべり台を自分の力で登ったり、降りたりする。登って上で立ち上がり、危 なっかしい。

〇他児が使っている物を触りに行ったり、引っ張って自分で使おうとする。

〇引っ張って歩く玩具を、玩具が倒れながらも引っ張って歩く。

〇ぽっとんと落とした後、下をのぞき込んで見ては、また上からぽっとんと落とす。

〇入れる穴に合わせて集中して入れようとしたり、入れた物を腕を入れて取り出そ 〇出してばかりだったのが、入れたり出したりを繰り返すようになってきた

り、保育士の歌声に会わせて体を上下に揺らす。時々、「あっ」「おっ」など声が出る。 〇音の鳴る太鼓やマラカスを自分で手に取り、振って音を出し楽しむ。音が流れた

9:30~11:30 【11ヵ月~1歳4ヵ月】 0歳児 はな組 12名(男児 平成28年9月13日(火) うみべのもり保育所

遊びのねらい	・安心できる保育士と- ・いろいろな素材に触れ 遊ぶことを楽しむ	緒に好きな遊びを楽しむ ひたり、様々なものを手にとっ	・安心できる保育士と一緒に好きな遊びを楽しむ ・いろいろな素材に触れたり、様々なものを手にとって指先を使ったり、出したり、入れたりを繰り返して 遊ぶことを楽しむ	れたりを繰り返して
時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
9:30	・子どもが自由に玩具 を選んで遊べるよう、 取り出しやすいように しておく。	・気になる玩具のところへ 行き(歩いて、伝い歩き、 ハイハイ)おもちゃを棚から 引っ張り出す。	・子どもが自分から玩具や遊びを選び、関わろうとする姿を優しい笑顔と語りかけで見守る。	・自分から行きたいと ころへ行っているか。 (歩行、伝い歩き、ハイ ハイ)
	・手、指を使った遊び を田音する	・つまむ、握る、入れる、出す、叩く、振る、めくる。	・ 田田 記勢 おケボだど 安全	・自分から様々なもの に手をのばして触った りし、関わっているか。
	ェルあって。 ぼっとん落とし 太鼓 マラカス	・両手に持って打ち付けた り叩き合わせたりする。		・手、指の状態 (全ての指で握る親指 と人差し指でつまむ)
	つまむ・引っ張る等。	・玩具の入っているカゴを ひっくっり返してばらまく。	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・両手に持って打ち合わせているか。
	・体をつかった遊びを 用意する。 日柘すべい会	・玩具を手に取って口に入 れ、舐める。	、したり、ばらまいたりしても叱ったりせずに、この時期ならでは の多と起す 安全面に含まって	・玩具を触って肌や口で確かめているか。
	すべいか、これでも	・ひとつやってみるごとに、 できたと保育士を見て自 分で拍手をする。	ひみになれ、マエ面でなどでけ、すばや〈集めて元に戻す。	・中から出す行為を繰り返しているか。
		・うまく穴に入らない時に		・入れたり、出したりを 繰り返しているか。
		よ、 ア~、ア~」と声を出 して保育士の顔を見て訴 える。	・一人でじっくり遊んでいる時には静かに見守り、子どものできたの訴えには目を合わせて禁なった。	・最後に「できた」の訴えを保育士に伝えているか。(保育士の顔を
		・階段や斜面を自分の力で多スティナス	く 夫與 ぐ心え、「ぐぎたね」」 じょうず」など言葉を添える。	見る)
				・のそき込んだり、触っ てみたり、何だろう?と 興味を示しているか。
		७. ᅬ_	・イともの片言や身ふりなどに 対して保育士が子どもの思い を汲みとり、それを言葉にして 返す。	・困った時には保育士 に助けを求めている か。
		に行ったり、引っ張ったり する。		指差し、身振り、表情、「あー、カー」など
		・「あーあー」「ば」などの片・ 言や、言葉で言い表せな ないーレイン ウシの気 はっしゃい ロジャン はいっちゃん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん いっかい かんりん はんしょいい	まだまだ歩行が安定しないので、そばについて支えたり転ぶたれた。	の片言などで目分の 気持ちを伝えようとし ているか。
		でしてなこ、ロハンメバザン を指差しや身ぶりなどで伝えようとする。	전 (V.) > o	・他児の姿に関心を持ち、近づいていこうとしているか。
		・周りの様子や他児に目を向け、興味を示し近づいていく。他児の持っているおもちゃをからおもちゃを触ったいるおもちゃを触ったり、引っ	・他児にぶつかったり、スピードが出すぎて転んだり等しないよう、方向転換の手助けをする。 よう、方向転換の手助けをする。	・他児の玩具を触った り、欲しがったりする姿 を見せているか。
		張ったりする。・自分の囲いを声や表情		保育士とのスキンシップを喜んでいるか、
11.30		で知らせようとする。	サンナーンのオナカビティス	۰٫۳
-		・保育士に抱っこを求めた り、膝に座ったりする。	・日イにい気持っを受け止め、 触れ合ったり、あやしたりしな がら愛情込めて関わる。	

「海ので

成28年度 成28年9月13日(火) みべのもり保育所

> 久保 大口 計

[担任]坪倉

8名) 女児 4名

【担任】濱田·水谷 1歳11ヶ月~2歳5ヶ月 12名(男児 6名 女児 6名)) 9:30~11:30 1歳児 ほし1組

子どもの姿~遊び・生活・発達~

○広事では手づかみやスプーンを使って、好きな物は自分で意欲的に食べており 苦手な食材も出てきて保育者の援助で食べたりしている。果物や豆の皮をむくこ とに興味があり、自分でむいたり、むいてみようとしている。 のひとりでズボンがはける子、保育者と一緒にはいてみる子様々である。自分で ロッカーから服を取り出したり、「これ・」と着たい服を主張する姿もある。 しの人差はあるが排尿間隔も長くなってきて、トイレに誘うと嫌がらず行き座って いる。その姿を見て他児も座りたがる姿もある。 ○毎日繰り返される言葉や動作は覚えてたが、場面に合った発語をしたり、片付 けが始まると手を洗いに水道に近づいたりいる。 〇手洗いでは、自分で泡石鹸を出したり、水道の蛇口をひねれるようになってきた。

(発達)

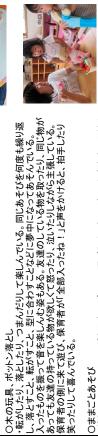


○自分のしたい事、してほしい事を言葉で表現する子、言葉でまだ伝えれない子は 指差し、身振りなどで伝えようとしている。 ○生活やあそびの中で「自分で」「自分の」「いや」と強く自己主張するようになって きた。 の保育者や周りの子の行動を模倣したり、同じ物を欲しがったりしている。 の語彙が増え、言葉を盛んに真似したり、発音も明瞭になってきている。 の指先の機能も発達してきており、力を込めて押さえたり、ひっぱったりしている。 〇重霊のある物を持ち上げようとしたり、積んだり、全身の筋力を使い身体のバ ランス感覚も発達してきている。





で保育者に伝えようとしている。





しままごとあそび



・ボウルにフェーンリングを入れスプーンで混ぜたり、ジャラジャラと音を楽しんだり 食べる真似をしてあそんでいる。人形とおんぶひもを持って「せんせ~」「して」とお んぶして欲しいことを伝えてくれる姿がある。おんぶしてカバンを持って部屋を歩き 間別、みつけた玩具を入れたり、保育者が「いってらっしゃーい」「お買い物いくの?」 など語りかけると「バイバーイ」と手を振ったり、ガ、ツの中味をみせてくれる。人形 を寝かしつけたり、目分だちが普段してもらっていることを再現したり見立てたりして あそぶ様子もみられてきた。段ボールの乗り物に乗ったり、年乳パックの積み木を 詰め込んで運んだりしてあそんでいる。

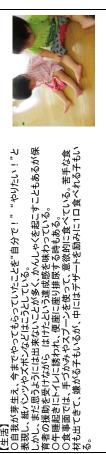
子どもを主体とした保育 公開園【うみべのもり保育所】

平成28年度 平成28年9月13日(火) 9 うみべのもり保育所 1

感触あそびや見立てあそ

海グのなら

うみべのもり保育所 1歳児 ほし2組		【生活】 (1) (1) (1) (2) (2) (3) (3) (4) (4) (5) (5) (5) (6) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	つ口枚2/大川グ・1 吊い アンいちひつい
12名(男児 6名 女児 6名) 【担任】濱田·水谷	びを通して保育者とのやりとりを楽しむ		
ш	S		l



4名) 1歳6ヶ月~1歳10ヶ月 【担任】鎌部·宮田·松岡

子どもの姿~遊び・生活・発達 女児

二

15名(男児



【発達】 ○歩行がしっかりしてきて行動範囲が広がり、自ら環境に関わろうとする意欲が

まっている。

◇手指でつまんだ り、のばしてみたり、 ちぎったりしている

・ロに入れようとする子には、 入れないよう見守ったり声か |けをする。

・自ら触りに来て楽しむ子・ や保育者と一緒に触る 子、していることに興味を もって近寄ってくる子がい る。

*スライム、カップ、 相、ブルーシートを用・ 着してお、 であそべるようスライ・ なを付っておく。 なっておそぶ子、 ・ かせ、初とブルージー かせ、初とブルージー かせ、初とブルージー かせ、初とブルージー かせ、初とブルージー かせ、初とブルージー ないを加養する。 ・を用養する。 ・を用養する。 ・を用養する。 ・ たがまれたら拭く用・ の足ふきマットを用意

◇何度も繰り返しさ

わっているか

自分からさわり 評価の観点

◇自分からさ 行っているか

育者も一緒に楽しみながぷにぷに、とろ一ん、やわ

保育者の援助と配慮

予想される幼児の姿

《前室側テラス》

9:30 開出

環境構成

ら、ぷにぷに、とろーん、やわらかい…など感触を感じられる言葉が17をある言葉が17をする。

〇スライムであそぶ。 ・スライムを指先でちぎったり、のばしたりする。

◇驚いたり、見てほ しいことを言葉や表情で伝えようとして

・無理にはさそわず、興味をもって見に来るタイミングを大切にし、声をかけたり、誘った

子どもの要求やあそびに応り

)する。

・保育者や友達のしている ことをまねする。

てスライムの量を加減したり カップを用意しておく。

◇ぷにぷにと自ら発 語したり、保育者の 言葉を真似ているか







○一人歩きを繰り返す中で、脚力やパランス力が身に付き、自由に手が使えるようになり、手指の機能も発達してきた。 いた答的な大人との関わりによって自ら呼びかけたり、拒否を表す片言や一語なを言ったり、言葉で食せないことは、指差しや身振りなどで示し、保育者に自分の気持ちを伝えようとする。 ○友だちや周囲の人への興味や関心が高まる。その中で、玩具の取り合いでトラブルになったり、相手に対し拒否したり、簡単な言葉で不満を訴えたりもする。

(スライム、片葉粉、だんご粉、えのぐ 膨触あそびでは、個人差がよく見られ、よくあそぶ子、苦手で近づこうとしない子がいる。しかし、繰り返しあそぶ中で1回目近付こうともしなかった子がそばに来て見たり、少し触れただけで立いていた子が自ら触るようになってきた。性質の変化に驚き「うわー!」「おっ! おっ! 」などと声に出し表現している。 「海の、

◇保育者と一緒にさ わってみたり、友達 の真似をしようとして いるか

・子どもからの要求にしっかりと応えたり、ひとりひとりの気持ちを受け止め共感しながら関わる。

・余計な言葉がけをせず、集 中してあそぶ様子を見守る

〇木の玩具やパズル、 ポットン落としなど指先を 使ったあそびをする。

*子どもたちの興味に 合わせた木の玩具な

どを置いておく。 ・木のパズル

《 ほ 1 組・ 前 歴 》

好きなあそびをみつけて

あそぶ。

・ポットン落とし ・電車 ・ブロック ・段ボールの乗り物

・牛乳パックの積み木

*ままごと用の机、椅子などを用意してお

・キッチンセット

・エプロン

◇「バイバイ」と言っ て手を振ったり、保 育士とのやりとりを

しようとしているか

・・縮にあそぶなかで「いただ 育 きまず」や「ちょうだい」「これな し くめに?」・・・など、子ども違から 「言葉を引き出していけるような 言葉を引き出していけるような。 言葉がげを意識しながら関わ

○ままごとあそびをする。 ・人形をおんぶしたり、寝 き かしつけたりごはんを食べ あ させたり、再現あそびをす る。

〇木の玩具、ポットン落とし 木のパズルは少しずつはめるところが分かってきて、向きを合わせてはめれる ようになってきた。タイヤが付いた玩具は以間は待ち運んでいることが多かった が、手で持ち腕を動かし転がしてあそんだり、「ぼっぽール言いながら動かして あそんでいる。ポットン落としては、次に入るようにしっかり見て入れようまる 姿が見られる。上手く合い、ぽとんと落ちると嬉してて、近くにいる保育者の顔を 見て思いを共有している。

フードやお皿などを持って食べる真似をしたり、保育者にどうぞと渡してくれる。 保育者が「いただきます」と言ってから食べると同じように手を合わせてから食べている。まだ、実際に口に入れてしまう子もいる。 おんぶ袖や布団、ペッド、エブロンを手作りしたことで、赤ちゃんをおんぶして がいごを持って出かけようとしたり、赤ちゃんに布団をかけてトントンしたり、エブ ロンをつけてキッチンの前に立ったりするなど、再現したり具立てたりしてあるでいる。 マゴギギ()

◇寝かしつけたり、 ごはんを食べさせた リ、普段してもらって いることを再現して

・「いってらっしゃい」「バイバ イ」など簡単な言葉のやり取り を楽しめるようにする。

〇段ボールの乗り物に 乗ったりや牛乳パックの積 み木であそぶ。

・人形・ベッド・・作回・おんぶ箱

・段ボールの乗り物に乗っ たり、押したり、引っ張ったり、積み木や玩具を入れて運んであそぶ。

あそんでいるか

保育者がモデルとなってあそんで見せ、よりイメージがしや

すくなるようにする。

・牛乳パックの積み木を並

ベたり、高くつんで壊した リする。

◇食べ物に見立て てあそんでいるか

〇総本

◇高く積んでみよう としたり、倒れること を楽しんだり繰り返

してあそんでいるか

・危険がないように見守りなが ら保育者も一緒に体を動かし 楽しさを共有する。

○運動あそびをする。 ・滑り台をのぼったり、滑っ・1 たり、トンネルをくぐった り、体を使ってあそぶ。 楽

・すべり台・マット ・でこぼこ道 ・牛乳パックのシネル

《ほし2組》 *運動遊具を設定す

◇保育者と一緒に 体を動かしているか

◇友達と同じ物を欲しがったり、取るうとしがったり、取るうとしたり自己主張しながらあるからからからから

・あそんでいない玩具や散ら ばっている玩具はそっと片付

75°

総本を見るより、ページをめくってあそぶほうが主だったが、犬や猫など知っているものが出ている絵本だと一人で見たり、保育者に読んでほしいと持って来て、膝の上に座って一緒に見る中で「わんわん!」「にゃー」等の一語文をよく

鎌部·宮田·松岡 女児 4名) 1歳6カ月~1歳10ヶ月 【担任】 15名(男児 11名 平成28年度 平成28年9月13日(火) 9:30~11:30 うみべのもり保育所 1歳児 ほし2組

遊びのねらい・一感触あそびを通して保育者とのやりとりを楽しむ

聖盐	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
00: 6	(前室側テラス) * スライム、カップ、 ボ・スカイム、カップ、 ボ・ストーを用 ・ トルレリが満足し てあそべるようスライ であてやるようスライ であてやるようスライ でかてあそが子に合 ・ 立ってあそが子。 ・ 立ってあそが子 ・ 立ってあそが子 ・ 立ってあそが子 ・ かは、れビブルーシー トを用意する ・ 足が汚れたら拭く 用の足がきないを用 意しておく。	Oスライムであそぶ。 ・感触を味わい、指でつて いだり、ちぎったり、相ば たりする。 ・保育者の言葉を真似て あつ!」などと言う。 ・スライムがほしいと手を 出したり、他児があそん。 いるスライムを取ろうとする。	○□に入れようとする子どもも いるので、入れないように声を いける。 ⑤保育者も一緒に楽しみなが らいだいばっるわ」とろー らいられる言葉をかける。 意味で返したり、視線や身振り でとの訴えを「葉で代弁して、 の要性を嫌がる子には、他児 があえなでいる様子を見られ がる本人でいる様子を見られ がる本人でいる様子を見られ がる本人でいる様子を見られ がる本人でいる様子を見られ がる本人でいる様子を見られ がるすべいとが ないったが、 とする。 とするとして楽しめるよう にする。 ラ子ともの要求やあそびに応 でスライムの量を加減した シスフィムの量を加減した	◇形の変化や感触を味わい、声に出し表現しているか。 表現しているか。 ◇保育者のあそび を真似たり、やりとり を基んでいるか。 ◇スライムをぎゅっ とはったり、伸ばした いるか。
	(1907-1907) 野車// * 子どもたちの興味 に合わせた玩具を置いておく。 いておく、	〇木の玩具やパズルや ポットン落としなどの指先 を使ったあそびをする。	◎余計な言葉がけをせず、集 ◇あそ 中して遊ぶ様子を見守る。 へ行き ◎子どもからの要求にしっかり。るか。 と応える。	◇あそびたいところ へ行き、あそんでい るか。
	ivorンからの 電車・ブロック 設ポールの乗り物 キ乳パックの積み木 キまごと用の机、椅	〇ままごとあそびをする。 ・玩具を食べる真似などし てあそんだり、「どうぞ」「お いしいね」などと言いなが ら保育者とのやりとりを楽 しむ。	9保育者が見本となり、「ちょ がといいただきます」「どう ど」など身振りとともに簡単な 言葉を添えて、やりとりを楽し ごようにする。	◆自分がしてほしい 事を「あーあー」と 言ったり指さしなど の行動で表現してい るか。
	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	の段ボールの乗り物や年 乳、。。 ・投ボールの乗り物に乗っ で表しっ張ったり、動かしてもらって書ぶ。 ・年乳パックの積み末を高 ・年乳パックの積み末を高 く積んだり、壊すことを楽し む。	◎床にあそんでいない玩具が あれば、そっと片付ける。 ◎牛乳パックが倒れた時に世 児がいて危険がないか注意す る。	◇積んだ物が倒れ、 ることを楽しみ、繰り 返しあそんでいる か。
	(ほし2組》 * 運動遊具を設定する。 る。 ・すべり台 ・マット ・でこぼこ道 ・キ乳パックのシネル	○運動あそびをする。 ・滑り台の階段を上ったり 幹面の上リ下りを楽しむ。 ・トンネル〈ぐりやコの字の ・トンネル〈ぐりやコの字の ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	◎危険がないように見守りながら保育者も一緒に体を動かし楽しさを共有する。	◇保育者と一緒に 体を動かしている か。

「対対」

平成28年度

26名(男児12名 女児14名)【担任】森下、菅野、由里、草野、藤原(支援) 平成28年9月13日(火) 9:30~11:30 うみべのもり保育所 2歳児 にじ1、2組

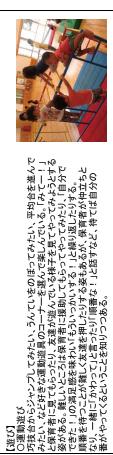
子どもの姿~遊び・生活・発達

(生活)

○スプーンを使い、こぼすこともあるが自分で食べようとする ○簡単な衣服の着脱など「ジブンデ!」とやろうとする ○「おしっこでる!」と知らせ、トイレに向かうようになってきているが、パンツの

中で出てしまう。こともある いいのは、いっともある O「いや・」「したい」と要求を相手に伝えたり「おはよう」と保育者や友達にあい ようする姿がある Oお菓子の包み紙やパナーの皮を自分でむこうとする O他児兄先見の別い合いになった時に「じゅんばんな・」「OOちゃんが先な・」 と話す子も出てきている

○ 10分のからだを思うように動かすことができるようになり、跳んだり走ったりぶら下がったり、様々な姿勢で身体を使った遊びを楽しんでいる。
○ 20っぱる、おじる、まげる、など細かい・手指の操作の遊びを繰り返している。
○ 20っぱる、おじる、まげる、など細かい・手指の操作の遊びを繰り返している。
○ 20つぱる。おじる、まげる、など細かい・手指の操作の遊びを繰り返している。
○ 20分の意志や欲求を言葉や態度で表わずなど自我の育られ、思いが通らないと泣いたり叩いたりして強く自己主張をして思いを通うたとする。
○ 20台分で着脱ができるようになったことでトイレへ行く回数も増え、排尿が成功することが増えてきた。
○ 20 全人に言葉を使うようになり簡単なごっこ遊びの中で「~のつもり」「~みたい」と見立てたり、大人の行動を模倣したり、日常生活において経験したことをごっこ遊びで再掲している。
○ 6 単なストーリーが分かるようになり、絵本に登場する人物や動物と自分を同化して考えたり、つもりになって楽しんでいる。



○シール貼り ホワイトボードに貼った長方形、三角、台形など様々な形のビニールテープを Iはがし、厚紙に貼り付けて楽しんでいる。ただりたすらにはがしては貼る子や、 ものて貼ったり、色別でかためて貼ったり、形を組み合かせて貼り、身近な ものに見立てるだだ、思い思いに遊んでいる。8月に"ザ作りをしたことを思い 出し、貼ってできたものをビザに見立てて遊ぶ姿もある。そのピザをままごと コーナーへ持って行き、料理をしたり、お店屋さんで売ったりと遊びを広げて っている。



藤原(支援)

女児14名)【担任】森下、菅野、由里、草野、

26名(男児12名

平成28年度 平成28年9月13日(火) 9:30~11:30 うみべのもり保育所 2歳児 にじ1、2組

子どもを主体とした保育 公開園【うみべのもり保育所】

由里、草野、藤原(支援) 女児14名) [担任]森下、菅野、 26名(男児12名 平成28年度 平成28年9月13日(火)9:30~11:30 うみべのもり保育所 2歳児 にじ1、2組

○ままごと エプロン、三角巾をつけキッチンで料理し、作ったものを保育者に 「先生をへ~!」と持ってべる姿や、「あついで!」がと料理の具体的な イメージを持っている子もいる。おふろごっこでは「ごしする」とお家の お風日での体を洗引様子を再現したりする。また、ままことの玩具を介して 隣で遊ぶ、他児の遊びを模倣する姿がある。色水の入ったペットボトルや 手作リフーズなどでお店屋さんしてる。また、はじめは保育者が お店屋さんになり、子どもたちがお客さんとしてやりとりをしていたが、 お店にいらったいませ!何がいいですか?」と子どもたちの中で店員と お客さんにわかれて遊ぶ姿がある。 子どもの姿~遊び・生活・発達~

「ふわふわ」「ぽっとん、ぽっとん落ちる」と感じたことを表現したり、手をタライの「でわかしてみたり、自分の腕や足につけたり泡の感触を味かっている。用具を使って治の立て方を2歳児なりに工夫する姿もでてきた。 人形の服を洗うせんたくごっこを楽しんだり、食紅を入れて「ケーキやで」「ブリン!」と見立てて遊んでいる。 〇泡遊び



やりとりを楽しむ	評価の観点	◇遊びはじめたり、 好きな玩具を手に 取っているか ◇好きなあそびを選 択できているか (今保育者の真似を 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	して、いっつしゃい すせ・」「何がいりま すか?」「ジュースく ださい」など保育者 や友達と一緒にやり ケル	◇保育者と一緒に 「貸して」など友達に 伝えようとしている か	を保育者にも振り手振りを保育者にも振り手振りを言葉で伝えているかくを発生を保育者としるが達や保育者と「お」、コンカーが大	等って話したりしているか いるか 一般を見たりしている か かな嫌のし、できや遊	ひを真似たり、同じ ことをしようとしたり するなど 友達に関心 があるか 今自分の要求を保 育者に伝えたり、友 達と関わってやりと りしようとしているか うけみてみで・! と話	や思いやイメージを 表現できているか ◇その場で遊びが 継続しているか	◇絵本をじっと見た り、気付いたことや 感じたことを話したり しているか 今繰り起こシールは がしをしたり貼ったり しているか
5U、手振りで伝えようとする を通じて 保育士や友達とのやりとりを楽しむ	保育者の援助と配慮	 	の休用もも一番に近い、お店屋かんごってする中で、かりとりを楽しめるようにする の使いたいものを貸してほしてほしてほしてほしては、時に保には燃化しやすい言葉できます。	○したいことをして遊べるよう○しようと思うことに合わせて いおんぶりもの援助をしたり、つ たいたての場所を子どもの思うとりいたての場所を子どもの思うとり、いたての場所を子どもの思うとカニー総目・軸かすなど。	場を整える ⑥「おいしいね」「あついか な? ふーふ・して食べよう」な ど子どものイメージに共感し、 丁部:・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・子どもの感じたことや思っていることを言葉で表現するところを受け止めたり、受け答えしながら言葉で通じ合える喜びを共有している大人を持している。大人を一様に遊り大きと同じ空間で一緒に遊ぶ楽しさを感じられるように保育士も一緒に遊ぶ	3子ども同士の会話や要求を つかり聞き、保育土が仲立ち なり、足りないところは補い がら言葉を交わすことを楽し 3名ようにする 9子どもの見立てや、想像を だけしめ、イメージを自由に願 ませて述べるようにする の一緒に遊び、イメージをつね	げたり、共感したりする ◎子どもがおもしろいと思って いるところに共感しながら読む	 ○子どもたちが満足するまで ト分シール貼りが楽しめるようにする ○ビザに見立てる子は、作っただがで隣のままだとコーナーなを祭りごうこコーナーでも遊しえることを知らせていく
・感触遊びを楽しむ中で感じたことを言葉や身振り、手振・保育士や友達と関わって遊び、 つもり・見立てを通じて	予想される幼児の姿		座ぐべになる ・お店屋さんに品物を買い に来る ・買った物を机に持って行き、食べる真似をする	○ままごと遊び ・エプロン、三角巾をつける ・キッチンで料理を作る ・作った物を保育者にたぐ ですらっ	・料理を机に並べる ・人形を寝かせる ・人形をおんぶひもでおん ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○ 電車で遊ぶ 線路の上を好きな電車を 選択したり、つなげたりして 走らせたりする 「ガタン、ゴトン」と電車の たる音を託したり「バン屋さんいく!」と描かれた絵の お店へ電車を走らせる	○プロックで遊ぶ ・高く精んだり、横に並べて し つなげたり、また作った物 と を「ケーキ!」「くるまやで」とな イメージして遊ぶ	〇好きな絵本を自分でペー ジをめくって読んだり、保育 者に読んでもらったりする	○好きなシールを台紙に 貼ったり、できあがったもの をビザに見立てたりする
	環境構成	* 夜祭りコーナー (こじょ) - まんい汗目のからま	・ナボッルものので、 げ、ポテト、ジュース ・屋台の台、机、いす	* ままごとコーナー(にご1 たたみ) が、ついたて、冷蔵前、電子レンジ、お乗車、電子レンジ、お弁当路 だ而・スプー	ン、お玉、コンイ版し、 フォーク、なべ、フライ パン、フーズキッチ ン、エプロン、三角中、 人財 人野の人・「	大形の布団、ハンカチ * 電車コーナー (にじこ たたみ) 電車、線路を描いた ボード	* ブロックコーナー (ICじ2 たたみ) ブロック	* 絵本コーナー (Iこじ1) ・いす ・現在にご組が興味を	持っている本 *シール貼り (「こじ2) ・お、いず ・丸く切った段ポール ・カ・ケール
遊びのねらい	開報	9:30							

平成28年度 平成28年9月13日(火) 9:30~11:30 うみべのもり保育所 2歳児 にじ1、2組

評価の観点	◇なきな遊びを選択 今時でながびを選択 今年本からでしためか 今年本でしためか 今年本では大きたが 今年本では大きに関う を対しているか かな。となったがあり ではたがにに関う をすって遊ぶているか でいたわりはたの をかって遊ぶているか でいたわりなどの様を でいるか でいるか でいるか やしたらないです かりなどっしゃいま でいるすりなどのはないです かりなどのも でいるすがとこしゃいま でいるすがとしているか をすったがたし、「ケー キャではだん。「ケー キャではだん。「ケー キャではだん。「ケー キャではだん。「ケー キャではだん。「ケー キャではだん。「ケー キャではがたん。「ケー キャではだん。「ケー キャではなど。したっしゃいま ではずたと、「ケー キャではなど。したい。 かか をすったが、した。「ケー キャでは、「カー がいいです かりなど、カー がいいです かりなど、カー でもが、たい。「カー をはずが、ことをしま かりまだ。「ケー キャでは、「カー をするが、した。」 をするが、「ケー キャでは、「カー をするが、「ケー キャでは、「カー をするが、「ケー キャでは、「カー をするが、「ケー キャでは、「カー をするが、「ケー キャでは、「カー では、「ケー キャでは、「カー をするが、「ケー キャでは、「カー をするが、「カー ・「カー をするが、「カー ・「カー
保育者の援助と配慮	の共に遊びを楽しむ中で子どの声に耳を傾げ、受け止め のあるように保育士も一 をできるように保育士も一 をできるように保育士も、 をできるように「不らしたを ながら、そばにいる他見も たがら、そばにいる他見も にながら、そばにいる他見もと たちいとりをする の手ずは保育土がお店屋さん たちいとかする の子どもの見立てを受け止 たちいとがする の手ではなかながらいたように子どもを が、楽しみながらい地よぎが。 の手であるようにする の手がは、本書を入びの子ど になりといます。 の手がは、本書を入びの子ど たちりとりをする の手がは、かまる人がの子ど たちりとりをする の手がながらい地よきが、 をとうの中で遊へるよう の中で遊へるよう の中で遊へるよう がえるようにする。 が、楽しみながらい地よきが、 をあえるようにする。
予想される幼児の姿	○好きな遊びを見つけ楽しむ ・どろんに水の中で座った・パラんに水の中で座った・パラんに水の中で座った・小りに 気持ちよさを感じる ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
環境構成	* 碌碡遊びの 用意を ・ であん。
晶轴	10:00

【担任】森下、菅野、由里、草野、藤原(支援)

女児14名)

26名(男児12名

14名)【担任】 山本ま、三宅、(支援)3対1高橋り 女児 12名) 9:30~11:30 3歳児うみ組26名(男児 平成28年9月13日(火) うみべのもり保育所 3

子どもの姿~遊び・生活・発達~

○生活の流れ、保育室に慣れ、自分で遊びを見つけたり、身の回りのことを自分でしようとする子が増えてきた。 ○着脱に手助けを必要とする子もいるが、服の汚れに気づき自分で着替えようとしている。 ○給食では自分で食べたい量のものを選び、自分で机まで運んでいる。 スプーンを使ってこぼさずに食べることはできるが、持ち方はまだ上手持ちの子もいる。 【生活】

(発達)

なってきた。 〇同じ遊びをしている子の様子を見て自分の遊びに取り入れたり、ごっこ遊びなどでは言葉でのやり取りが増えて ○自分の好きな遊びや前日していた遊びを選び、それぞれが自分の遊びを楽しみながらも友達を意識するように

○牟長児、年中児の遊びの様子に興味を持ち、近くに行って見たり、真似をしたりしている。 ○ハ・サミ、ノリ、セロテープ、クレパスなど、道具を選んで使っているが、ハサミの持ち方やノリの使い方などは未熟 な面がある。 〇振り返りなどでは、楽しかったことや考えたことなど自分の思いを伝えようと、言葉に詰まりながらも話している。

[対別]

○ままごと ・レストランでのやりとりの再現や日常生活の中での体験から料理づくり、買い物、 会話を遊びに取り入れて遊んでいる。 ・自分たちで作った食べ物や鍋、年長児に作ってもらったコンロやフライパン、カバ

ンどなどを使い、遊びを展開している。 ・段ポールを並べたり、椅子を持ってきたりして組み合わせ、「ここは寝るとこやで」 猫さんの家もあるで」など友達や保育者に話しながら遊んでいる。

〇オバケ屋敷、オバケごっこ・ ・年長児が作ったオバケ屋敷を体験したことをきっかけに、オバケについての興味をもち、オバケ屋敷を自分なりに見立てて作ったり、オバケの絵本を好んで見たり

・保育室では年長児からもらったオパケを部屋に貼ったり人形にしたりして楽しんだり、オパケを顔につけたりしてオパケになりきる姿も見られる。 ・年長児が作ったオパケ屋敷に誘ってもらい、友だちと怖がりながら入ったり、保育 ・オバケに興味をもっていることを知った年長児、年中児の子たちが加わり、オバケをもらったり、隠れる場所や衣装を作ってもらったり、作るのを手伝ってもらった

者を誘って一緒に入っている。 ・「泣かんと行ったらお菓子もらえるんやで」と自分たちで作ったお菓子を使ったり、 「オパケの格好したい」とオパケ屋敷で脅かす側にも興味を示している。



子どもを主体とした保育 公開園【うみべのもり保育所】

平成28年9月13日(火) 9:30~11:30 うみべのもり保育所 3歳児うみ組26名(男児 12名 平成28年度

女児 14名) [担任] 山本ま、三宅、(支援)3対1高橋り

子どもの姿~遊び・生活・発達~

〇三輪車・ガソリンスタンド

・ペダルを漕ぎながらのハンドル操作も巧みになってきて、三輪車を年上の子たちが同いたラインに沿って『転にたり、氷車機をペペッたりて楽しんでいる。 おうもの 人がガソリン タシドや損車場 で洗車をしている様子を思い出し、洗車機を作ったリスポンジなどを使ったりて洗車につこを楽しんでいる。・砂の上では洗っている時に砂が付きやすいことに気づき、たたきを選んで洗車し

・洗車機は年長児のアイデアをかりながら一緒に作ったり、「カード入れるとこ」 「お金もいる」と遊ぶ中で必要なものも考え、保育者や年上の子たちと一緒に作っ たりしている。

・ガゾリンスダンドをイメージした子から、「ガソリン入れるところがない」という声が上がり、「鉄砲みたいなやつがあるんやで」「鉄砲しまうとこもいる」と見たものの形を例えて伝えたりして、形、素材を考え、・給油場所を作った。 ・年中間の姿々大産の姿を見ながら、「同じように店員になりきり、友だちとやりとりをする様子も増えてきた。

○土遊び ・容器に砂や土を入れ、そこに石や水を加えて変化をつけ、ままごと遊びをしている。 ・主が水と混ざる感触の心地よさを懸じながら、水を含んだ時の色や硬きの違いに 気づき、不思議を・面日をを慰じている。 ・まとまりやすく国コチが作りやすい赤土に気づき、年中児の姿を見て試行錯誤しな がら丸めたり、砂をかけたりしている。

・春から散歩先や保育所裏など、遊んでいるうちに見つけたり、年中児に居場所を 教えてもらったりして見つけることを楽しんでいる。 ・丸まらないワラジムシにも気づき、比べたり区別しようとする姿も見られるように なり、虫眼鏡で見て観察することを楽しんでいる。 ・エサは「何食べるんやろ?」「試してみよ」と思いついた物を飼育容器に入れている。 ている。 ・年上の子の団子をみて「硬い」「こんなの作れるの?」と憧れの気持ちを持ってい 水分が多い土を使うと団子の形を作れるようにもなってきて、出来た団子を飾っ

〇ダンゴムシ、ワラジムシの飼育

|・白◇の気はモガノ」がたじを白◇た川-幸和| モニ 目立てた!| アーナボエーにラトミレオ| 平成28年度 平成28年9月13日(火) 9:30~11:30 うみべのもり保育所 3歳児うみ組26名(男児12名 女児14名) 【担任】山本ま、三宅、(支援)高橋り

遊びのねらい		一ジなどを自分なりに表現する。	・自分の気持ちやイメージなどを自分なりに表現したり、見立てたりして、友だちに伝えようとする。 る ***・ム・キューをは、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ざちに伝えようとす
	・様々な素材に触れ、		その物の性質を感し、変化を 不思議に思ったり楽しんだりする	にりする
時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
9:30		・自分の遊びたい場所、遊びを選ぶ	・登所時に不安を示す子には、保育者がゆったりとかかわりながら、自分の思いが伝えられるようにする	◇自分のしたい遊び や一緒に遊びたい友 達を探そうとしている か
	- コーナーには調理器 具、食材に加え、子ども・・ 達が作った食材や鍋、年 に 長児に作ってもらったコ・・ ンロやカバンなどを常時 フ)ままごと 調理器具や食材を使って、 ごっこ遊びを楽しむ イメージする料理に合わせ で、素材を組み合わせたり、	・子ども達がしている工夫を保育 者が言葉にして認め、他児の様 子に興味を売したり、自分の作。 ているものについても伝えたいと、	◇友達と同じ場を共有 しながら、笑顔でかか わっているか ◇遊びに必要なものを
	設定しておく ・庭に続く扉を開け、す のこにもミニテーブルを 置く	調埋の工程を表現したりして 見立てている ・作った料理などを保育者や 友達に勧めたり、友達の言う	恐じられるようにする ・子どもたちが料理や場所につい て、イメージを膨らませている様 子に寄り添い、思いを聞いたり、	選んで用意したりしているかいるか な料理の名前や味、温度など、自分が見立
	・外で遊んでいる子が目 相に行き来できるよう、 デラスの手派い場に右 酸と手拭きタオルを用意 する ・段ボールをコンテナに 入れて設置しておく	を開き簡単なやりとりをする 中国の使いたい食材を他の な達が多く使っていることに 気づき、欲しいと言葉や態度 で伝えようとする ・段ボールを組み合かせた り、椅子待ってきたりして、 家の中を表現し、「こはの 〇」と保育者や友達に話す	め要な物を一緒に準備したりし て、他者とイメージが共有しやす 、たまりにする 友達に上手く思いが伝えられな い時は保育者が思いを聞き、保 育者の言葉を借りながら、自分の 気持ちを伝えられるように援助す 5	でたもののイメージを 国業や使うおもちゃ、 動作などで伝えているか かしてほしいことを保 育者や友達に伝えよう としているか
	・子どもたちが必要に応 じて素材を取りに行ける ようにする の廃れコーナー(ラッグ のが、空き箱、牛乳・パック カ・ブラスチック容器、 ベットボール、厚雑、紙 ニップ、手糸)	○オバケ歴製、オバケごっこ・年長児からもらったオバケリーなりです。オバケになりきっかりして遊んでいる。 ・オバケになりまった子が「イケーなりをする。 ・オバケになりきった子が「脅か」「して適か」「と	・脅かした相手の反応を意識できるような言葉が1をし、友達とかかわる楽しさを感じられるようにする年のようにする本力にする年のかかわりを通して、イメージを深めていけるようにてメスージを深めていけるように不多がした。	◇何度も繰り返したり とりをしているか とりをしているか 一声をあげて驚いたり、 南手の様子を見て反 応しているか の日を意識しなが 今相手を意識しなが ら、声色や動作を華段
	○倉庫の材料の補充を してお、 ・オパケコーナーの設置 (年長児のオパケ・オパ ケの衣装、オパケの家、 教が一ル、毎中児のオパケーがのました。	らえるで」「オバケ屋敷いこ」、 と保育者や友達を誘い、年見 ルのオバケ屋敷に行、 ・オパケになるために欲し、 ものなどを作ったり、年長児 に手伝ってもらったりに有様	問いかけ、硬さ、色、大きさなどの と思いを聞きながら素材を深せるよう うにする。 うにする。 につみ組さんのオバケは●●だっ たけどやま組さんは□□だね」 たけどやよがおイントを繋ずてム にしるよったが、年間トのを対して、	と違ったものに変えようとしているか、 今年長日、年中児の 谷年長日、年中児の 後に興味を持って見た リ真似をしたりしている。 か、略なしたり、人
	バノ 座が4と/ ・年長児のオバケ屋敷に 自由に行き来できるよう にする		こいであっていませんのなが の違いや同じクラスの友達の様 子を伝えて、お互いの良さや友達 の様子に目が向けられるようにす る	
	・新聞紙、広告が取りや・ すいよう1枚ずつ折りた じたんでおく ・ ・制作コーナーの材料 に ・間にコーナーの材料 に (広告・新聞・日・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	り希遊び 遊び「必要なものやなり」、 い役を象域するものを新聞 第、広告などを使って作って、 いる。 大小下や簡輪などは、「人」、 ・コポーコポール・コポール・	・自分で作った達成感や喜びに共 感する ・子どもたちが試行錯誤しながら 取り組む様子を見守り、セロテー ブの長々や止め方などを意識でき カ・ネオ・ボール・イン・ストン・ネーカー・ステール・インのよ	今紙の形状を手の操作や道具を使ってかえているかい。 ているか 今困ったことを周りの 大道や保育者に伝え
	など、の補充、ホーン、 がど、の補充 ・道真(ハサミ、ケー ピー、セロテープ、ノリ、 マジック)の点核し、子ど も達が自由に使えるよう	いる。 (他) 別を作りたいと思い、 (他) 対加減や操作する位置 を工夫したり、大さに気を付 けながら取り組み、大なたっ。	ののちゃんものの人のみたいに「〇〇ちゃんもの人」 ドリたいんだね」「〇〇くんはどう もって貼ったの?」など友達の姿 ・意識したり、かかわりが特てる うな言葉がけるで、、、、、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	◇出来上がったときに 笑顔が見られるか ◇手伝ってほしいこ と、自分の思いなどを は着々な漢に伝え
	にしておく ・机と椅子を準備しておく	くのと初めからなり目している 現ののイメージが上を表 現できない時は、保育者や問 リにいる友達にやってもらお うとする	・自分のイメーン地でいるもので でいる子には、思いに共感じなが ら同りの子どもたちに状況が伝わ るようにしたり、自分で作った達成 感が味わえるように援助する	ようとしているが、今他者の姿、作品を見ているか

9:30~11:30 3歳児うみ組26名(男児12名 女児14名) 【担任】山本ま、三宅、(支援)高橋り 平成28年度 平成28年9月13日(火) (うみべのもり保育所

評価の観点	○人々コースを意識 いるか いるか い道真を探してしているか い道真を探し、用意しているか 今汚れが落ちている か確かめながの、道具 を操作したり、洗う場 のか かか。 かか かか。 がか かかり がかり がかり がかり がかり がかり がかり があり があり があり があり があり があり があり があり があり があ	をしているかななるをしているかなとを探しながら集めなどを探しながら集めているかなかが、繰り返し試しているか、と上の強いに気づいているか。としか違いに気づいているか。とまませんすいは、とまませんすいは、	今自分で片付けようと しているか 今汚れたおもちゃに気 づいているか	今自分の思いを伝えようとしているか 今を変の話に耳を傾けられているか 付られているか 10 回日への別得を言葉にしたり、
保育者の援助と配慮	コースをかく年長児の姿や、そのコースをかく年長児の姿や、そのコースの上を進んでいく年少児のかける。 アビナの 歌動 や気 づきに共感する いまさん おいまい ない かいてい こうしょう かいてい かいてい かいてい かった がった 後に砂がついていること ボッナ後に砂がついていること ボッナ後に砂がついていること ボッナ後に砂がついていること ボッナ後に砂がついていること ボッチ後に砂がついていること ボッチ後に砂がついていること ボッチ後に砂がついていること ボッチ後に砂がついていること ボッチを いがった しばっぱい あいまして 後に砂がった はいました しょうけん ような声 掛けをし、繰りに 体調になる様子を一緒に喜	保育者も一緒に遊びに入り、子 子の驚きや発見、気づきに共臨 する。 主や記を手で触るのが苦手な子 ないこかかったり、道具を使っ で遊んなおうに構構がし をびにかかったり、道具を使っ で遊んなおうに構構する できあがった日子を見て一緒に できあがった日子を見て一緒に ちったもの子といることに ちったがった日子を見て一緒に ちったがった日子を見て一緒に ちったがった日子を見て一緒に ちったがい、作っているときの姿を 日本にして認めたりする。 はこうれれば日子がでるきのを 年上の子とに伝えたりする。 本上の手様の、日のこたいる様子を キ上の種類、水・石の混ざり具合 こよる感触の違いに気づけるよう。	・保育者も一緒に片付けたり、汚れたものを洗う場所を準備したりして、最後まで取り組めるようにする。 ・担任間で遊びの様子、子どもの発見、工夫などを共有し、話しや発見、工夫などを対し、話しやまり、問いかけ、環境設定ができるようにする	・子ども達が見つけた気付きの面 白さ、不思議さに共感し、次にした いことについて皆に問いかけ明日 ・の期待につながるようにする ・話に集中してベル子には傍につ いたり、問いかけたりすることで会 話に入れるようにする
子想される幼児の姿	プザブリンスタンド 三編車を溜ぎ、操作する中 でコースや友達の姿に気づ た。気を付けながら運転して 洗事機を通ることを楽しんが パガリンを入れたりする パボー屋をル・ガソリンスタン の入になり、友達とやりとい 守る が分の水分を布でふき取る が分の水分を布でふき取る が分の水分を布でふき取る が分の水が満れたまきのよ	○土遊び ・土、砂、泥の感触を楽しみ、骨輪がたり、形づくりたり、形づくがり、水を ・	O片づけ ・自分の使っていたものを片 ・がわる ・泥などで汚れたものは水で ・洗おうとする ・洗まつとする ・洗まで手をがけりをやめたり、 をつまま保育室に戻ろうとす	○振り返り ・今日の遊びの中で楽しかっ たこと、別いてほしいことを皆 の前で話す ・女差の話を指す ・自分がしていたことや考え たこと、知っていることを話 たこと、知っていることを話 し、次にしたいことなどを話す
環境構成	・	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・片付ける場所が分かり やすいように棚やかごに イラストや写真を付けて ・汚れたものが洗えるよ う、水を貼ったタライを準 備する	・塔ち着いて話に集中できるよう、 格子の、 格子の 地名を でんさい お子を円 形に並べて置く
時間			0:40	0:50

平成28年9月13日(火) 9:30~11:30 うみべのもり保育所 平成28年度

26名(男児 11名 女児 15名)【担任】川渕・支援保育士1対1高橋よ・5対2宮前・若狭 4歳児 そら組

子どもの姿~遊び・生活・発達~

【生活】「サニカンにとを自分でしようとしているが、保育者を頼りにしようとすることもある。同時に友だちの事を気にかけ、してあげようとする場面もある。・お当番の仕事を積極的にし、動権物の世話も相談しながら意欲的にしている。・お当番の仕事を積極的にし、動権物の世話も相談しながら意欲的にしている。・片付けや活動の節目などを時計の数字で示し伝えることで見通しを持ち、時間や数を意識している。

【発達】 ・気づいたことや発見したことを不思議に感じたり、保育者や友だちに伝えたりする。 ・様々な素材を使い、試行錯誤しながら製作することを楽しんでいる。 ・遊びの中で自分の思いとは違ったり、思いを通そうとすると言い方がきつくなったりうまく伝えられず葛藤してい

はさみや箸は苦手な子も多く、正しい持ち方で使用することがまだ難しい。

一覧で

○泥あそび 砂と土の違いを少しづつ分かり始め、遊びの用途によって使い分けられるよう でしなった。手先、手の平を器用に使い丸(したり自分で選択した布で丁寧に磨 くことを楽しんでいる。米の加減で変化する際触の違いや乾くと変化する色の 違いなどに興味を持ち、不思議さを感じている。年長児が遊んでいる様子を見て 同じよう」にしてみようとする子や、聞きに行くことできら砂をかけるとだんごにも違 いがあることを少しずつ知ってきた。

○スライム 自分たちで分量を決めてスライム作りをしたことから、ほう砂の量によって 影触が変わることを知った。何が必要か材料の名前も覚えており自分で 計量して重を確かか作る子もいれば好きな量で作る子もいる。ほう砂の量に よって固くなったりやわらかくなったりすることにも気づきはじめている。作った 物を及だったりやわらかくなったりでながら楽しみ、ストローなどで吹いたり結 を表ださとは自せ合ったり比べたりにながら楽しみ、ストローなどで吹いたり結 を提ぜて形や質感の変化を感じたり、そのことを自分なりの言葉で伝えている。



〇製作 スライムあそびで作ったスライムやガムテーブで作った玉を転がす為に、廃材 を使用して道などを作り楽しんでいる。始めは1本道であったが、年長児が遊び に加かったことから道づくりダイナミックになり、スタートやゴールを作ったリ 高低差や販道で作りだうすればよく転がるか、どうすればくっつくかなど考え工夫 「高化、友達や保育者と相談しながら作っている。自分の思い通りに作れた玉が 転がっていく様子を見て喜んでいる。

○おばけ作り うみぐみがお化け屋敷を作っている所へ手伝いに行ったことから、その気持ち に自分たちでもお化け屋敷を作りたいという気持ちに変化した。それぞれが 自分なりに怖いおばれをイメージして「黒い色は怖い」目がいっぱいやと怖い」 この中にそらさん入ってわぁって出たら怖い」などいろんな考えを言いらい様々な材料を使用エ夫して形にしていこうとしている。また保育所の夏まつりの 経験から年長児がおばけに詳しいことを知り頼ったり、真似しようとしてい いる。まだまだ作ん方が多いが、年長児を見て自分自身がおばけになって

驚かすことにも興味がでてきている。



子どもを主体とした保育 公開園(うみべのもり保育所)

女児 15名)【担任】川渕・支援保育士1対1高橋よ・5対2宮前・若狭 26名(男児 11名 その組

 $9:30 \sim 11:30$

4歲児

平成28年9月13日(火) うみべのもり保育所 4 成28年度

女児15名)【担任】川渕・支援保育士1対1高橋よ・5対2宮前・若狭

9:30~11:30 歳児そら組 26名(男児11名

4歳児そら組

₹

平成28年度 平成28年9月13日(火) うみべのもり保育所 4

○ガンリンスタンド 年少児がしていた、洗車ごっこに興味を持ち、ガソリンスタンドへと変化した。 オソリンを入れる人・お礼を言う人などに自分たちで分かれて遊びをすすめ ていこうとしている。手、自分たちがガソリンスタンドで修験してきたことを 思い出しながらイメージを膨らませたり友だちと共有しながら楽しんでいる。 子どもの姿~遊び・生活・発達

○かたつむりのお世話 散歩先で見つけたかたつむり。エサによる糞の色の違いや体の不思議など 戦味関心は強く、手で持ち観察している。時計を見てエサを取りに行時間 になったら取りに行くこと日課となっている。その経験から、給食室でもら ったエサの食材が自分たちの給食にもあることで「今日の給食にはにんじ 人あるな」という声も聞かれる。また飼育ケース、エサ人れが汚れているこ とし気づき自分たちでいされいにするようになった。そのような姿からも 大切に育てている様子がうかがえる。



◇友だちに聞いたりエ 、夫を教えたり、思いを 伝えあっているか。 評価の観点 し、様々な廃材を使用して道を ・女だちが作ったものにも興味が ◇本ダ 体担分の作った物と友だち 持てるよう、形や長さの違いに気 夫をダ 体に自分の作った物とださち 持てるよう、形や長さの違いに気 夫を・ げる。 が作った物を見せ合いつな づけるようち 豊本が付きする。 伝え・ げる。 はんきともが気 ついたこと・ 女だちと相談し、高低差をつりエストにことをその場に居た子 けるための工夫を考える。 ピキンちと共和して深められるようにする。 ・ 作る際に子どもが気づいたこと や工夫したことをその場に居た子 されたものエスを考える。 ・ 生かったしたと共和して深められるようにする。 ・素材を使用し、感触や変化する不思議さやおもしろきを友だちと一緒に味わう。・自分がイメージしたものをつくる為に試したり考えたりすることを楽しむ。・自分の考えを言ったり話を聞いたりしながら友だちと関わる楽しさを感じる。 保育者の援助と配慮 ・順次登所してきた子から、 朝の準備をして遊びに向か う。 予想される幼児の姿 ・スコップ、ざる、平らな てお。 ・ かったを用意し、 でおった。 ・ かったどろだんごを大 ものにしたい。現存もや、続、 もがしたいという思いが、 満足できるよう、保管場と でがれているのでである。 ・ だったがしている。 で ための個別の容器を用き ための個別の容器を用き に ための個別の容器を用き が だんこの大きだにでいる。 かせたり、自分の形やした。 かせたし、自分の形やした。 かせたし、自分の形やした。 かせたし、自分の形をできた。 かせたし、自分のがきなにない。 な器を選択できるように、 を報を選択できるように、 を報を選択できるように、 する。 (牛乳パック、ゼリーの容・ 器、ヨーグルトカップ) こ ・磨くための布を見て選 に 択しやすいように整えて す ・ 藤材を分けて、 設置し ・ たれた。 (年乳パック、 ダート はいが、 ゲート、 サコソレップ だりボート、 ナコントップ だらだ、 アイアットペーパー に のむ、 トイアットペーパー に のむ) テントを張る。 タンクを用意しておく。 環境構成 描びのなっい 計画 9:30

女児15名)【担任】川渕・支援保育士1対1高橋よ・5対2宮前・若狭 人) 9:30~11:30 4歳児そら組 26名(男児11名 3 平成28年度 平成28年9月13日(火 うみべのもり保育所

70.00	(年活) (年活) (日間を意識 (日分で考え、 (日分で考え、 (日分で考え、 (日かでの中で、 (日前の一で、 (日前の一で、 (日前の一で、 (日前の一で、 (日前の一で、 (日前の一で、 (日前の一で、 (日前の一で、 (日前の一で、)	る。 【遊び】 〇鑄あそび ・科学図鑑に カウン会をに 知り、鏡の角に ※締「= 1. z ー 1	6 % 7 % 7 % 7 % 7 % 7 % 7 % 7 % 7 % 7 %	・ 関連されて に し に し に し た に し た に し た に し に し し し し	りあった。 いかできる。 にもあった。 であった。 いった。 いった。 はずった。 となった。 とった。 とった。 とった。 とった。 とった。 とった。 とった。 と	やま組がしてて 難しいようだっ しお絵かき ・男の子の間1 ボールの絵を: 田来ると色を登
評価の観点	今自分なリにエ夫して 切ったり異なる素材を 組み合かせて使ってい るか。 今自分の考えを「~し たらっ」など言葉や行 助で伝えようとしてい るか。	◇店員さんをイメージ しているようなやりとり が子ども同土の間で あられるか。 ◇年少児に自分の思 いを伝えているか。	◇相談しながらきれい にしようとしているか。 ◇食材の名前が聞か れ、友だちにも伝えよ うとしているか。		ているか。 でいるか。 今「やってみたい」 にやあこんなんした。 らいなど次の遊びへ期 待を持っているか。 (今女性5・8乗音者の (今女性5・8乗音者の	うとしているか。 今日分のやってみたこ とを言っているか。 個K人の顔を見てい るか。
保育者の援助と配慮	材料や使い方を工夫していると を認める。 どんなおばけがいたかな?」 どうすればいいかな?」と、おば 他に言葉が向けられるように がけしていい 友だちにどうずればいいのか伝 ようちエ夫する姿を認める。	年少児に自分の考えを伝えよう とエ夫する姿を認める。	・子どもが目で見て確認できるよう な言葉をかけていく。 ・食材や自分たちの給食にも意識 がむけられるように関わる。	最後までしっかり片付けができるでう、保育者も声をかけながら一まに片付けをする。 片に片付けを意欲的にしようとする姿	子どもたちの薄を受け止め、次 り遊びが深まりつながるように声 かけをする。 他の遊びにも興味を持ち「やって 他の遊びにも興味を持ち「やって かたい」と関係が特でるよう、遊り の様子を一覧に伝えていべ、	
予想される幼児の姿	○おばけ作り ・自分のイメージするおばけ・・ を作るために必要な材料を選し び、描いたり切ったり貼ったり・ロー ・なりまこりで見たおばけや・ロー ・なりまこりで見たおばけや・ロー 作のまだけなど、目標を持ち 作る姿がある。 ・文方とも作くなど、日標を持ち まるがある。 ・文方とも作くなんかのユス・文だと作くなんかのユス・スだとも作くのは、はいは、はいなど、日本を持ちます。	分を手伝おうとする。 のガソリンスタンド ・店員さん役になり、ガソリン スタンド・イラン経験を思い 相して「ありがなっこさいました。 たりなどと再現する。 ・年少児と遊ぶ中で、遊びを すすめていこうとする。	○かたつむりのお世話 ・水槽やエサスれが糞などで・ 汚れていることに気つき、き、 れいこしようとする。 ・「今日のエサは~やな」と、 食材にも興味を持っている。	○片付け ・重いものは友だちに助けて・ もらえるように自分だちから 。 も声をかけて協力して片付けよ うとする。 ・自分が使ったものだけでは ないまだ片付けが終わって いないところを手伝いに行く	・自分の遊んでいたところの 上非う子も出てくる。 しまう子も出てくる。 の振り返り ・自分がしていた遊びや、気・ らったこと、楽しかったことを らったこと、楽しかったことを らったことを を着する。本書もの話を聞い。 ・ 首かもに不みずいな丼もの話を聞い。 でだちや保育者の話を聞い。 で、一方がもれてなずいな丼して	たり新たな考えが出てきたりする。
環境構成	・画用紙、ガムヤーブ、 ナイロン袋、両面テー ゾ、セロハンテーブを構 離しておく。	・三輪車、スポンジ、きれ を用意しておく。	・飼育ケースの側に常 時、洗うためのスポン ジ、霧吹きを置いておく。	・片付ける場所が分かる ように、入っている道具 も や材料をラミネートしたも のを貼っておく。	・ () () () () () () () () () ()	
語報				10:40	10:50	

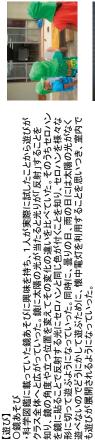
- 9:30~11:305歳児 やま組 ·成28年度 ·成28年9月13日(火)

8名) [担任] 長谷川 [支援] 1対1堀田・庄司・山本み 女児 26名(男児18名 うみべのもり保育所

}	
野光	
遊び・生活・発達~	
2	
子どもの姿	
イト	

(生活)○時間を意識し、クラスで声かけをしながら見通しを持って生活している。○自分で考え行動し、身の回りの事を積極的に取り組んでいる。個別の声かけが必要な子もいる。○当番活動や飼育物など、決められた役割を責任を持って取り組もうとしている。

【発達】 〇遊びの中でより遊びを発展させ、深める為の試行錯誤や友達同士の話し合いが見られる。 〇道具の特徴や素材の違い、組み合わせ方など、物の理解と不思議な現象を繰り返し楽しんでいる。 ○友だら同士遊ぶ中でケンカが起きてしまったり、思いの違いから言い合いになってしまう場合もある。保育土を 頼るときもまだあるが、お互いに話し合って解決できるようになってきた。 〇興味のある生き物や物などを観察し、丁寧に描いている。細かな特徴を捉えたり、色合いの違いに気付く子もい る。





・大きな猫と小さな猫をうまく重ね合わせて目的の場所まで水が流れるように工夫してあそんでいる。樋の固定には、ガムテープや輪ゴム、紐などを組み合わせて失敗を繰り返しながらうまく固定できるように試行錯誤している。高さがないと水が流れないことにも気づき、椅子やカゴを利用して傾斜が出来るように設定している。) 樋あそび



○おばけづくり ・夏まつりでやま組は手作りおばけ屋敷を披露したが、その影響からうみ組でおばけ ブームが来ている。やま組のおばけを見に来て見本にしたり、おばけを貸して下さい それって行ったりする内に、やま組のチオ少しずつうみ組がどんなおばけ屋敷を作っ ているのか興味を持つようになってきた。うみ組だけでは難しい所もあり、年組を 頼ってくれることに喜び、手伝いに行くようにもなってきた。うみ組との関わりで全部 やま組がしてしまうのでなく、うみ組の子が自分で出来るように手伝うのがなかなか 雑しいようだった。



○お絵かき

・男の子の間でドラゴンボールが流行っており、友だち同士家で描いてきたドラゴンボールの絵を交換して、模写したり写し描きをしたりして楽しんでいる。鉛筆描きが出来ると色を塗って丁寧に仕上げている。完成した絵はお気に入りの箱に詰めて保管している。



子どもを主体とした保育 公開園【うみべのもり保育所】

平成28年度 平成28年9月13日(火) 9:30~11:30 うみべのもり保育所 5歳児 やま組

26名(男児18名 女児 8名)【担任】長谷川【支援】1対1堀田・庄司・山本み

子どもの姿~遊び・生活・発達~

「遊び】
・保育所にある3種類の土とやま組の部屋の前で偶然見つけた土、合わせて4種類の・保育所にある3種類の土とやま組の部屋の前で偶然見つけた土、合わせて4種類の土を作りがいたがらまりている。固まりやすい土た、さら砂に使いやすい土をどそれぞれの特徴を遊びながら発見し友達と共有することで、さらに遊びを深めている。つるつるに磨いて並ぶ子や、カチカチに固めて繊加ら転がして遊ぶ子など、ただお団子を作るだけでなく、そのお団子を次の遊びへと発展させている。

〇飼育 ・教人の子が家から持って来てくれたカプトムシとクワガタを、持って来た子が中心 ・監話を毎日している。 友だちのクワガタと大きさを比べたり、 虫かごの中でケンカし 「ていると心配して引き離したりと、大切に育てている。







○壁作リーおばけ屋敷 ・やま組の部屋とは別の暗い部屋で光遊びをしていた子どもたちが、やま組の部屋でも 同じように光遊びをしたいと言い出したことから、ダンボールの壁作りが始まった。大き たダンボールを切って壁にして暗い部屋を完成させたところで、ちょうどうみ組と一緒に お代け屋敷ごっこをしていたこともあり、光遊びではなくお化け屋敷として部屋を使う ようになった。・おばけになりきる子と、進行役の子、手伝いをする子など思い思い分かれておばけを繋げてないでしている。うみ組、そら組の子を誘いに行ったり、新しいおばけのお面づくりをするななど日々、遊びが進展している。子ども達でおばけ屋敷のルールを作るなど、楽しく遊ぶ為のエ夫をしている。

平成28年度 平成28年9月13日(火) 9:30~11:30 うみべのもり保育所 5歳児やま組26名(男児18名

【担任】長谷川 【支援】1対1堀田·庄司·山本み

8名) 女児

も有する	評価の観点	◆ 由の様子をじっくりと 観察しているか そなだらといわが どの様子を伝え合って いるか	今鏡を動かして光が反 がしているか何度も試 しているか しているか せるために相談し合っ ているか をもかに相談し合っ たいるか をもかにはいるか、ま をもかせているか、ま た、重なった色がだん な色かずがしているか、ま な色か予想しているか	◇向度もライトを使っ かかの大きさが変わる ◇影の大きさが変わる ことに不思議を際に、 方だちと相談し合って いるか かったまて上試したって いるか は、なかがおいの水の 量や中のセニハンなど 変化をつけて違いを比 次して違いを比 次して違いを比 がたいがな	◇高さや角度を調節したり状の量を調節したり状の量を調節したりながら繰り返し試しているかっているか。 ◇友だちと何が原因で上手(流れないのか相 別生(会になっているかもの有度や場所に合わせて固定する道具を選択しているか
・友だちと繰り返し試し、協力して遊びを展開させていくことを楽しむ ・分からないこと、気付いたこと、発見したこと、様々な思いを友だちに伝え共有 ・自然の事象や物の性質などに気づき、新たな変化や不思議を感じる	保育者の援助と配慮	・子どもたちが生き物の世語を きっとりとしているが見ずる。 観察している子ともに、何に気付いているのか、また、疑問に感じ、 あばないかなど子どもの気づき る点はないかなど子どもの気づき のはないかなど子どもの気づき のよりになる言葉がいをタイミ ングを見て伝える	・何を根拠に鉄道びが出来るか、 とは来ないかを判断しているのか事 なることで大陽の事象に関心を持し てるようにする ・1枚の時と複数枚の時で光の強 さは同じなのか、親まっているの ないに気づけるよう尋ねる ・光の道を上手く繋げる為に工夫 はあるのか様子を見て声をかけ もの変化、光の反射率など、セ ・色の変化、光の反射率など、セ ・色の変化、光の反射率など、セ ・色の変化、光の反射率など、セ ・一色の変化、光の反射率など、セ ・一色の変化、光の反射率など、セ ・一色の変化、光の位が表づらが表す。セ	光の当て方、影の映し方など光 光の間気体を流れたら気づけ ような言葉が付き意識する 然の具のように由が混ざるの ないまです。 はまったのかかける 水の量や、セロハンの色のこだ りなど、工夫を凝らしているとこ りなど、工夫を凝らしていると といるとしまれる。 がは、一大を凝らしていると がなまれているとしませた。 なする。 を取りの子にも伝わるように中 たする。 を表はして新しい発見が得 があまりに一緒に考える。	・上手く水が流れなかった時は何が同因で上手(いかなかったのか 考えてなを討せるように関わる 一個定が上手(いかない時には別 の道具や方法がないか提案して みる それぞれの考えを尊重しその姿 を認めつつ、友だちと一緒に協力 する楽しさも伝える
」、協力して遊びを展開さ すいたこと、発見したこと、 生質などに気づき、新たな	予想される幼児の姿	○虫の飼育 ・受耐したすがカフトムシとク ・フガタの様子を確認し、エサ の減りをキェックする ・・世話係の子どもが来るとエ ・・アンカしているクワガタを引 ・・ケンカしているクワガタを引 き難したり様子を観察する	○鏡遊び ・大傷の出具合を見て鏡あそ びが出来そうか考える ・1枚の鏡で反射させたり、複 数枚の鏡で反射させたり、複 数対の鏡で放ける。 ・地面に鏡を置いて光の道を 作る ・ボーローがを当て ・ボーローができます。 ・ボーローができます。 ・ボーロールンを当て ・ボーローができます。 ・ボーローができます。 ・ボーローができます。 ・ボーローができます。 ・ボーローができます。 ・ボーローができます。 ・ボーローができます。 ・ボーローができます。 ・ボーロールンを当て ・ボーロールンを当て ・ボーロールンを当て ・ボーロールンを当て ・ボーロールンを当て ・ボーロールンを当て ・ボーローができます。 ・ボーローができます。 ・ボーローができます。 ・ボーローができます。 ・ボーローができます。 ・ボーローができます。 ・ボーローができます。 ・ボーローができます。 ・ボーローができます。 ・ボーローができます。 ・ボーローができます。 ・ボーローができます。 ・ボーロール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボ	○光上影の遊び ・幅い場所でライトが各位で た様々起影を作ってみる。 ・ライを近づけたり離したり ・フィを近づけたり離したり ・フィーとが多力を得る様子 ・セロ・ンをライトに当てて光 ・セロ・ンをライトに当てて光 ・セロ・ンをライトに当てて光 ・セロ・ンをライトに当てなり、 ・シャボトルに光を当て、米 と光の暗らめく様子を眺めた り、日にセロ・ンを入れて目 つきの光を眺める。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○極あそび ・値を使い、角度や高さ、繋 してがなどを考えながら水を消 して遊ぶ 1・手、流れなかった場には ・外が調れているところがない か見たりその他の原因を考 えて別の方法を試してみる ・輪ゴムや細などある物を上 ・輪ゴムや細などある物を上 ・ ・
	環境構成	・観察用に虫めがわ を置いておく ・霧吹きを使えるようにし こおく	・大小様々な形の鏡、アルボネイル、スプーンなどを用意、子のでは、一つでは、一つでは、一つには、カー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー	・ライト、ベットボトル、ダンボール、布、などを用 ルボール、布、などを用 して位えるようにして選択 いてのであるようにしてが、 い事い範層をおばけ障撃 と合わせて他をあるように 子どもの声に合わせて 時間酸液する ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・猫、ケース、ガムテープ、輪ゴム、細など選択・ して使えるからに通過を 準備しておく ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
遊びのねらい	開報	9:30			

うみべのもり保育所

◇捕まえた虫をじっくり と観察したり図鑑で調 引 ペケリにているか 今友だもと虫の特長や 生態について話し合っ ているか ・驚かし方に工夫が見 いられるか ・・積種的にうみ組やそ ら組を強い、おばけ屋 敷しつこをしているか ・・うみ組、そら組と一緒 に遊びを楽しんでいる ◇自分の総を及だち 「原世だり、別せても 「原世だり、別せても 「真女をしようとして いるか 今写して描くにはどう すればやりやすいか 考えているか ◇一人で進めず、うみ ら 組に根気よく教えよう 生しているか ◇経験したことを生か けして物を作ったり、手 伝ったりしているか)・お互いの考えを聞い て受け入れているか ・新しい方法や遊び方 を考えて試しているか ・おばけをしたい子が たくさんいても譲り合っ たり、どうすればよい か考えようとしている ◇草や花壇の角など 丁寧に探し回っている 評価の観点 ・子ども達のやりとりを邪魔しない。 ように見守り、丁寧に描けていた。 りこだっている箇所があれば間。ら りの子にも伝えて共有する。 ・見ながらと写し描きでは完成す。 る絵に違いが出るのでその違い。 をお互いに認め合いそれぞれの。 す、思しいこ認め合いそれぞれの。 は、おしたころに気づけるように中立。 はする。 ○虫取り 「国庭の虫がいそうなとこ名をで調べて大切に飼育できるように をおうと来したみ。 りずると来したも、では、 いするというとなった。 「図鑑などで知っている知識など ・ハケツにる作ってそこに捕まえ。 が生まれるように保育土から疑問 た生気を入れて観察する。 ・虫の住みのは、 が生まれるように保育土から疑問 た生式を入れて観察する。 保育者の援助と配慮 は、いまは「屋敷ごっこ、かまばけ優になり驚かすが、は いまばけ役になり驚かすが、は 加減できず走り回ったりお客。背 の子を描すえようとしている。 いた名をんを楽内したり、中の はばけに準備をするように呼 しないける、進行役をする。 いかける、進行後をする。 予想される幼児の姿 ・光り遊びと合わせて懐 。 中電灯は使えるようにす・ る ・虫取り網、砂場の玩具 (など) 所定の場所に用意・しておくいる総を絵本棚に常時間 りいておく ・新しいお面などおばけ ・ グッズが作れるようにう で み組とそら組には連絡を・ しておき、部屋にコー ナーを用意してもらう オ ・やま組の手作りお化け グッズを見本に使えるよ・ うに展示しておく ・部屋に掛かっている段 ボールの壁は常時置い ておく ・おばけの服やお面を入 れる箱を用意しておき、 自由に使えるようにする [7 ・自い紙、鉛筆、色鉛筆、クーピーなど製作棚・に常時置いておく・机を配置しておくが 環境構成 9:30 時間

女児 平成28年度 平成28年9月13日(火) 9:30~11:30 うみべのもり保育所 5歳児やま組26名(男児18名

【担任】長谷川 【支援】1対1堀田・庄司・山本み

8名)

女児

【担任】長谷川 【支援】1対1堀田・庄司・山本み

8名)

# 10.50 で				
(京	-	○それぞれの土、砂を 使いながら目的に合 わせて種類を選択して いるか 今水の量や、土の種 をがの量や、土の種 が加した泥団子を大 今宗成した泥団子を大 今宗成した泥団子を大 今宗成した泥団子を大 今まだいるか かなだべて色や硬さ、 さかりい地の違いにあ 付いているか	◇元の場所にきちんと 戻したり、使える物は 次のあそびに取ってお こうとしているか	今自分の言葉で気付 いたこと、発見したこと などをおっているか などをおっているか 大変したり、驚いたり、 疑問に優しているか 受関に優しているか 質問をしているか 質問をしているか
環境構成 子想される幼児の姿 近び用の道具を所定の 砂場の砂や真砂土、赤土な 遊び用の道具を所定の 砂場の砂や真砂土、赤土な 海の容器を行っておく ましをんため、土を使っておま 小に保管できるように個 でわえど。 マイナンにでわいが 小の容器を用意する (マルビカの前域、砂のが1 大のの種類で試せるように (本) を (アイナー で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	保育者の援助と配慮	色や壁え、土の特性をあそびな、名の様性を あるが、名の様性をど あるびに生かしているかなど意 れて述べるように関わりを持つ れて遊べるように関わりを持つ はて遊べるように関わりを持つ だれの土の特性などに気付い だいない子には周りの及だちを巻 どか、一次ない子には周りの及だちを巻 だない子には周りの及だちを巻 だない子には周りのなだちを巻 だながるがいていけるように仲 たをするなくても何度も繰り返 イメージしている形を目指す姿 は認めていく	・自分の物だけでなく最後まで片付けが出来るように保育士も一緒に片付けをする	その場で見本が見せれる物は見てなり場である。 下の場であるように配慮する。 不思議や気づきに共感し、たらに 戻まるように電子が「かけた」 では繋がるような言葉がけを意識 大道の気づきなど発表した内容 大道の気づきなど発表した内容 がはのますが思いを出し合って シリ取りが出来るように進める。
環境構成 環境構成		○砂遊び、お団子作り ・砂場の砂を買むせ、赤土だ どのななり、土を使っておき まごをしたりお団子作りをしてあるが、 キリンパーですっている ・ヤンパーですってです。 はアイメージしてそれに合う ローエを選んで作っている ボルボッカル源、砂かいに ガルエナしている 、友だちの作った物を参考に フルビングを表表している 「カンドーがあるが関いたりする 作れるが関いたりする		○振り返り ・不思議に感じたこと、発見し ・たこを承だ与に伝える ・だちの発表を引っる ・に付け加えて発表する ・上手(いかなかったことや、 ・上手(いかなかったことや、 ・ようなってみたいことを発表 する
<u></u>	環境構成	- 水の入ったタンクや砂 遊び用の巡算を予可定の 場所に設置しておく ・ 作ったお団子をそれぞ れに保管できるように個 別の容器を目標できるように個 別の容器を目標する ・ お回子作り用の布をい くつかの種類で試せるように用意する	・子ども用のほうきを常 時置いておく ・片付けがしやすいよう に用具に写真を貼る	
	時間		0	10:50

・日奉・福子・

[担任][三]

女児7名)

: 9名(男児2名

しる

0歳児

福米

平成28年10月21日(金) 9:30~11:30

公開園【タンポポハウス】 子どもを主体とした保育

平成28年10月21日(金) 9:30~11:30

【抽任】戸川・ 山亀 女児7名) : 9名(男児2名 しむ **ダンポポンウス** 0歳児

【生活】 ・生活のリズムが分かるようになってきて、オムツ替え、手洗い、衣服の着脱等 保育者の言葉掛けを理解 ・自も動く姿が見られる。 ・食事面では、手掴みで食べたり、コップやスプーンを自分で使おうとしたり、食べさせて欲しい時には保育者に指差しで伝えるなど意思表示が出来る。 子どもの姿(遊び・生活・発達

【発達・遊び】 〇1歳~1歳1ヶ月 ・摑まり立ちや手を離して立てる。 ・好きな玩具を見つけるとハイハイで移動し、手に取り摑んだり握ったりする。 午睡は、布団に自ら入り、寝かし付けをすることで安心して一定時間眠れる。

ロに入れて感触を確かめ ・玩具を叩き合わせて音が出ることを喜ぶ。 ・担任の保育者が分かり、笑顔が見られ保育者が傍に居ると安心して遊べる。

〇1歳3ヶ月~1歳6ヶ月

(今日の活動)
・室内遊び(ふれ合い遊び・身体を使った遊び・コロコロ遊び)

(遊びのねらい) ・伸び伸びと身体を動かして好きな遊びを保育者と一緒に楽しむ。 ・哺語やしぐさで自分のしたい事や思いを伝えようとする。

・玩具に興味を示し自分 から手を伸ばして触った り、ロに入れて確かめな ・個々の様子を見守りながら言葉 掛けをしたり、遊びに第のたりしな がら遊びが広がるようにする。 ・「運動会でしたね」楽しかった お」等、義設したことを思い出すよ 顔で伝えたり、保育者の うな言葉掛けをしたり、思いを代 第2年でかけたり、思いを作 第4年でかけたり、思いを作 第4年でかけたり、最かを高かる。 ・友だちに興味を示し、近 づいて見たり触ったりして ・他児の遊ぶ姿に興味や 関心を持ち近づこうとして いる。 ・保育者と一緒にやり取り を楽しむ事を喜んでいる。 ・保育者と触れ合うことを 声を上げて喜んだり笑っ たりする。 自分から好きな遊具や 場所へ移動して遊ぶ。 評価の観点 がら楽しんでいる。 5% ・カゴが取り合いになるので玩具を出した後は片付ける。 ・玩具の誤飲やけが等の安全面・「元具の誤飲やけが等の安全面) ・ふれあい遊びの曲だと気付ける ように歌を唄いながらそっと傍に 座り、寄り添い一緒に遊びたい気 ・個々の様子を見ながら違う遊び に興味を示した時は、落ち着いて 遊べる空間を用意する。 ・好きな場所でじっくり楽しめるように、遊具の配置空間作りを工夫する。 ・子どもたちが発した言葉を拾い 上げ、応答したり「どうぞ」「ありが とう」のやり取りを楽しめるよう保 ・何に興味を示し欲しがっている か等見守り、取り合いにならない 様なら仲立ちをして子どもの思い を言語化し受け止める。 少しずつ玩具を片付けながら絵 ・安全面に気を付け見守りながら、 反対から登ることは危ないというこ とをきちんと言葉にして伝える。 保育者も楽しみ遊びの仕方を見 ・危なくないように見守り、おまま ごとに興味が向くように他児とや り取りを繰り返し楽しむ。 ・見守りながら個々がしたい遊び を楽しめるように空間をエ夫し確保していく。 ・甘えたい、安心したい気持ちを受け止め、抱っこしたりふれ合いを多く持つようにする。 保育者の援助と配慮 育者も一緒に楽しむ。 本の準備をする。 持ちを引き出す する ·オムツ替えが終わるとズボンを履こ うと足を上げる ・トンネル・滑り台・マットの山等自分 の気に入った場所で遊ぶ。伝え歩き やハイハイで行きたい場所へ移動す ・滑り台では、反対から登ろうとした | り、お友だちの横から登って行こうと する。 ・好きな食べ物を見つけ食べるマネ をしたり、保育者に「どうぞ」と差し出 したりする。 ・おままごとの入っているカゴに興味を示しカゴを持って歩く。 ・カゴに食べ物を入れたり、コップで 飲むマネをして遊ぶ。 ・保育者の振りを見てマネしたり、身 体を揺らしたりする。 ·曲が流れると保育者の傍に横にな ・経験(運動会)からトンネルだと分か 保育者が転がすのを見て興味を示 だってがまってもようとする。 ・自分で転がして出来た事を喜び拍手をしたり、保育者の顔を見て伝え ・友だちが持っている玩具が気になり取に行こうとする。 リ取に行こうとする。 ・オムツ替えが終わった子から、保育者の傍で絵本を見る。 ・おにぎりリュックを背負いたいと要求し背中を向ける。 ・転がさずに投げる子もいる。 ・ロに入れたり、握ったり、引っ張っ たりして感触を確かめようとする。 ・自分の気持ちや思いを指差しや、 ・オムツ替えをする事が分かり替え てもらうことに応じる。 ・保育者に抱っこを求めたり、膝に座ったりする。 予想される子どもの姿 お友だちにしてあげようとする。 り、くぐることを楽しむ 顔の表情で知らせる。 ペットボトルキャップ 「ちょうちょうさんひらひら」 〈もも組の部屋に移動〉◎ふれあい遊び・曲を流す 〈オムツ交換〉 ・遊びながら待てるよう おにぎりリュック おにぎり 簡(穴) ドンネル ◎身体を使った遊び 環境構成 こ玩具を用意する。 絵本を用意する。 おむすびころりん ②型□□□□◎ 辿りむ でンヤア マッア(王) ◎おまま『と 食べ物 ロップ ポット カゴ 三生

平成28年10月21日(金) 9:30~11:30

: 15名(男児8名 もも タンポポンウス 一樓児

· 斯米

田.

[担任]西脇

女児7名)

子どもの姿(遊び・生活・発達)

[生活]
・食事の際は手づかみやスプーンを使って食べ、また、月齢の高い子は正しいスプーンの持ち方を保育士に促されると持ち直せるようになってきた。
・若羊な食材があったり、途中で眠くなる子も気分転換を図ったり、励みをつくることで食べようとする意欲が見られる。
・オムツに排泄がなければ、トイレに座ったり、排泄ができたりする子もいる。また、月齢の高い子は排泄を自分の口で伝えたり、股を押さえたりして知らせることもできる。
・ズインの報を履きを自分でしたがる子、保育士に促されてしてみようとする子がいる。屋外へ出る際は、頭を押さえて「ぼうし」と帽子をかぶることを意識したりする子もいる。
・ズボンや戦の設定履きを自分でしたがる子、保育士に促されてしてみまうとする子がいる。屋外へ出る際は、頭を神さえて「ぼうし」と帽子をかぶることを意識したりする子もいる。
・日齢の高い子、低い子の個人是にあるが、親田や二路文を貼す子が地入できた。子ども同土、保育士との言葉のやりとりもある。言葉で思いを伝えることが難しい子はキや口が出てしまうことがある。
・音楽やピアノの音が関こえると体を揺らし、親しみのあるものには動作を交えて特に反応する。手遊びや歌詞も覚え、月齢の高い子は言葉を発し歌に参加する。月齢の低い子の中には、歌詞の語尾を歌に合わせて発する子もいる。

【発達】 ・個人差はあるが、少しずつ言葉が出始め、簡単な単語を使い、自分の思いを伝えようとする姿が見られる。一部の子は「先生!〇〇しちゃった」と二語文を話せる子もいる。 ・保育士の行動を真似たり、動いたり、言葉を発したりする姿が見られる。そこから見立て遊びに繋がって いる。 ・お友だちに対して興味が出始めて存在が気になる様子。それぞれの自我が出てきているので、トラブル・お友だちに対して興味が出始のて、トラブルもあるが、保育者が仲立ちをすることでやりとりも見られる。 ・・ケラス全員歩行が安定し、自由に走ったり、探索遊びをしたり、活発になってきた。

◎感触あそび~片栗粉~ ・保育士が片栗粉あそびの準備をする姿に興味を持って見る。また、「○○もしたい」と一緒に準備をする 子もいる。

・直接手で触り、ぐちゃぐちゃにしたり、手のひらで持ったり、握ってみる子もいる。 ・カップに入れ、スプーンで混ぜて遊ぶ。 ・ペットボトルに溶かした片栗粉を保育士が上から垂らすと「うわー」と不思議そうに見て喜んでいる。 ・手について嫌がったり、ロに入れてしまったりする子もいる。

◎感触あそび~寒天ゼリー~ ・素手で触れる子もいれば、スプーンやヘラなどを使い寒天に触れる子もあり、それぞれの遊び方で楽しんでいる。

・直接触るのを嫌がる子も袋に入れて渡すと袋の上から触ることができる。 ・カップ、お皿などを置いておくと、自分たちで寒天ゼリーを入れ、「見て一」と保育士に伝える姿がある。 そこから、「どうぞ」「ありがとう」のやりとりが始まり、見立て遊びに繋がってきている。 ・星の型抜きをしたものを見せると「きらきら」「きれい」という言葉が出てきた。

③造形あそび~紙粘土~・自分からが、二歳児クラスの子が遊んでいるのを少し離れたところから見ている。自分から触りにいく子はいないが、二歳児クラスの子が遊んでいるのを少し離れたところから見ている。・保育士が型抜きした物を見せると、星形には「きらきら」、ハート型には「かわいい」など、形に応じた言葉を発することができる。

子どもの姿(遊び・生活・発達

びを通して、保育者や友だちとの関わりを楽しむ。

感触を楽しむ。 自分の思いを簡単な言葉や身振りで伝える。

[内容] ◎感触あそび ・片栗粉あそび ・寒天ゼリーあそび ・紙粘土あそび ◎おままごと

【内容選択の理由】
・春から何度も感触あそびをしており、小麦粉、片栗粉、絵の具、寒天ゼリーなど、様々な素材に触れてきた。寒天ゼリーなど、様々な素材に触れてきた。寒天ゼリーを掲札に上場もでは、子ども逆の中でも遊びが広がり、カップやお皿に入れて、「どうぞ」とか友だちに渡す姿が見られた。型抜きを保育土がやってみせると、真似して、始きることなく長い時間楽しめていた。一色のみの遊びがら、色をつけ、おまま「とコーナーを設置し、子とも遊の反応を見て少しずつ環境も変えていった。まま「とコーナーを作ったことで、見立て遊びが好きな子はやりとりが活発になり、1月日に遊ぶことができている。片栗粉あそがについては、一葉児だけでのみてが知らは、音手な子がり、1月日に遊ぶことができている。片栗粉あそがについては、一葉児だけでのあそび初めは、音手な子がり、1月日に遊ぶことができている。片栗粉ある本がこしては、一葉児だけでのあそび初めは、音手な子がら、大きいクラスの子や保育上の姿を様似できるようになってきたり、友だちに興味が出てきたが増えた。大きいクラスの子や保育上の姿を様似できるようになってきたり、友だちに興味が出てきたり、関わり合いながら遊ぶ姿も見られるようになってきた。そこで、子どもたちが好きな感触あそびや見立て遊びのなかで、語意の獲得や意思の伝達に必要ななの様得のために本内容を選択した。

子どもを主体とした保育 公開園【タンポポハウス】

評価の観点	・保育者の姿を模倣して 遊ぶ姿が見られる。 ・興味を捧む、回廣も 触って遊ぶ姿が、見られ る。	・袋に入れると触ろうと する。	・自分の思いを伝えよう としている。その中で、 身振りや簡単な言葉でや りとりをする姿が見られ る。	・圧縮袋に入った寒天ゼ リーを足で踏もうとする。	・保育士の声かけで口に 入れることをやめようと する。	・自分の思いを伝えられる。	・二歳児クラスの子が遊んでいる姿に興味を持つ。	・自分が感じたことを保育士に伝えようとする。
保育者の援助と配慮	・保育者が先頭に立っ て、子どもたちが興味を 引くような言葉かけを行 う。	- 苦手な子も遊びに参加できるよう、袋にびれて・ できるよう、袋に入れて・ 孩子など、直接触れなく てもいいよう考えてい く。また、保育士が傍に むり添い、遊びを見せ	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・安全に留意しながら、 足の裏でも寒天ゼリーの 虧触を感じられるように する。	・ロに入れても問題はないが、誤飲での事故や怪我が起きないように十分に日を配る。	・数を十分に用動しておい。 ・、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・現ている子の傍に寄り・ をい「何作っているのかんな?」「一緒にやってみいるの。」など子ども謙の類味を引くなってなってない。 「本語」の表示を引くなってない。	・子どもが発した言葉を繰り返し、思いに共感する。
予想される子どもの姿	○株天ゼリーで議ぶ ・カップやお目にゼリー を入れる。指で触った り、ぐちゃぐちゃにした リして選ぶ。 ・ヘラやスプーンを使っ ・ヘラやスプーンを使っ ・スラやスプーンを使っ	・素手で触ることを嫌がる子もいる。	・保育士の真似をして、 型抜きを使って寒天ゼ リーで遊ぶ。 ・寒天ゼリーを見て「き らきら」「きれい」と言う。	・圧縮後に入った寒天七リーを足で踏んで楽しむ。 落ちているゼリーを乗っる 終し	にはなっていまっても ロに入れてしまう子も る。	・お友だちが持っている 物や同じ物がほしくて取 り合いになる。	・二歳児クラスの子の やっていることを少し離 れたところから見る。	・保育士が型抜きした物 を見て星の形のときは (「きらきら」ハートの移・ を見て「かわいい」と言う。
時間 環境構成	● ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					●	. (1)

日 图 編 (金) (金) (6) (6) (7) (7) (7) (8) (7) (8) (7) (8) (7) (8) (7) (8) (8) (9	0	名) 【担任】西路 本田	どもの姿 保育者の援助と配慮 評価の観点 てもらう・一人ずつ名前を順番に・名前を呼ばれた。 呼び、おむつを順番に替 士のところまで来 えていく。その際、「おする。 むつきれいにしようね」	641 - 174 16 17 44 - 12	ちゅうちゅう とうしょう はいい はい	・自分でやろうとした姿を変め、自信に繋げてい を敷め、自信に繋げてい けるようにする。 、ホー・子どもたちがスムーズ・保育士の言葉に反応 に移動できるよう、それし、ホールに移動しよう ぞれの場所に立ち誘導す」とする。	がそび・興味を持った姿を見逃・保育者のしているすって見 さす、丁草な声かけを行 に興味を持つ。うもした いながら準備を進めているする く。やりたいと意欲を見せた子にはその思いを受け止め、できる範囲で一緒に集を行っていく。	・ゃく ・子ども達の行動を言禁・他って遊ぶ姿が、見にし、「〇〇だね」など、れる。 かり、 具体的に伝えていく。 ・やりたいという思いる。	スプー・保育士も子ども達と一・保育者の姿を模倣して精になって遊び、思いを 遊ぶ姿が見られる。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	くった ・ 直接触れなくても遊び ・ 保育者の姿に興味を ・まった に参加できるように保育 持っている。
	1田(豫) 9:30∼11:3	: 15名 (男児8名	予想される子ど 5) を必玩具・おむつを替えて	・トイレに行き禁泄する	ズボンを築	育士に使 動する	ڋ	手ゃ手でにあるかのなった。	・カップに入れ、スプーンで混ぜて遊ぶ。 ・ペットボトルに遊かし ・パットボトルに遊かし た片栗粉を保育士が上かっ ら奉らすと不思議そうに	見る。 ・手について嫌がった り、ロに入れてしまった!

評価の観点		・お気に入りの物を見つけ帯が、	食べ物に見たてて遊ぶ。	・死へほうが、「ん、うへ」ほしていてなが、思いを一手が一下。	目集で広入る。	・ 何 成 見 の れ り	・保育士の現仮をして遊ぶ。		・二歳児クラスの子ども たちの姿を真似て遊ぶ。	・興味が広がり"知りたい"という気持ちが見られた。	
保育者の援助と配慮		「何作ってるの?」なるをなる。 オンサイナ	《見立て遊びの中に入りばかる上の記録を	2ののそし至むの。 8、一、第一十八八 海んたいんごう 10 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11	#同には現すりも入望に、 目や言葉で伝えよい、 こしている時には共懸・、 「〇〇だね」と言葉・にして返す。 ここれに	千を見ったして	パれるより、回業も高職ノながの一緒にままじんながの一緒にままじんなかける楽しむ。		・子ども同士の関わりを 見守りながら必要に応じ て仲立ちをする。	・「OOだよ」と丁寧に ・栗明 返し、語意の獲得に繋げい" 。 ていく。	
予想される子どもの姿 保育者の援助と配慮	〇ままごとあそびをする	気に入った玩具を手にた 選ぜる重似をした	り、食べる真似をしたりして湯が	か。せに「見て一」、	- Istv. < で」と言い、隣す。	P器から入れたり出し Jして、繰り返し遊	ぶ。 ・「いただきます」「ご ちそうさまでした」な さそうさまでした」な	と、日常生活のやりとりをしながら、友にながら、友だち同士で遊ぶ。	・二歳児クラスの子ども たちの遊ぶ様子を見て、 同じように真似て遊ぶ。	・「これなに?」といろ ・「(いろな物に異味を持ち、返し、 保育士に尋ねる。	
	◎ままごとあそび ・包丁	・まな板・スプーン	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	、 。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・コンロー・コンロー・コンロー・コンロー・コンロー・コンロー・コンロー・コンロー						
巨生											

平成28年10月21日(金) 9:30~11:30

タンポポハウス 2歳児(歳児) すみれ組 : 17名(男児11(2)名 女児3(1)名) 【担任】竹内 ・ 行永 ・ 山根 子どもの姿(遊び・生活・発達)

《生活》 ・1 日の生活の流れが分かり、落ち着いてすごせるようになってきた。 ・身の回りのことを保育者に促されながら行っている。 ・衣類の着脱など自分でできないことは保育者に「してください」と甘え、援助してもらいながら
- 指に提供っている。 - 市に対している。 ・トイレに行くことを嫌がる子もおらず、排泄できるようになった。 ・食事面ではこぼす量が少なくなり、メブーンの正しい持ち方を意識して食べられるようになっ
/た。 ・苦手なものも食べたことを褒められることで、意欲的に食べられるようになった。
《発達》 ・鉄棒にぶら下がったり、アクティブ平均台に上ったり、ジャンプしたりして身体を動かして遊ぶ ※・*****・*・**
安か増なくさた。 ・友達と追いかけっこやごっこ遊びをするなど、子ども同士の関わりが増えた。 ・言薬の数も増え、自分の意思を言薬で表現できるようになった。
《遊び》 〈片栗粉あそび、紙粘土あそび、寒天あそび、ままごとあそび〉 ・ストロー、モール、カップなどの材料を使い、イメージを膨らませ、遊びを広げる。 ・「おべんとう」「かきごおり」「へびみたい」などと見立て、友達と会話しながら遊びを楽しん
でいる。 中で握ったり、足で踏んだりして感触を楽しんでいる。 ・毎が最必ることで色が変化することに気付いている。 ・粉に水を入れまぜることで「かたい」「ドロドロ」と喜んで遊んでいる。 ・自分で水の量を調節し、気に入った固さにして遊んでいる。

《ねらい》 ・色々な素材の感触を楽しむ。 ・作ったものを見立てたりして保育者や友だちとのやりとりを楽しむ。

《内容》 〈片栗粉あそび〉 ・粉だけを触ったり、水をいれて、感触の変化に気づき楽しむ。 ・縦牡上おそび〉 ・友達と見せ合い、こねる、ちざる、丸めることを楽しむ。 〈葉天あそび〉 ・圧縮袋に入った感触を踏んで楽しむ。 (ままごと) ・包丁やフライパン、鍋などを使い、切る、焼くなど見立て、友達と関わり、ごっこ遊びをする。

《内容選択の理由》 ・遊びの中で色々な素材に触れ、それぞれの感触の面白さを知り、身体全体で楽しんでほしいか

ら。 ・様々な材料を使い、イメージを膨らませ、遊んでほしいから。



子どもを主体とした保育 公開園 【タンポポハウス】

・見立てを受け止めることでごって遊びに繋がる ・仲立ちしたことに より友だちと一緒に イメージを膨らませ ていく ・認めたことで笑顔 になり次の遊びへと 繋がる 保育者の声掛けに より、言葉で表現する ・喜び、笑顔で遊7 が始まる 評価の観点 ・期待が持てるような言葉掛けをし、ドキドキ、ログロクを推有する
 ・アスピンを指する
 ・アスピンを関わりが持てるよう保育者が伸立ちとなり遊びが広がるようににするになった。 ・「上手にできたね」 「おいしいね」と食べる 真似なし、記立て必受け 上かる中で子どものやり とりを楽しむ ・「何が焼けたの?」 ・「何が焼けたの?」 ・「一一」と声を掛け、子どもの思いを音様 け、子どもの思いを音様 ・上手にできたことを認め、達成感を味わえるようにする 保育者の援助と配慮 ・パフェカップに寒天を入れ て「おいしそう」と食べもの に見立てる ・コンロにフライバンを乗 せ、「ジュージュー」「やけ たよ」と保育者に見せる ・女だちと中身を見せ合い、 こねる、ちぎる、丸めたりを して遊びをはじめる ・メトローモールなどの材料 を取りに行っ、 ・アルミホイルやカップに紙 粘土を入れて「かきごおり」 「おべんとう」など見立てて 保育者にみせる ・鍋やフライパンに乗天を入れ、料理をする ・中身に期待を示し、アル ホイルを慎重に開ける 予想される子どもの姿 環境構成 垂

子どもの姿	ーへてさ、お 用意する の指示ではか ・分からない子には個別 る に伝える	・おむつ、パンツ、ズボンの ・頑張る姿を認め、見中 ・豪かられたことに着脱を自分でしようとする り、できたことを褒める より、次へのやる気に繋がる。他児も褒められている様子を見られている様子を見て頑張るうとする	ころまで自分で値 ・手伝いながらもやり方 ないところは保育 を教え、次に繋がるよう でもらう	・保育者が嫌が終を思せて、やってみなた。とこう気持ちを引き出す・インともたちの様子を用るのなく人材がを用きする。 のなく材料を用きする。 のなっく材料を用きする。 ・どう遊んでいてか深り インる子にはそばに等り ※い遊びを提案し、共に 乗いむのを表していたが がいばびを提案し、共に 乗しむ。	がみられる ・片栗粉に触ることで見た目・・感触の変化を感じられ ね」「へびみたい」 ・りか違いに気づき、保育者に あっすって「固いね」「も など保育者とのやり 伝えようとする ・水の量により感触が変化す などやりとりを楽しむ ることを楽しむ	 (・) 「ぬるぬる」と落ちた寒天・保育者も一緒になって ・6階んで楽しむ ・6日で切ったり、手で掴ん み、子どもの感じたこと だり、カップに入れたりして を受け止め共有する 施ぶ
-0	○看版用の台を用意 ・目分のロッカする する むっ、パンツを ・全体へ向けて からない子もい	・おむつ、、・ 静脱を自分・	・できるところまて 張り、できないとこ 者に手伝ってもらう	(ホール側テラス) ・	がみられる。 ・ 万年 ・ 万年 ・ 万分の ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で	○嫌天ゼリーあそび・「ねるね。 ・シート (1) ・和 (1) ・和 (1) ・ を知てゼリー・ も口で切っ ・カップ ・カップ ・ は順 ・ は間 ・ コオーク ・ 型林さ ・ などを用意する

9:30~11:30

平成28年10月21日(金)

平成28年度

平成28年10月21日(金) 9:30~11:30

女児6名) : 16名(男児10名 3歳元 ゆり組 アンポポンウス

[生活]
・生活の仕方が分かるようになり、身の回りのことを自分でしょうとする。
・生活の仕方が分かるようになり、身の回りのことを自分でしょうとする。
・他児を手伝ったり、声を掛けるなど、友だちを意識する姿が増えた。
・特滞は、ほとんどの子が自立た、自ら原意を感じてトイレへ行く。
・食事は、正しい箸の持ち方が出来ない。子も自分でさらえようとしたり、量を加減することで「食べた」「苦手な物も食べれる」という満足した姿が見られるよう」になった。
・当番活動を喜び積極的にお手伝いをしている。
・保育室内を走り回ったり、椅子に座ることが難しかったり、つられる子が多い。 【担任】猪野 【支援】2対1由里·東 子どもの姿(遊び・生活・発達)

[遊び] ・イメージを持って「これを作りたい」と言う子は少数だが、異年齢児の姿を見て真似をしたり、そこから物作[|] 【発達】 ・一緒に遊びたい友だちを誘って、好きな遊びを楽しむ。 ・年中、年長児の遊びを見て真似をしたり、教えてもらいながら製作遊びを楽しんでいる。 ・身がち物での自立て遊びが増え、言葉でのやり取りが増えてきた。 ・道具の使い方や素材の違いを意識するようになってきたがまだ未熟である。

りを始めている。 ・何かを作るというよりも「貼る」「切る」「つなげる」ことを楽しんでいる。 ・他児の作っている物や、篩られた物を見て「こんなんしたい」と作り始める。 ・職下に飾られている件中、年長児の正を見て「置れたり、作りたいという気持ちがある。 ・総具を手に付けるなど感触を楽しんでいる。 、作ることを通して道具の使い方や素材を感じたりする。 ・友だちや年上の子の真似をし、自分なりに表現しようとする。 ・作った物で見立て遊びや、ごうこ遊びをして友だちと関わる。

内容】 然具に

・総具に直接手で触れたり、筆やローラーなど様々な道具で描き、線の太さの違い、色を混ぜると変わることなど体験する。 となど体験する。 ・単なる線や丸でも自分なりに見立てたり「〇〇みたいに見える」楽しきを味わう。 ・ボリたい物にはどんな道具や素材が必要か自分なりに考える。 ・イケルがは無くとも、「くっけけたら〇〇が出来と」など「作る」ことを楽しむ。 ・イメージは無くとよ、「くっけけたら〇〇が出来と」など「作る」ことを楽しむ。 ŵ (理由) ・ボディペインティングや、運動会に向けての道具作りを通して絵具に触れ、色を混ぜること、様々な素材に描くことを楽しんでいた。紙だけでなく違う素材、筆だけでなく割り箸など、様々な道具で描ける事を楽しんでほしい。 んでほしい。 ・年中、年長児が作った物に憧れていた子どもたち。廃材の空き箱に紙を貼るだけでも「カバン」「宝箱」「スマホ」と様々な意見が作った物に憧れていた子どもたち。廃材の空き箱に紙を貼るだけでも「カバン」「宝箱」「スイナ」と様々な意見があり、それぞれに大事そうに扱っていた。作る楽しさを感じているので、次は、それを作るために何が必要か、のりが良いのか・デーが良いのかなど、道具の使い方も意識しながら作ることを

楽しんでほしい。 ・作るだけで満足せず、作った物を使ってごっこ遊びに繋げていきたい。 ・まだまだイメージした物を「描く」「作る」という段階ではないので、今は、十分に素材に触れることを楽しんでほしい。

平成28年10月21日(金) 9:30~11:30

【担任】猪野 【支援】2対1由里·東 女児6名) : 16名(男児10名 3.機元 中リ組 タンポポハウス

				1 1 6 1 1
9:30	株元氏状 (廊なた ・様なな表材を取り出 しやすいように分類し ておく ・テラスとふじ保育室 をつなべ通路を設置 する。	ア終られるすらもの来	本目もの技動に記載いたの部屋でどんな遊びが出来るか知らせる。 ・片付けの時間を知らせる。	計画の歌馬 ・次第に遊びを探そうと する。
	(テラス) ・ブルーシートを敷い ておく。 ・和におり、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・筆やローラーで段ボールや模造紙に色を付けたり描く。 ・友だちにこっちにも描けるで」 「こんなん(道具)あるで」と教える。 ・女だちや異年齢児の姿を見て 真似をする。 ・ピのように遊べば良いか分からず、うろうちする。 ・たか手に総具が付いてしまい、 ・たか手に総具が付いてしまい、 ・たか手に総具が付いてしまい、 ・日かの体に絵具を付けて楽しむ。	なだちのしている事にも目が向くような声掛けをする。 保育者も一緒に遊びなが いちにしるいわがの色だ っぱんしのが描けたね」がの色だ っぱんしい、意識出来るよう に要したり、意識出来るよう に要が出せない子には、保 資者がモデルとなり、遊び 出せるきっかけを作る。 他の遊びに移る時には、 他の遊びに移る時には、 他の遊びに移る時には、 他の遊びに移る時には、 たまうな声増けを行う。	・遊びに必要な物を探 している ・友だちや異年齢児の ・女だちや異年齢児の ・後を見ている。 ・化者の真似をしようと している。 ・様なな道具を使おうと している。 ・一緒に遊びたい友だ ちを探している。 ・大胆に古くこと楽し
	(ふじ組保育室) ・ブルーシートを敷い ておく。 ・各和に絵具(赤・青・ ・ 春を設置しておく。 ・様々な素材、道具を ・様々な素材、道具を 選んで遊べるように 製作備を設置しておく。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	総具を混ぜることを楽しむ。 ・	・「色が変わったね」「どれを混ぜたの?」など変化に気付いたり、考えられるような計算性を行うできた!」「見て彼し」という気持ちに共感する。・子どものイメージする物やの材料や道具を使えば良いか一緒に考える。・描いた物を周りの子にも見せ、友だちを意識したり関わけが持てるような言葉掛けを行う。	・色の変化を楽しんで いる。 「〇色になった」など 発見、気付きを声に出 している。 ・様々な道具で描こうと ・している。 ・使いたい物を選び用 意している。 ・「見て」「出来た」など デ成を書んだり、伝え たい気持ちを言葉にしている。
	(ゆり組保育室) ・作業用の机を設置 しておく。 ・・折紙やお総描きな ど落かきも、で遊べる コーナーを用意する。 ・・今まで作った作品を 見える所に置いてお く。	・好きな材料を選ぶ。 ・異年齢児の作っている物に顕 味を持ち、真似をする。 ・都を積んだり並べてくっつける 事を楽しむ。 ・シールや折り紙などを箱に貼る ことを楽しむ。 でした外料はあるが、何をど のように作れば良いのか分から ず、ろうろする。 ・イメージした物が作れず途中で 投げ出す。 保存音を発展・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・何を作ろうか送っている子・ には声を掛け、子どもの思 日 いを聞きながら一緒に考え に ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・手伝ってはしい事、 困っている事を保育者 に伝える。 ・道具を自分なりに考えて使っている。 ・周りの友達の作って いる物に興味や関心を 持つ。 ・方だちや異年齢児の 真似をしている。

子どもを主体とした保育 公開園【タンポポハウス】

9:30~11:30 平成28年10月21日(金)

タンポポハウス 4歳記 ふごâ

【担任】水上 【支援】2対1千代 女児8名) : 17名(男児9名

子どもの姿(遊び・生活・発達)

〈生活〉 ・衣服の着脱や手洗いうがいなど、身の回りのことが身につき進んで行う姿が見られる。 ・保育者がしていることに関味率々で集まってきて、近ぐで見たりお手伝いを頼まれると喜んで行う。 は当番活動を楽しみにし、意欲的に行っている。 ・物を大切にしようとしたり、丁寧に扱うことが難しい。 ・物を大切にしようとしたり、丁寧に扱うことが難しい。 ・自分の思いを伝えたい、聞いてほしい気持ちが強く、人の話を静かに聞くのが難しいことがある。

(発達)
・運動会に向けての取り組みの中で、鉄棒(前回り、逆上がり)やフラフーブでのケンパ、ゴム跳びなど出来ることが増えた。様々な運動あそびに挑戦したことが目信となり、次への意欲に繋がっている。 本方だちとの関わりが深まり、「や日は〇〇へ(んちんん)と遊ぶ。」と個人を特定した発言が増えてきた。その為。 ただちを匈別けが深まり、「や日は〇〇へ(人ちんん)と遊ぶ。」と個人を特定した発言が増えてきた。その為。 ただちを傷つけたり、思いが、ジンかりあいトラブルになることもある。 ・ 兄弟の子 や年 下の子に優しく検する姿がよく見られる。また、困っている友だちを見ると助けてあげようとする姿を見見られる。

・数歩先で見つげた自然物を図鑑で調べたり、絵本で見て知っている物を発見すると、「〇〇で見つけたやつやー!」「これ知っとる!」と友だちや保育者に伝える。 ・年長児への憧れの気持ちが強く、和太鼓や運動会での組体操を真似て、友だちと一緒にやってみようとする姿が見られる。

〈対対〉

・昨年度の経験から、「製作したーい・」とリクエストし製作あそびを楽しみにしている。 ・野成形をイメージして作っている子もいるが、腐材や素材を見て欲しいと思ったものを選び、何かを作って いるうちに「カバン件のよっ。」など決める子が多数である。 ・なんでもロテーブで接着しようとしたり、使用に見合った長さがわからず使いすぎてしまう。 ・なんでもロテーブで接着しようとしたり、使用に見合った長さがわからず使いすぎてしまう。 ・友だもが作ったものを真似て同じものを満足するまで作ったり、出来上がったもので「アイスクリーム屋さん」があき米屋さん」など、少しずつ遊びが展開し始めている。 ・年長児や保育者と一様に、段ポールで「家」を作り、中に入ってごっこ遊びが始まっている。家にあるものを考えて「トイレ」や「利」を作っなから川では1条件り、中に入ってごっこ遊びが始まっている。家にあるものを考えて「トイレ」か「利」を作っなから川では1条件が、中に入ってごっこ遊びがら作りたいもののイメージが広がり、形にしようとする姿が見られる。 ◎製作あそび

・困っている事を周りの 友だちや保育者に伝え。 ・一緒に遊びたい友だ ちを誘っている。 「鍵閉めます」「ご飯で すよ」など見立てて遊 作った物を飾ろうとしている。 ・友だちや異年齢児と 関わって遊んでいる。 言葉でのやり取りを ・作った物が描んだい ・他者を見て、片づけようとしている。 困っている事を周 ける姿を見せる。 「これは、まだ使えるね」な ど声に出い、意識出来るよう にする。 ・頑張っている子の名前を 呼んで褒め、友だちの前で よ 認める。 ・飾る場所を伝え、次回も楽・ しみに出来るような声掛けを で ・子ども同士の関わりを見守 りながら、イメージが膨らむ ような声掛けを行う。 ・子どもが興味を持っている 物を用意したり、好きな遊び が出来るスペースを確保す 自分の作った物を飾るスペース|・保育者が見本となり、片づ ・道具の使い方を一緒に考 保育者の援助と配慮 ・段ボールの家に入ることを喜い、「び、見立て遊びをする。 「「どうぞ」「鍵閉めて下さい」な、 「ど、ごっこ遊びを通して関わりを 使った物や、まだ使える物をど こに片づければ良いか分からず、途中で投げ出す。 ながなか片づけに取り掛かれば、遊び続ける。 へ持って行く。 ・机の上や床に落ちている物を 予想される子どもの姿 架 (さくら組保育室〉 ・子どもたちが作って 7 いる物を一緒に設置・ する。 ガムテープと段ボー ルを用意する。 ・作業用の机を設置 環境構成 八片付け〉 11:00 謳业

平成28年10月21日(金) 9:30~11:30

タンポポハウス 4歳児 ふじ組 : 17名(男児9名

女児8名) 【担任】水上 【支援】2対1千代

時間	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
	〈廊下〉 ・様々な素材を取り出 しやすいように分類し アギン		・始める前に、片付ける時間 をホワイトボードの時計で示 しておく。	
G	いるへ。 ・テラスとふじ組保育 室を繋ぐ通路を設置 する。	・やりたい遊びの部屋へ移動する。 る。 ・仲の良い友だちを誘う。		
05	(テラス) ・ブルーシートを敷い ておく。 利に絵の具(赤・青・ 煮)、ローラーや筆な ビャ田音! エセケ	◎絵の具あそび(大型) ・何をしようかと迷いながら、先に「遊んでいる子の姿を見て遊び始? かる。	・テラスにある物を伝えた J、友だちが遊んでいる様子 を見せて興味をもてるような 言葉掛けをする。	・友だちがしていること に興味をもち、真似し て色を付けて楽しむ。
	- C. T. T. T. 大き様なな素材を用意 ど様々な素材を用意 する。 ・足拭きタオルを用意 しておく。	・ローレーや筆を使って脱ボールを紙、透明ボリ殺などに色を付けて遊ぶ。	・素材によって色の付き方や・ 描きやすさなどの違いを感 じられるような言葉掛けをす 信 る。	・色が付いな。所を友だ ちや保育者に見せて 感じたことを言葉で伝える。 ・他の素材にも興味を もって描いてみる。
		・色を重ねていべうちに色が変化 していくことに気付く。	・どんな風に色が変化したか・ (色の濃淡や色味など)気付 けるような言葉掛けをした。 り、一緒に発見を楽しむ。	・友だちが描いた上に 色を重ね、色の変化を 楽しむ。
		・段ボール箱に色付けした物を 「家」「車」など、それぞれにイ メージしたことを友だちや保育者 と伝えめ、本物に近い色を作 らうと色の組み合わせを考え、 説す。 ・色の付いたボールや廃材を斜 面に転がし、転がる様子を見て 楽しむ。	・互いのイメージを伝えあっている姿を大切に見守り、 「互いの思いにも落付けるような言葉掛けをする。 ・試行錯誤する姿を記守り、 場合によっては助言する。 ・試がるおや大きた。色の付・ ・も方にも気付けるような言葉 掛けをしながら、一緒に発 増けをしながら、一緒に発	・気付いたことを友だち や保育者に伝える。
	(ふじ組保育室) ・ブルーシートを敷い ておく。 ・各机に絵の具(赤・ 青・黄)を設置してお	,	・いろんな色を楽しめるよう、 カップの使用数は限定しな いでおく。 ・子もの気付きに共感し、 ・子もの気付きに共感し、	・いろんな色の組み合わせを試す。 わせを試す。 ・「○ 色と△色を混ぜた ら◆色になった・1 と出
	・様々な素材、道具を 選んで遊べるよう製 作棚を設置しておく。 ・段ボールを壁に貼 り、描して流ぐるコー	育者に見せる。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		来た色を言葉にして伝える。 いろんな素材に気付き、真似して試してみ
	インボーンボージョーナーを用意する。 ・足拭きタオルを用意 しておく。 ・絵画ラックを設置し	・ハブラシや割り箸等、筆とは違う物を使いその物ならではの色のやき方にあれく。	・集中して描いている時に見 中リ、子どもの気付きの瞬 間を大切にする。)・気付いたこと、不思議 に思ったことを自分な りの言葉で伝えようと する。
	ておく。	ンプをして模 Jむ。	・スタンプして出来た模様の形・大きさに興味がもてるような言葉掛けをする。	・出来た模様を何かに 見立てて描いたり、形 を組み合わせて描こう とする。

子どもの姿(遊び・生活・発達)

〈ねらい〉 ・日分なりのイメージをもち、表現することを楽しむ。 ・素材の特徴や道具の使い方を知り、試したり工夫することを楽しむ。 ・友だちと一緒にイメージを広げながら作る楽しさを味わう。

(内容)
・色々な素材や道具を使い、じっくりと作ったり描いたりし、様々な方法を試す。
・素材や道具の使い方を考える。
・素材や道具の使い方を考える。
・イルドや物を大切に扱う意味を知る。
・イメージしたことを及だらと伝えあう。
・友だちと必要なものを考えて一緒に作る。

(内容選択の理由) ・作りたい思いが高まり、様々な素材や道具を使おうとする姿が見られるので、作ること描くことを楽しみな がらイメージを広げて記しい。 ・道具の使い方や物の扱い方が雑なところがあり、なかなか身につかないので物づくりを通して気付き、物 を大切にする気持ちをもってほしい。 ・物づくりを通して、且いにイメージしたことを伝えあう姿が見られるので友だちと一緒にひとつのことをやり 遂げる達成感や互いを思いやる気持ちを味わってほしい。

子どもを主体とした保育 公開園【タンポポハウス】

聖	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
		・絵の具あそびで作った猫を散 歩させたり、エサを作ってお世話 をしようとする。 ・作った家の中でそれぞれに役・・ を決め、仕事や買い物に出かけ i	- 緒に家の中に入って遊 びながら、その場に応じた	・言葉でのやりとりが増え、欲しいものや作り
		るなど日々の生活を再現して遊ぶ。 ぶ。 ・家の中に必要なものを考え、保育者もかまだった。	言葉掛けをする。 自分の家にある物を思い HI	たい物が浮かんでくる。 る。 ・アイデアが浮かび、 素材を選んで作り始め
		置き、完成 で で	有しながら作れるような言葉 る 掛けをする。 ・完成を共に喜び、工夫して	る。 ・認めてもらったにとに
11:00			いるところを認める。	魯のを怒い、他の <u>数も</u> 作ってみようとする。
		・時計を見て片付けの時間になったことに気付き、友だちや保育者に伝える。	子どもたちで気付いて声をかけあえるよう、時間を意識できるような言葉掛けをする。	・時計の数字を伝えた り、年下の子に優しく 教えてあげようとする。
		・まだ遊びたくてなかなか片付けられない子もいる。	・次回、続きを楽しみにできるような言葉掛けをし片付け を促す。	・次回を楽しみにし、意 欲的に片付けを行う。
		・自分が使っていた物を片付ける。 ・ブルーツートに総の具が付いていることに気付き、雑巾で拭く。	・進んで片付けている子の 姿を受け入れ、「ありがとう」 「助かる」など感謝の気持ち	・相手が喜んでくれた り、人の役に立ってい ることに喜びを感じる。
			を伝える。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 白公分休日去目店!
		・数1780年の1860に重さ、出来上がった物を飾ったり袋に入れて片付ける。	・いっるいではん、ロイナがったことを共に喜ぶ。	・ロガンTFmを次に 満足感を味わったり、 友だちの作品にも興味 をもつ。

時間	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
		. 0	・その子なりの工夫ややリ方を認めて、他児へも発信する。	・認めてもらった喜びで 満足して他の遊びに 移ったり、「もっと描い てみたい・」と次に期
		・楽の袱用の色水を目分で作う うとする。 ・自分で作った色を友だちと見せ 合う。	・自分が作った色と友だちが 作った色の違いなどに気付	待をもつ。
		◎製作あそび ・自分のハサミとのりを持ってい く。	けるような言葉掛けをする。 ・ハサミを持って移動する時 の注意を子どもと一緒に確	・約束を守って安全に 使おうと意識する。
	・今までに作った作品 を見える所に置いて おく。	自的が定まらないが、使いたい・ ・自的が定まらないが、使いたい・ 廃材や素材を選び、切ったり 貼ったりすることを楽しむ。 かばん・宝箱・脳輪など作りた・ いものに必要な材料を選びに行	数する。 楽しいと感じる気持ちを大 別にしたがら、物づくりへ繋 がるきっかけをしくる。 選んだ素材や自分なりの 認して作ろうとする姿を認め	・作りたいものが見つ かり、考えながら作っ てみる。 ・認めてもらった喜びで ・イインが勝らみ、エ サーズ・スタようすする。
		だちや年長児が作っているも を見て同じように作ってみよう -る。	だちや年長児に作り方を シナリ、子ども同士で関 がもてるよう促し、見守	・わからないことは友だ ちや保育者に聞き、自 分で作ってみようと努 力する。 ・素材に応じた接着剤
		Mに応じた接着剤かわから セロテープを大量に使う。 だちが使っているものが使し て、置いてある場所を尋ね	・セロテープ以外の接着剤 があることを伝え、どれが使 えるかを一緒に考える。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	に気付き、試してみようとする。 ・女だちへの関心が高まり、同じものを使って まり、同じものを使って
		のこのいろな大きさの廃材を並 いるいろいろな大きさの廃材を並 のべ、より自分のイメージに近いも のを選ぶ。 自分のイメージや思いを言葉に・	、時には中立524る。 どうしてその廃材を選んだ)か尋ね、イメージを言葉で ええられるよう促す。 互いのやりとりを見守りな	IAI7の。 ・女だちの思いに気付き、受け入れようとした り自分のイメージがよ
	〈さくら組保育室〉 ・子どもたちが作って	して伝えあい、友だちと一緒に作ることを楽しむ。 ることを楽しむ。 ・出来上がった物を保育者に見せに来る。	いる、必要に応じて言葉を いけイメージを共有できるよ にする。 「可報。 「頑張って作ったね」と完成 せられたことを認め、次の とかっ意欲に繋げる。	リ広がる。 ・認めてもらったことで ・認めてももったことで ・このでは、「ま だがってのよう!」と意 欲を高める。
	いる物を一緒に設置 する。 ・ガムテープと段ボー ルを用意する。 ・作業用の机を設置 しておく。	◎段ボールあそび ・前回作った物を使って遊んだ り、続きを作り始める。	の関わりを見守ら作りたい物の で作りたい物の がるような言葉	・友だちの思いを聞き、 イメージを膨らませて 遊ぶ。 ・イメージに近い素材を
		・保育者とやりとりする中でイメージが膨らみ、足りないものに、メージが膨らみ、足りないものに、気付き、工夫して作ろうとする。 ・クラフトテープやガムテープを使って段ポールを繋げる。	が サイともの気付きを具体的な ・子どもの気付きを具体的な 言葉で伝え、イメージを引き ・オープの長さや止め方など を意識できるよう促し、使い	強し、協りに必要な物 を作り始める。 ・必要な量を考え、物 を大切に使おうとす る。
		・段ボールやガムテープで繋げ ようとするが、うまくちぎれず悩 む。	カを尋ねる。 ・・近くにいる年長児に協力を 間 求めたり、上手くちぎれる方 法を一緒に考えられるような 言葉掛けをする。	・異年齡児と積極的に関わろうとする。

平成28年10月21日(金) 9:30~11:30

ダンポポンウス

女児9名) 【担任】大槻 【支援】3対1谷奥 : 20名(男児11名 さくら 5歳児

子どもの姿(遊び・生活・発達)

生活】・身の回りのことを進んで出来るようになり、先々の事を考えて行動が出来るようになって来ている。・時間に関心を持ち、時計を見て片付けの時間に気付いたり、給食を時間内に食べられるよう意識をして 当番活動のお帳面配りや、給食の三色分けなどを通して文字を覚え、読んだり書いたりする姿が見られ

・分かってながらも、けじめをつけることが難しく、なかなか静かに出来なかったり、用意に時間が掛かり周りが見えなくなることがある。 ・夏野菜作りを通して、1人1人が責任を持って育て、収穫を友だちと喜び合う中で、苦手な野菜を克服しょうとする姿が出てきた。

【発達】 ・生き物に興味を持ち、身体の仕組みをじっくり観察したり、図鑑で調べ飼育をする。餌やりや水槽の掃除を目ら進んで行う ・を目ら進んで行う ・ 友だち同士でルールを決めたり、問題の解決に向け話し合おうとする姿が見られ始める。自分の思いを 言える子が増えてきた。 ・縦割りの活動を通して年下の子の面倒を見てあげたり、日々の生活の中でも気にかけて声を掛けたりす シャノニネン/こ。 鉄棒や縄跳び、スイミングなど、出来なかったことも目標を持って取り組み、出来るようになったことが増 るようになっ

絵を描く時に、人物だけでなく、背景や物など細かい部分まで描けるようになってきた。

【対型】

・肝年度より継続しているため、日々の自由遊びで好んで遊ぶ姿が見られる。・個人で作るより、複数名で協力して作ることが多くなり、意見を出し合って役割分相をして作っている。・打新後直りて遊び上に熱中しており、本を見て試行錯誤しながら作り上げ完成を喜ぶ。出来た子が教え、また出来た子が教え、また出来た子が教え、良い連鎖が生まれ始めている。・道具や備品を大切に使う事が難し、多く使いすぎたり、出しっぱなしでげづけられない時も良くある。・道具や備品を大切に使う事が難し、多く使いすぎたり、出しっぱなしでげづけられない時も良くある。

始めた。

【わらい】 ・気付いたことや、自分なりの方法を友だち同士で伝え合う。 ・絵年齢児との関わりを通じて、年下の子への接し方、伝え方を考えようとする。 ・様々な道具や素材を使って表現を楽しむ。

【内容】
・自分の思いだけを主張するのではなく、一緒に作る中で「こうしてみよう」「こっちの方がいいで」など声を・自分の思いだけを主張するのではなく、一緒に作る中で「こうしてみよう」「こっちの方がいいで」など声を指げ合って一つの物を作り起げるがあげる。 ・作品を作り見せてありずとり、ガムテープなどをちぎってあげたり、困っている姿に気付いて手伝ってあげようとする。片付けも進んで行い手本となる。 うとする。片付けも進んで行い手本となる。

平成28年10月21日(金) 9:30~11:30

: 20名(男児11名 さくら館 ダンポポスウス 5歳児

【担任】大槻 【支援】3対1谷奥

女児9名)

時間	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
	〈廊下〉 ・様々な素材を取り出 しやすいように分類し ておく	・各部屋へ移動する。 ・約束事を確認する。	・始める前に片づける時間 をホワイトボードの時計で示 しておく。	
	・テラスとふじ保育室 をつなぐ通路を設置 する。	・絵具が床に付かないよう、通路 の上を気を付けて歩く。	・通路を楽しみながら通れる ようエ夫しておく。	
9:30	〈テラス〉 ・ブルーシートを敷い ておく。 ・机に絵具(赤・青・黄)	〇絵具遊び(大型) ・道具を使う事を楽しみ使いたいものを選ぶ。 ・総具を描く紙なども質によって	・道具を選びやすいよう見や すく並べておく。 ・感じたことを尋ね、周りに	・共有することでえ、教
	ローフーや幸なと用意しておく。 意しておく。 ・段ボールや模造紙 など様々な素材を用	遅っ事に気付く。 ・何度も行っていることで、塗り方 に工夫をしたり、道具を上手に使	^ること共有^できるきっかい :作る。 良いところを見つけ認める	えてあけようとする会も 見られる。 ・もっと試してみたいと
	息する。 ・足拭きタオルを用意 する。	oとする。 tボールを家や乗り物などに 立てて色塗りを行う。塗ってい っで、ごっこ遊びに発展してい	見立てやすくなるよう段 ドールを組み立てた物を用 にたり、素材があることを	問う。 ・イメージしたものが形になっていくことを が。色が付くことで、す
		へ。 ・落ち葉にコーラーで色を付け、 版画をする。その模様を動物や な花などになるよう組み合わせ	sスさっかけを作る。 考えて行えたことについて 3め、完成を一緒に喜ぶ。	らにイメーンか!なかる。 ・友だちに見せ、方法 を伝えて一緒にしよう とする。
	〈ふじ組保育室〉 ・ブルーシートを敷い ておく。 ・各和に終具(赤・青・	る。 ○絵具遊び 絵具を入れるカップを持ち、混 ぜて色が変わることを楽しむ。 - 目的に合った素材や道具を選	・遊び方、道具の使い方なと ルールを伝える。 ・選びやせいよう、見やすく	・ルールを守ろうとする。 る。 ・いろんな数を毎った
	を設置しておく。 なな素材、道具を もで遊べるように 作棚を設置してお	び、絵や文字を描く。 絵具の色の変化に興味を持ち、色を足していくことで、目的1 ら、色を足していくことで、目的1 合った色作りを行う。	配置し、子どもに任せる。 ・何色と何色を混ぜるとどう なったかなど、尋ね伝える様 会をつくる。	描いてみようとする。 ・声に出して言う事で、 自分自身でも明確になり、また作ってみようと
	レを壁に貼 C遊べるコー 意する。 7オルを用意	・他児と見せ合うことで刺激し合い、作品を与に終中する。 い、作品作りに熱中する。 ・聲に貼ってあるだ段ボールに、 ・音 #1、1、1、4、4、4、1・1・1、4、1・1・4、4、1・4、1・4、1・4、	・集中力が途切れない様見守り、他の子も入れるようきっかけを作る。	したり、教えてあげよう とする。 ・真似をしたり教え合う。
	しておく。 ・絵画ラックを設置し ておく。	線を描いても、日を弾うにも。6 ・描く中で、他の素材を貼り合わったり、イメージをだんだん。	・がJのエミ壁の違いをエガン て遊べるように関わりを持つ ・イメージして形を目指す姿 を認める。	
		りませて作る。 ・割り箸を平たく使い線を描いた ・・ 歯ブランで模様を付け、様々	・エ夫したこと、考えられたこ とを認め声掛けをする。	・もっといろんな事を試 してみようとする。
		な追具を工夫して使つ。 ・松ぼつくりや木の実など、紙でない物にも絵具を付け、作って みようとする。	・木の実など使えるよう保育 者も一緒に物作りを楽しむ。	・真似をする中で作り たいものをイメージし て、自分なりに作って
		・自分の作品を絵画ラックに置き、残しておく。	・完成した満足感を受け止め、乾燥した後どのようにしたいか尋ね、大切に出来るよう促す。	みようとする。 ・その後のことをイメー ジして、作ってみようと する気持ちになる。

子どもを主体とした保育 公開園【タンポポハウス】

評価の観点	The Note
保育者の援助と配慮	気付けたことを認め、周り の子のも声掛けを行う。 年下の子へ教えてあげた リートの子へ教えてあげた ・ 本掛けを行う。 ・ 本操りをこそできる手伝い ・ はを行う。 ・ きりの良い所で終了出来る よう、声をかける。 よう、声をかける。
子想される子どもの姿	- 描 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
環境構成	
聖士	0:11:00

聖士	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
	(ゆり組保育室) ・作業用の机を設置しておく。	〇製作遊び ・イメージしたものに合った素材選 びを楽しむ。 ゲーデーバ・ディン・コージの	・選びやすいよう分類し見や すく配置しておく。 ルマキュ・ペー=1・ル	7
	・	·	. ・、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	・様々な米を15日から け、イメージに合わせて 使ってみようとする。
	・今まで作った作品を 見える所に置いてお く。	・素材からイメージして作り始める。こうしたらどうなるか気になり、、やってみようとする。	・素材の性質や特徴を知らせ エ夫して作れるようにする。	・失敗しても、他のもの でやってみようと考え る。
	,		・相談の際もめたときには、お・ 互いの意見を聞きどうしてい 分 げば良いか、一緒に考えられ ブ るよう仲立ちする。	・相手の思いを知り、自 分たちなりの一番良い 方法を考える力を付け る。
		・年下の子に作り方を教えてあげ たり、難しい部分をしてあげようと する。	・上手〈年下の子に関わっている子を褒めて、他児にも伝えていく。	・自身が付き、年下の子 に目をやり、自ら関わる ことが増える。
		<u> </u>		・素材によって違う事が分かり、適した物を使ってみょうともの。
		・完成した物を見せ合ったり身に ・完成した物を見せ合ったり身に 付けたりし、見てもらう事を喜ぶ。	デースでした。 ・元成した書び本井でいったい。 所を伝えたり、使い方を尋ね、説明したり伝えるきっか 日本作名。	・さいこう こうさき さっこう こうさい ほうに 良くしようと考えたり、足りない物に気付く。
		・散らかった物に気付いて片づけたり、落とい物を知らせたりする。 ・・・折紙の本を見ながら、作りたいものを折る。 華史教えて買いながら作り上げる。	・気付いて出来た行為を認・ め、周りに伝える。 「すぐ」に教えるのではなく一緒・ に考え答えが見つけられる手 を 助けを行う。	・自分から周りに声を掛けてみようとする。 けてみようとする。 ・「出来た」という達成感を味わう。
	(さくら組保育室) ・子どもたちが作って いる物を一緒に設置 する。 ・ガムテープと段ボー	〇製作 ・前回の続きをしようと必要な素材 を選ぶ・ ・何を使えば、イメージした形にな るか、考えてやってみようとする。	・イメージが勝らむよう前回作った物を出しておい。 作った物を出しておい。 ・何に困っているか尋ね、子どもの思いを尊重し、やって	・イメージした物を素直に表現できる。
	ルを用意する。 ・作業用の机を設置する。 る。	・女だちに呼びかけ、手伝っても らったり、協力して作ろうとする。 ・自分がしたい気持ちが強く譲れ ないこともある。	W	・協力することで、新し い発見をしたり、新しい 発想が生まれる。
		・ガムテープなど大切にし、少しず つ使おうとする。使いすぎている子 には、教えてあげることが出来る。	9 る。 ・備品の使い方について認 め、伝え方に足りない部分 は、具体的に言葉にして伝え 2	・認めてもらうことで、大切に使う良さに気付く。
		・作っている物がイメージ通り形になると売れしそうな表情を見せ、保育者やなだちに「見て」ともて貰う事を表す。 事者やまだもに「見て」ともて貰う	どもの思いを受けとり認工夫した事や、使った素間を、周りにいる子にも:キャル・	・見たり聞いたりいてもらい、さらにイメージを膨らませ、発展させよう
		。 ・・ここいる様子を見て興 、、「入れて」仲間に入れ ・・緒に作る。	・おんと、ようで、 ・始めから作っている子に、段階や作り方を共有するよう促す。	(・説明して伝えることで、 (・説明して伝えることで、 イメージしている物が共 有でき、おなじ思いで作 ることが出来る。
		・段ボールの切れ 製作を行う。 うように立たず、ど き戦しながらもやっ	るよう、机 が 、 に ントにな フ・ デザもの	・自分なりの考えを伝え、協力してやってみょ
		てみようとする。 ・出来上がった物をお互いに見せ 合い、次回作りたいものを考える。	意見を尊重する。 ・次回に繋げられるよう、作う・ な物を確認し合う時間を作っ る。	うとする。 ・イメージが膨らみ、子 ども同士で作りたいもの を相談する。

子どもを主体とした保育 公開園(さくら保育園)

- 平成28年11月10日(木曜日)10時00分~11時30分 出口
- もみじ組 (男児 7名 女児 7名) 0歳児 6年保育 対象児
 - 担任 高井祐香 波多野涼子 若島明美
- 4. 子どもの姿
- <子どもの生活の特徴>
- 〇手づかみやスプーンを使って自分で食べようとする姿が見られる
- 〇自分のコット(布団)にはいはいや歩行で向かい、自ら布団に入り、保育者の見守りの中、 安心して眠れるようになった
- 〇帽子をかぶったらお外に出る、食事の後はコットで寝るなど、次の行動に見通しをもてるよ うになり、自分からしようとする姿が見られるようになったりと、習慣づいてきている
- <発達・遊びの特徴>
- 10ヶ月~1歳2ヶ月
- ○腹ばいから座位へと姿勢を変えたり、はいはいで行きたいところへ行く
- 〇斜面や階段をはいはいで登る

ちや、つたい歩きをする

- 〇柵の玩具をつかむために、はいはいで興味のある玩具に近付き、柵につかまってつかまり立
- 〇興味のある玩具を手に取り、舐めたり、しゃぶったり、握ったりし、また両手に持ち叩き合 わせたりする
- ○友だちの遊ぶ様子を見たり、顔や体に触れたりし、関心を持ち関わっている
 - ○気持ちや欲求を、笑ったり、泣いたりして全身で表現する
- 〇特定の保育士のところへはいはいで行き、じっと見つめたり、微笑んだり、抱っこを求めた
- りする
- 〇「いないいないばあ」など保育者とのふれあい遊びを喜んでいる
- 〇手づかみや、保育者と一緒にスプーンを使い、意欲的に食べている
- 1歳3ヶ月~1歳7ヶ月
- 〇歩行が安定し、自分の行きたいところへ行く
- 〇カバンや玩具を持ち、歩くことを楽しんでいる
- 〇階段をはいはいしたり、手すりにつかまり歩いて登る
- 〇箱から別の箱へと足をまたがせて移動している
- ○園庭に出ると、大型遊具の高いところへも自分で登っていく
- 〇指先で積木を持って積んだり、丸形の穴に玉を落として転がしたり、型の違いに気付き (丸・三角・四角)それぞれの型に合う積み木を落としたりすることを繰り返す
- ○簡単な言葉の意味が分かり、身振りや喃語、単語で自分の思いや欲求を表現する
- 〇物をやり取りしたり、時には取り合ったりすることもあるが、保育者の仲立ちにより「ちょ

うだい」「どうぞ」のやり取りができるようになってきている

〇特定の保育士との関わりを喜んだり、喃語や指さしに応えてもらうことで欲求が満たされ安 心して過ごしている

- 5. ねらい
- 〇好きな玩具をみつけ、じっくり遊ぶことを楽しむ
 - ・指先を使いながら、様々な感触を楽しむ
- ・体を動かして遊ぶことを楽しむ

○身近な言葉を理解し、保育者とのやり取りを楽しむ中で模倣し、発語しようとする

6. 保育の内容

〇室内遊び

- ・身体を使った遊び(すべり台、卵パックのマット、牛乳パックの箱)
- ・手先を使った遊び(積み木、穴落とし、マグネット、マジックテープ)



保育者や友だちを真 似たり、やり取りを

喜んでいるか

・保育者が仲立ちとな り、友だちと関わるこ との楽しさを伝えて

評価の観点

P想される幼児の姿 | 保育者の援助と配慮

子どもを主体とした保育 公開園【さくら保育園】

・保育者とのわらべ 歌・ふれあい遊びを

۰ ۲ ۲

喜んでいるか

周囲の様子や他児の姿 ・1対1での関わりを大

切にし、スキンシップ

・好きな友だちがいると ころに自分から近づ こうとする姿を見守 り、子どもの気持ちを

をはかる

H
盂
뀱
₩
_
•

1 # # # 1	マヨナナン休日の次	旧女老の哲界上哲康	部件
坂児楠以	ナ徳される初児の後	保育有の援助と配慮	計価の観点
・取り出すいよう、大きく	保育室内を移動し(ず	・遊んでいる姿を見守り	・興味のある玩具や場
て重たい玩具は低いとこ	り這い・はいはい・つた	遊びを見つけられな	所を見つけ遊ぼう
ろへ置く	い歩き・歩行)興味のあ	い子には興味がもて	としているか
	るところへ行く	る玩具で遊びに誘う	
□手先を使った遊び	・様々な玩具を掴む・握	・「嬉しい」「楽しい」「で	・自分から興味のある
・積み木	る・入れる・叩く・振る	きた」といった肯定的	玩具に手を伸ばし、
・穴落とし	などする	な感情をたくさん味	感触を確かめよう
・マグネット	・玩具を口に入れたり舐	わえる遊びを提供し、	としているか
・マジックテープ	めたりして確かめよう	子どもと共感しあう	・興味を持って、じっ
安全に遊べるように玩具	とする		と見たり触れたり
の配置に配慮し、環境を整	・両手に玩具を持ち、打	・物が床に広がりすぎた	しようとしている
える。	ち付けたり叩き合わせ	場合にはさりげなく	か
	て普を鳴らす	カゴなどに入れ、遊び	
	・マジックテープやマグ	が継続できるように	
	ネットを貼り付けたり	9 8°	
	はがしたりする		
	ぶい 集の ボッグー ゴグ・		
	ら下がっているものに		
	興味を示し、手を伸ばし		
	て取ろうとする		
	・指さししながら喃語を		
	発っし、保育者に伝えよ		
・子どもの目線にイラス	うとする		
ト・写真を用意しておく			
	・すべり台などの傾斜を	・指さしする姿に応え、	・登るときに、手のひ
	上り下りしたり、頂上で	正しい名称を伝える	ら・足裏をしっかり
□運動あそび	立ち止まったりする	ことで発語を促す	使おうとしている
・すべり台	・鏡に興味を持ってのぞ		か(踏ん張っている
・卵パックのマット	こうとする	・一人ひとりの運動発達	φ.)
・牛乳パックの箱	・感触の違うマットの上	を考慮して、手を添え	・繰り返し行おうとし
	を歩行やはいはいで移	たり「よいしょ」など	ているか
	動する	子どもの動きを言葉	
	・箱から箱へ入ったり出	にして伝える	・一人の空間で落ち着
	たりを繰り返す		いて過ごそうとし
			ているか

環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点	語曲	環境構成	予想される幼児の姿
り出すいよう、大きく	・保育室内を移動し(ず	・遊んでいる姿を見守り	・興味のある玩具や場		口ふれあい遊び	・押入れに隠れている子
たい玩具は低いとこ	り這い・はいはい・つた	遊びを見つけられな	所を見つけ遊ぼう			に「いないいないばあ」
> 県	い歩き・歩行)興味のあ	い子には興味がもて	としているか			をして喜んだり真似し
	るところへ行く	る玩具で遊びに誘う				たりする
:先を使った遊び	・様々な玩具を掴む・握	・「嬉しい」「楽しい」「で	・自分から興味のある			・玩具を保育者に渡した
[3 本	る・入れる・叩く・振る	きた」といった肯定的	玩具に手を伸ばし、			り貰ったりして「ちょう
海とし	などする	な感情をたくさん味	感触を確かめよう			だい」「どうぞ」のやり
グネット	・玩具を口に入れたり舐	わえる遊びを提供し、	としているか			とりをする
ジックテープ	めたりして確かめよう	子どもと共感しあう	・興味を持って、じっ			・わらべ歌をうたっても
全に遊べるように玩具	とする		と見たり触れたり			らい喜ぶ
遺に配慮し、環境を整	・両手に玩具を持ち、打	・物が床に広がりすぎた	しようとしている			
	ち付けたり叩き合わせ	場合にはさりげなく	φ			・周囲の様子や他児の姿
	て音を鳴らす	カゴなどに入れ、遊び				に気付き、関わろうとす
	・マジックテープやマグ	が継続できるように				8
	ネットを貼り付けたり	\$ 5°				(顔に触れようとした
	はがしたりする					り、頭をなでたり、友だ
	・ スポース・ アの首に ジ					ちの持っている玩具に
	ら下がっているものに					興味を持ち、取りに行こ
	興味を示し、手を伸ばし					うとする)
	て取ろうとする					・自分の欲求を喃語や指
	・指さししながら喃語を					さし、表情で伝えようと
	発っし、保育者に伝えよ					48
・どもの目線にイラス	うとする					
写真を用意しておく						
	・すべり台などの傾斜を	・指さしする姿に応え、	・登るときに、手のひ			・保育者に抱っこを求め
	上り下りしたり、頂上で	正しい名称を伝える	ら・足裏をしっかり			たり膝に座ったりして
動あそび	立ち止まったりする	ことで発語を促す	使おうとしている			スキンシップを求める
マリ 中	・鏡に興味を持ってのぞ		か(踏ん張っている	10:25	・順次オムツ交換	
いパックのマット	こうとする	・一人ひとりの運動発達	\$\psi\)		→	
-乳パックの箱	・感触の違うマットの上	を考慮して、手を添え	・繰り返し行おうとし		給食	
	を歩行やはいはいで移	たり「よいしょ」など	ているか			
	動する	子どもの動きを言葉				
	・箱から箱へ入ったり出	にして伝える	・一人の空間で落ち着			
	たりを繰り返す		こと過ごをシとつ			

・自分の欲求を伝えよ

橋渡しして、良い関係

を育てていく

うとしているか

・自分だけに向けられ た関わりを喜び満

とつひとつ丁寧に言 葉を掛けて受け止め

子どもの発している要 求の意味を理解し、ひ 足しているか

甘えや欲求を十分に受 け止め、安心して活動

できるようにする

- 1. 日時 平成 28 年 11 月 10 日 (木曜日) 10 時 00 分~11 時 30 分
- さくら保育園 1歳児 もも組(男児7名 女児11名)

岡山留実 井上葵 河端香

- 3. 子どもの姿
- <子どもの生活の特徴>
- 〇手づかみやスプーンを使って自分で食べている。苦手な食材を嫌がる子もいるが保育者の援助や言葉掛けで食べようとしている
- ○着脱を「自分でする」意欲が見られる。また、出来ないときはズボン、おむつを持って
 - 保育者に「して。」と、伝えに来る姿がみられる
- 〇日中パンツで過ごせる子が増えてきた。その子達の姿を見て、まだオマルで排泄できない子も興味を持って意欲的にオマルに座る姿が見られる。
- く発達の特徴>
- ○友だちに興味を示すようになり、友だちの持っている玩具などを欲しくなり、トラブルにな -
- 〇保育者との簡単な言葉のやりとりが出来るようになり、自分の気持ちを言葉で伝えられる子もいる。まだ、言葉で表せない子は指さしや、嫌なことがあると、泣いて伝えようとする
 - 〇歩行がしっかりしてきて、お散歩ではお友達や保育者と手をつないで歩くことが出来るよう

<遊びの特徴>

- Oバズル・・・パズルの入ったケースのファスナーを上手に開けてバズルを取り出し、ピースの向きを合わせてはめている。出来ない時は自分が出来るパズルを持って来て「出来た。」と喜ぶ姿が見られる
- ○おままごと・・・・花ビーズとレンゲやおたまで上手にすくって花ビーズをお皿に乗せたり友だちや保育者に出来た物を食べさせてくれたりする。「何を作ったの?」と、聞くと「ごはん!」と返事が戻ってきたり、見立て遊びが出来るようになってきた。まだ、花ビーズを下に散らばせて遊ぶだけの姿も見られる
- 〇米粉ねんど・・・手でコロコロと丸めたり、ちぎったりして遊ぶ姿がみられる。又、おままごとから、包丁やフォークなどを持って来て粘土を切ったり、回にのせたり、と見立て遊びをする姿がみられる
- 4. ねらい
- 〇手や指先を使い感触を楽しむ
- 〇保育者や友だちと簡単な言葉や、身振り手振りでやりとりを楽しむ
- 5. 保育の内容
- 米数なろが
- ・手先を使った遊び(パズル、リモーザ、シール貼り、ひも通し)
- ・おままごと(花ビーズ、おなべ、フライパン、おたま、レンゲ、国、椅子、テーブル)
- ・運動遊び(カラーBOX、すべり台、鉄棒)

6. 内容選択の理由

・春からひも通しなどの手先の遊びをしていく中で根気よく遊ぶ姿がみられた。その中で手先 指先の遊びを中心に考えていくことにした 夏頃から2ピースから6ピースのパズル、リモ 一ザ、シール貼りを取り入れ、色を見分けたり、枠にはめる、貼るなど、手先の器用さ、集 中力を高めている。その中、粘土あそび、おままごと遊びでも見立て遊びが出来るようになり、手先、指先の遊びも集中して取り組む姿が見られるようになった 毎日の生活の中で保 育者や友だちの真似をしたり、保育者が仲立ちとなり、会話をしていく中で発語を促してい けるよう遊びを取り入れている。ままごとコーナーでのおたま、レンゲを使った遊びでは指 先、手首を使った遊び、食事のスプーンの練習へもつなげている。



子どもを主体とした保育 公開園【さくら保育園】

ł	ē	3
	J	
i	lii La	
	ŀ	
ł	Ħ	Ì
_		

評価の観点	・田分さで雪してい	200 A	60	・指先を使ってちぎ	ったり、こねたり	しているか	・保育者と一緒に触	ってみたり、友だ	ちのしているこ	とを真似ようと	しているか			・形を合わせている	ψ	・指先でつまんでい	るか	友だちがしている	ことに興味を持	っているか	・目的の場所にポン	をはめることが	できているか	・レンゲやおたまで	花ビーズをすく	っているか	・簡単な言葉や身振	りでやりとりが	出来ているか	・自分の思いを言葉	などで表してい	るか	・花ビーズを食べ物	などに見立てて	いるか	・レンゲやおたまで	花ビーズをすく	っているか
保育者の援助と配慮	·保育者十一緒口游ぶこ	スコロー 117月21日	とにより十ともたち	が興味・関心を持った	り、感触を味わえるよ	うに言葉を掛ける	・ロに入れようとする子	には、入れないように	見守ったり声をかけ	9				・集中して遊べる空間を	用意し、出来るところ	まで見守る	・出来た時には一緒に喜	び合う									・保育者の仲立ちでやり	とりや遊びを楽しみ	ながら友だちとの関	わりをもてるように	していく	・子どもが動作や言葉で	伝えようとする気持	ちをうけとめじっく	り聞き取り、「そうだ	ね、〇〇だね」と共感	し、やりとりをしてい	ζ.
予想される幼児の姿	〇古ん十か辞次	いない十八角が	・ねんエをまるめたり、	ちぎったりする	・カップにつめる	・保育者や友だちの真似	をする	・スプーンやナイフで均	ってみる	・触るのを嫌がる子もい	8	・ロに入れてしまう子も	۲.۵	・自分の好きなパズルを	選び、パズルをする。	・友だちがしているパズ	ルに興味を持つ	・リモーザ、シール貼り	をする								・トングやおたまを使	い、花ビーズをおなべに	አ ኯる	・食べ物に見立てて保育	者や友だちに「どーぞ」	「あ一ん」などの言葉を	使い、やりとりをする。					
環境構成	〇米粉ねん、十を用音する	6 / Size / Civic)	18.	・カップ	・スプーン	. ナイフ	・手ふき用タオル							〇指先を使った玩具を用	意する。	・パズル	・リモーザ	・シール貼り	・ひも通し								〇ままごと遊び	コーナーを設定しておく	・なべ、フライパン	・トング、花ビーズ	・ちゃぶ缶、お目	. 12						
開始	10:00	3																																				

	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点	時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
	〇なん土で描ぶ	・保育者も一緒に遊ぶこ	・自分から触ってい				・子どもからの言動一つ	
	・ねん土をまるめたり、	とにより子どもたち	るか				一つ丁寧に関わって	
	ちぎったりする	が興味・関心を持った	・指先を使ってちぎ				>11	
	・カップにつめる	り、感触を味わえるよ	ったり、こねたり					
	・保育者や友だちの真似	うに言葉を掛ける	しているか		〇運動遊具を設定する	・すべり台をのぼったり	・危険がないよう遊びを	保育者や友だちと
	をする	・ロに入れようとする子	・保育者と一緒に触		· カラーBOX	すべったりする	見守り、必要に応じて	一緒に体を動かし
	・スプーンやナイフが対	には、入れないように	ってみたり、友だ		やコント	・鉄棒にぶる下がった游	援助する。	ているか
	ってみる	見守ったり声をかけ	ちのしているこ		* * * * * * * * * * * * * * * * * * *	1		・アイ・ポローヘぐし
	・触るのを嫌がる子もい	9	とを真似ようと		+1. ×3	· · · · · · ·		イン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	9		しているか			00'4' \ 00 - 0'4' \ ''		ころして来しるで
	・ロに入れてしまう子も					9 / /		,770,13
	۶٠٦							
		1	-					
Æ		・集中して遊べる空間を	・形を合わせている	00.11				
	選び、パズルをする。	用意し、出来るところ	か	08.11				
	・友だちがしているパズ	まで見守る	・指先でつまんでい					
	ルに興味を持つ	・出来た時には一緒に喜	8 <i>t</i>					
	・リモーザ、シール貼り	び合う	・友だちがしている					
	をする		ことに興味を持					
			っているか					
			・目的の場所にポン					
			をはめることが					
			できているか					
			・レンゲやおたまで					
			花ビーズをすく					
			っているか					
	・トングやおたまを使	・保育者の仲立ちでやり	・簡単な言葉や身振					
	い、花ビーズをおなべに	とりや遊びを楽しみ	りでやりとりが					
	入れる	ながら友だちとの関	出来ているか					
	・食べ物に見立てて保育	わりをもてるように	・自分の思いを言葉					
	者や友だちに「どーぞ」	していく	などで表してい					
	「あ一ん」などの言葉を	・子どもが動作や言葉で	るか					
	使い、やりとりをする。	伝えようとする気持	・花ビーズを食べ物					
			- 1					

- 平成28年11月10日(木曜日)10時00分~11時30分 1. 田郡
- たんぽぽ組 (男児 16名 女児 9名) さくら保育園 2歳児

山内優香 担任 村田陽子 高瀬茉実

3. 子どもの姿

<子どもの生活の特徴>

〇毎日の繰り返しの中で衣服の着脱や、朝やお帰りの準備等、身の回りのことを保育者に促さ れながら自分でしようとする姿が見られる ○「おしっこがでる」と排泄の前に知らせられるようになり、自分のタイミングでトイレに行 けるようになってきた

〇ほとんどの子どもがスプーンを持って一人で食べようとする姿が見られる。

〇戸外あそびの後や食事の後に服が汚れたら「汚れた」と自分で気づき着替えようとする姿が みられる

<発達の特徴>

〇つまむ・貼る・押す・切るなど指先を使ったあそびを集中して遊んでいる

〇自分の思い通りにならないと叩いたり泣いたりすることで気持ちを表現している しかし、

少しずつ保育者を介して言葉で伝えられるようになってきた

〇平行あそびからイメージを共有し、友だちを意識しながらあそぶ遊びに変わってきた また、同じ空間で1人で遊ぶことを満足している子もいる

楽しむ姿が見られる。また「なぜ」「これ何?」の質問が多くなり外の世界の物事に関心が 〇語彙が増えてきており、友だちや保育者と「〇〇しよ」「先生こっちで食べて」など会話を 広がってきている O鉄棒にぶら下がったり、ジャンプしたり、登る・転がる・など身体を動かして遊ぶ姿が増え

<遊びの特徴>

〇おままごと 保育者を介してのごっこあそびから、友だち同士で「かき氷屋さん」等見立て あそび、つもり遊びが始まっている。また、お料理を作り「熱いですよ」「辛いですよ」と 言葉がけが具体的になってきた

つ運動あそび 初めは怖がる様子があった しかし友だちがのぼり棒や鉄棒、跳び箱等遊んで いる姿をみて、それを真似して全身を使って遊ぶ姿が見られるようになってきた

たり水の量によって柔らかさの違いに気づき「堅いでお水入れて」等、柔らかさ堅さなど触 れた時の感触を言葉で表現している。丸めたり引っ張ったり伸ばしたり押したり、いろいろ 〇小麦粉粘土 粉の感触を楽しんだ後、食紅を入れて水を加えると、色が出てきたことに驚い な材料を使うことによって、ケーキやハンバーグと見立てて遊んだり、「今日先生の誕生日」 等イメージしてあそぶ姿が見られる

4. ねらい

〇いろいろなあそびを楽しむ中で、保育者や友だちとイメージを膨らませながら、会話やごっ こ遊び・見立て遊びを楽しむ

〇造形遊びを通して自分の思いを言葉や自分なりの表現で伝えようとする

保育の内容

〇小麦粉粘土

〇電車あそび

しおままごとあそび

〇運動あそび

〇造形遊び

6. 内容選択の理由

また、見立てあそびやごっこあそびに発展していく中で、友だちや保育者との関わりの楽しさ 〇個々の遊びから友だちと一緒に遊ぶことへの興味関心が向いてきたので、友だちの模倣をし たり、やってみたいという気持ちを伝えたり自分なりの思いを表現してもらいたい を感じてほしいため

〇丸めたり、伸ばしたり、ちぎったりと素材の変化を楽しんだり、見立てあそびをしながら遊 んでいる姿が見られる その中で触覚や視覚を使い、色の変化や感触を味わってほしい



子どもを主体とした保育 公開園 【さくら保育園】

まく貼かず、困っている ・子どもの興味を引くよ ・色々な素材に触れ、 ・うまく貼かなくて困っ うな素材を用意してお 作ることを楽しん ている時には保育者に く マともの気持ちに共感 でいるか ・	うとするがテープがう	大切にする。	
うな素材を用意しておく、子どもの気持ちに共感し、満足感を味わえるようにする・女だちと一緒に作る様子を見守り、トラブルになった時には本時の思いをしっかりと受け止め言葉にする・また状況に合った言葉を知らせ、相手の思いを丁寧に知らせる。	まく貼れず、困っている	・子どもの興味を引くよ	・色々な素材に触れ、
・子どもの気持ちに共感 し、満足感を味わえるようにする ・女だちと一緒に作る様 ・女だちと一緒に作る様 ・女だちと一緒に作る様 ・女だちには本時の思 いをしっかりと受け止 め言葉にする また状 況に合った言葉を知ら は、相手の思いを丁寧に 知らせる。	・うまく貼れなくて困っ	うな素材を用意してお	作ることを楽しん
	ている時には保育者に	~	でいるか
女だち なだちや保	声を掛け手伝ってもら	・子どもの気持ちに共感	
友だちや保	iC	し、満足感を味わえるよ	
	・出来た物を友だちや保	うにする	
子を見守り、トラブルに なった時には本時の思 いをしっかりと受け止 め言葉にする また状 況に合った言葉を知ら せ、相手の思いを丁寧に 知らせる。	育者にみせる	・友だちと一緒に作る様	
なった時には本時の思いをしつかりと受け止め言葉にする また状況に合った言葉を知らせ、湘手の思いを丁寧に担らせる。		子を見守り、トラブルに	
いをしつかりと受け止 め言葉にする また状 況に合った言葉を知ら は、相手の思いを丁寧に 知らせる。		なった時には本時の思	
か言葉にする また状況に合った言葉を知らせ、相手の思いを丁寧に知らせる。		いをしっかりと受け止	
況に合った言葉を知ら せ、相手の思いを丁寧に 知らせる。		め言葉にする また状	
世、相手の思いを丁寧に知らせる。		況に合った言葉を知ら	
さらする。		せ、相手の思いを丁寧に	
		知らせる。	

時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
10:00		〇好きなコーナーで遊	・一人ひとりの思い要求	・自分で好きなあそび
		হ	を丁寧に受け止め安心	を選択できている
	〇小麦粉粘土	〇小麦粉粘土	してあそべるようにす	か
	・机にシートをひいておく	・小麦粉粘土の感触を味	8	・小麦粉粘土の感触や
	・好きな廃材を取りに行け	わいながら自分なりの	・子どものイメージを受	形の変化に気づい
	るように準備する	遊びを見つけ楽しむ	け止め子どもの発想の	ているか
		・好きな素材を選んで埋	豊かさを言葉に置き換	
		め込んだり突き刺して	えて子どもに返してい	
		組み合わせを楽しんで	>	
		511	・作ったものをイメージ	
		・丸めたり伸ばしたりち	してあそびが広がるよ	
		ぎったりすることを楽	うな声かけをする	
		ر		
		・出来た物を保育者や友	・友だちと一緒に遊ぶ楽	・保育者や友だちに感
		だちに見せる	しさを感じられるよう	触を感じ、それを伝
		・友だち同士でお互いの	に保育者も一緒に遊ぶ	えられているか
		作る物を意識して模倣	・「やわらかいね」「気持	・ケーキ・お団子・お
		4	ちいいね」等、他児との	肉等見立ての言葉
		・自分がイメージしたも	感触を共感できるよう	が出ているか
		のを保育者と一緒に作	丁寧に関わる	
		9	・いろいろな廃材を用意	
			しておき自分たちで選	
			んでさらにイメージが	
			膨らむような言葉がけ	
			をする	
		・いろいろな色の粘土を	・色が変化したことに共	・色が変わったことに
		組み合わせて色の変化	感し、色の変化に関心が	気づいているか
		に気づく	持てるような言葉がけ	・言葉や表情で出来た
			をしていく	喜びを表現してい
				8th
		〇造形コーナー		
		・好きな素材を選んでビ	・自分で作った達成感を	・自分なりの表現をし
		ニールテープを使って	味わえるような援助・言	作った物を何かに例
		貼ったりくっつけたり	葉がけをする	え、表現したことを
		する事を楽しむ。	・子どもの話をよく聞	保育者に伝えてい
		・物と物とをくっつけよ	き、表現したい気持ちを	るか

実施計画

H 88	七世中間	マ相ナセス休旧の次	日本 本代 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	記事の部上
中国	垜児倆队	下浴される刻光の姿	体育有の抜助と配慮	計1回の銀元
	〇運動あそび	運動あそび	・鉄棒やマット等危険が	・ぶら下がったり、飛
	・跳び箱	鉄棒にぶら下がってあ	ないよう側について	んだりと全身を使
	・マット	そぶ	十分注意をする	って遊べているか
	·階段	・マットから転がった	・体を十分に動かして遊	・「自分もやりたい」
	鉄棒	り、跳び箱からジャンプ	べるように保育者も	という思いを言葉
		をして楽しんでいる	一緒に楽しむ	で伝えたり表現し
		・保育者を通じて順番に	・「〇〇ちゃんの次ね」	ているか
		並ぼうとしているが押	等声をかけ待ってい	
		されたり抜かされたり	れば自分の番が来る	
		とケンカになる	という安心感がもて	
			る関わりをする	
	〇電車コーナー	電車コーナー		
	・線路	・好きな線路を選んで組	・気の合う友だちとイメ	
	車 車	み合わせて繋げていく	ージを共有させて会	自分の思いを言葉や
	・木の人形	・「こっちにつなげよ」	話をしながら遊べる	仕草で伝えようとし
	- 馬	等友だち同士で声をか	ように関わる	ているか
		け合いながら線路をつ	・友だちと一緒に遊んで	・自分の思いやイメー
		なげている	いる時には見守り、	ジを表現しているか
		・視線を線路の高さに落	時々声をかける等し	
		としながら電車を走ら	て楽しさを共感する	
		せている	・子どもの要求を聞き、	
		・電車が貸してもらえず	仲立ちとなり模倣し	
		に取り合いになる	やすい言葉で一緒に	
			伝える	

時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
	ままごとあそび	ままごとあそび	・子どもが持っているイ	・「何がいいですか?」
		・エプロンをつける	メージを大切に共有し	「美味しいですか?」
	· 机	・フライパンに花はじき	ながら、遊びが広がるよ	等の保育者や友だち
	÷1.1	を入れて料理する	うな言葉がけをする	への会話のやりとり
	・キッチン用品	・料理を盛りつけ保育者	・保育者も一緒に遊びを	をしているのか
	・花はじき	や友だちに食べてもら	楽しみ子ども同士のや	・料理の名前や味等、
	・人形	10	りとりを見守りながら	見立てたもののイメ
	・エプロン	・「辛い」「甘い」等味覚	見立て、つもりの世界が	ージを言葉や動作で
		を言語化する	味わえるようにする	表現しているか
		・人形を使い、赤ちゃん	・「あついですよ」「から	
		の世話をする	い?」等、子どもの問い	
		・他児が持っている物を	かけに共感し丁寧に返	
		貸してほしい時、言葉で	₩	
		伝えられずに玩具を取	・トラブルが起きたとき	「貸して」等自分の
		ることがある	は保育者が子どもの思	思いを友だちに伝え
			いや考えを受け止め代	ようとしているか
			弁して仲立ちしていく	
			・保育者が仲立ちとなっ	
			て友だち同士をつなぎ、	
11:30			言葉を交わす	

-子どもを主体とした保育 公開園【さくら保育園】

日時 平成28年11月10日(木曜日)10時00分~11時30分

. さくら保育園 3歳児 ひまわり組(男児 11名 女児 7名)

国工档用

担任 石島瑛里香

3. 子どもの姿

<子どもの生活の特徴>

〇毎日の生活の流れが身につき、自分の身のまわりのことを自分でしようとする姿が増えてき

〇給食では、苦手な食べ物でも、自ら口に運ぶ姿が見られ、ほぼ毎日全員が給食を完食できる

ようになってきている

〇排泄は、まだ声かけが必要な子やオムツが取れていない子もいるが、ほとんどの子が自分のタイミングで行けるようになり、失敗も少なく過ごすことができている

<発達の特徴>

〇自分が経験したことや思ったこと、驚いたことなどを保育者や友だちに伝えようとしている

○遊びや生活の中で友だちとの関わりが増え、一緒に遊ぶことを楽しんだり、友だちがしている遊びに興味を持ち「何しとん?」「入れて」「どうしてるん?教えて」など言葉のやり取りも見られる

○保育者の手伝いや、お当番で友だちと一緒に手伝ったりすることで、役に立つ喜び、認められる喜びを感じるようになってきた

〇まだまだ自己主張が強く友だちとぶつかり合い、自分の思いを出していく中で、保育者を仲立ちとし順番や簡単なルールなどを守って友だちと遊んでいる

<遊びの特徴>

イニ##

毎日の日常生活の中での体験から、レストランなどでのやりとりや食べ物を再現し、廃材を使ってジュースや料理等を作っている。また、「いらっしゃいませ」「何食べますか?」「ハンバーグください」などそれぞれ役になりきって遊んでいる。

丸テーブルの周りにイスを並べたり、テーブルクロスを敷いたりして自分たちで用意をし、 廃材で作ったジュースを手に持ち「パーティーしよう」「かんぱーい」など友だち同士やそこに保育者も一緒に参加し、話をしながら楽しんでいる ごっこあそびで「〇〇がいるなあ」「〇〇ちゃん一緒に作ろ」と友だち同士で話をし、保育者にも手伝ってもらいながら一緒に共通のイメージを持って作ったりしている

〇製作あそび

・おままごとで使っている電話のおもちゃがあることからきっかけに、一人の子が自分の携帯電話を作り始めた。それを見ていた友だちが「僕も作りたい」と真似をしたり、どうして作るのかを相談しながら作っている姿が見られた。

・自分なりに携帯電話をイメージしながら「数字と文字いるな」「押すボタンいる」など色々な想像や考えを話しながらダンボールや型紙等の廃材を使って工夫をし、形にしようとしてい

・いろいろな材料や道具(ハサミ・のり・クレヨン・テープなど)を使い、貼ってつなぎ合わせたり、作ったり、絵を描いて楽しむ姿が見られる

・「OOを作る」という目的はなく、好きな廃材をいくつか選び、紙などにビニールテープで貼ったり、ただハサミで廃材を切って楽しむ子も多い、また、切り刻まれた廃材をおままごと

で食べ物やジュースに利用するなど遊びが発展していく様子も見られた・番かく切ったものや細々とした廃材を無道作にボンドやビニールテーブなどでくっつけた・

「ケーキ」「ハンバーガー」などと見立てる製作あそびをする姿もある

〇指先を使った遊び・構成あそび

・個々に集中をして遊ぶ姿が見られる中で、「〇〇ちゃんのキレイ」「〇〇君、同じようにしよ」 「真似してもいい?」など近くにいる友だちを意識したり、友だちとの言葉のやりとりをして

・役割を決めて一つのものを形にしたり完成させようとする姿が見られる

4. ねらい

〇自分の好きな遊びを見つけて楽しむ

〇あそびを通じて自分なりのイメージを持ち、エ夫したり、表現する楽しさを感じる

保育の内容

〇ままごとを使ったごっこ遊びをする

〇いろいろな材料を使って製作をする

〇自分の好きな遊びを見つけて遊ぶ(マンダラぬりえ・お絵かき・積み木・リモーザ)

6. 内容選択の理由

・ごっこあそびの中で、友だちと一緒に関わりながら言葉のやりとりをしたり、自分で作ったものを使ってごっこ遊びを楽しんでほしい

・廃材や用具を使って自分の作りたいものをエ夫したり、表現することを楽しんでほしい

・こだわりの強い子やその遊びを好む子どもたちがその遊びがあることで精神的に安定し、次の活動へスムーズにつなげてほしい

実施計画

評価の観点	一緒に遊びたい友だち	や自分のしたい遊び	を見つけようとして	いるか	・自分の気持ちを保育者	に伝えようとしてい	るか	・ごちそう作りや人形あ	そびなど気の合う友	だちや保育者と一緒	に会話を楽しんでい	3 \$	・調理器具や食材などを	共有しながら笑顔で	過ごしているのか	・役割を表すような言葉	や動き、やりとりをし	ているか															
保育者の援助と配慮	・不安になったり、したい	遊びに迷っている子には	保育者から声を掛け、ゆ	っくりと関わりながら子	どもの思いを聞けるよう	15 4 2		・「赤ちゃんお腹すいてない	かな」「眠たくなったか	な」など遊びのイメージ	が広がるように言葉がけ	촌する	・保育士もごっこあそびに	入り、言葉のやりとりを	増やしていくようにする	・友だちが持ってる食材や	調理器具などが使いたい	場合にはどのように話せ	ばよいのか子どもたちと	一緒に考えるようにする	・ごちそうを作ってもらい	嬉しい気持ちや「次は〇	〇下さい」など言葉のや	りとりをして、遊びの意	欲の持てるように言葉が	けをする							
予想される幼児の姿	・自分のしたい遊び・場	所を選ぶ						つままごと	・赤ちゃんの人形をおん	ぶひもでおんぶする	・赤ちゃんの世話をする	・エプロンを身につける	・既製品の食材や調理器	具を使って料理を作る	・料理を食べるためイス	を丸テーブルの周りに	並べる	・一緒に遊んでいる友だ	ちや保育者に「〇〇作っ	た」「食べて」と勧める	・子ども同士で調理器具	や食材などの貸し借り	をする	・「おいしい?」「熱いか	ら気を付けて食べてね」	など友だちと簡単な言	葉のやり取りをする	・廃材で作ったジュース	を持ってコップをつき	合わせて乾杯の仕草を	48		
環境構成								・ままごとコーナーには調	理器具 (キッチン・フライ	パン・お目)は田し入れし	やすいように配置してお	~	・子どもたちが作った食べ	物やジュースなども置い	ておく	・コーナーで遊ぶ子どもた	ちの靴を並べておけるよ	うなスペースを用意して	> #3	・料理を並べたり食べたり	出来るように丸テーブル	やイスを設置しておく											
時間	10:00																																

開組	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
		〇製作あそび		
	折り紙、ガムテープ、はさ	・友だちの真似をしたり	・子どもがイメージしたも	・自分なりにイメージし
	み、ビニールテープ、セロ	作りかたを聞いたり、教	のを受け止め共感する	たことを表現しよう
	ハンテープ、スズランテー	えてもらいながら製作	・より具体的なものが作れ	としているのか
	プ、のり、クレヨン、マジ	をする	るようになる	・満足できるまで集中し
	ック、段ボール、廃材を種	・自分の作った物を「見	・友だちと一緒に作ろうと	て作品を完成させる
	類別に分けて設置してお	て」と保育者や友だちに	する気持ちを大切にし、	ことが出来ているの
	~	見せようとする	あそぶ楽しさを味わって	φ.
	・製作しやすいように机と	・自分で作った達成感や	いけるようにする	・友だちと一緒に製作あ
	イスを準備しておく	喜びを味わう	・一人ひとりの作った作品	そびをする中で楽し
		・自分の作りたい物にど	を見えやすい所に飾り、	さや喜びをかんじて
		のような廃材が必要か	素敵さや満足感が得られ	いるのか
		悩み、保育者に尋ねた	るようにする	・自分が作ったものを保
		り、作ってもらいたがる	・子どもの発見を近くにい	育者や友だちに見せ
		・友だちと話をしながら	る子に知らせるなど共有	て喜びを感じている
		共通の物を作ろうとす	しやすいような声かけを	94
		8	行う	・棚に飾られる自分の作
		・細かい物を無造作にボ	・作りたい物の廃材選びを	品を見て満足感を味
		ンドなどを使ってくっ	- 緒にする	わえているのか
		つけようとする	・ハサミで怪我をしないよ	
		・廃材をハサミで切り刻	う見守りながら持ち方な	
		もうとする	どの声かけをする	



子どもを主体とした保育 公開園【さくら保育園】

時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
		〇指先を使ったあそび		・好きな遊びが選択でき
	・棚に積み木・リモーザ・	〇構成あそび		ているか
	色えんぴつ・マジック・マ	・描いた絵を自分で黒板	・描いた絵や完成した塗り	・近くにいる友だちの様
	ンダラ塗り絵を取り出し	に貼ろうとする	絵を見て工夫した所など	子を意識し、見て話し
	やすいように配置する	・色々な色を使って色を	をほめていく	かけたり、興味関心を
		塗る	・発見や工夫などを周りに	もって遊べているの
		・友だちの遊んでいる姿	いる友だちにも伝え共有	φ.
		を見て自分も真似して	しやすいように声かけを	・出来上がった時に達成
		みたり近くにいる友だ	48	廢・満足感が得られて
		ちとのやりとりを楽し	・自分で作った達成感や喜	いるか
		みながら遊ぶ	びに共感する	
	・片付ける場所が分かりや	〇片付け・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・保育者も子どもと一緒に	
	すいように入れ物などに	を元あった場所に古付	片付けを行い、最後末で	・自分でお付けようとし
	写真を貼っておく	17-8	取り組めるように声かけ	ているのか
		使ったものを正しい場	をする	
		所へ片付けず、適当に置	・写真が提示してあるカゴ	
		いたり片付けをやめて	などを伝え、依頼の言葉	
		別のことをしてしまう	でお願いする	
		子もいる	・片付けに楽しみや達成感	
11:30			がもてるようにする	

- 1. 日時 平成28年11月10日(木曜日) 10時00分~11時30分
- さくら保育園 4歳児 うめ組(男児9名女児14名)

2

担任 梨子木理恵子

3. 子どもの姿

<子どもの生活の特徴>

〇日々の繰り返しの中で身の回りのことを自分でしようとしている。声掛けにより、丁寧にしようとしたり意識する姿もある

〇片付けや、活動の節目を時計の数字で知らせることで、生活の見通しを持ち過ごしている

く発達の特徴>

○気の合う友だちとの関わりが増え、友だちの始めたことに興味、関心を持ち、仲間に加わったり、活動にやりとりをしながら遊びを展開している

〇遊びの中で自分の思いとは違ったり、意見を通そうとしてうまく伝えられず、手が出たり、保育士に訴えたりする

<遊びの特徴>

〇獣布

- · 色々な素材や材料を使って試行錯誤しながら、遊びの中で必要な物をイメージして、作りたい物を形にすることを楽しんでいる
- ・友だちのしている事に興味を持ち、やろうとしたり、方法を教え合ったり、出来上がった物を見せ合い喜んでいる
- ・ピタゴラスイッチでは高低差や道順を少しつなぐと転がし、またつなげてと、やってみながらエ夫したり友だちや保育者と相談しながら作っている

〇指先を使ったあそび・構成あそび・描くあそび

- ・LaOでは指先を使いながら考え、いろいろな部品を組み合わせて平面から立体的な構成物をつくっている
- まんだら塗り絵では色や素材に親しみ自分で決めた配色バターンを考えながら塗り上げる達成感を感じている
- 作った物をごっこあそびで使ったり、ままごとで使ったり個々の遊びから集団のあそび展開 することもある
- 仕上がった途中の作品を自分できまったところに置き、友だちに見せてもらったり、互いに 見せ合ったりしている

〇ままごとを使ったごっこあそび

・おうちごっこやお店屋さんごっこ等経験で知り得た日常生活の体験を、模倣・再現したり、

7. 実施計画

語報	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
10:00	保育者や子ども同士の顔	・今日の予定をみんなで	・意欲的に生活できるよ	・「やってみたい」
	を見ながら話が聞けるよ	確認する	う今日の予定を伝え	と今日の活動に
	うに座る	・友だちや保育者の話を	8	興味をもってい
		聞いて自分もしてみた	・子どもたちの声を受け	6 <i>t</i>
		いと思ったり、新たな考	止め、「やってみた	・友だちや保育者の
		えが出てきたりする	い。」と、関心が持て	話を興味を持つ
			るように遊びの様子	て聞こうとして
			を伝えていく	いるか
		く製作遊び>		
	廃材を分けて配置してお	* ピタゴラスイッチ	・友だちが作ったものに	・友だちに聞いたり
	~	*電車	も興味が持てるよう	エ夫したことを
		*ままごとあそび	形、長さ、材料の違い	教えたり、思いを
	・机を設置しておく	・様々な廃材を使用して	に気づけるような言	伝え合っている
	・雑巾を用意しておく	道を作る	葉がけをする	ψ
		・友だちと相談したり協	子ども達のやりとりを	・エ夫したり、考え
		カしながら高低差をつ	見守り、気づきや工夫	たことが成功し
		ける方法を考える	を周りの子ども達と	たり、出来上がっ
		・自分のイメージや思い	共有し、深められるよ	た時に笑顔が見
		を言葉にして伝えあい、	うに声掛けしていく	られるか
		友だちと一緒に作る	・材料や使い方を工夫し	・切ったり貼ったり
		・目的に合う材料を自分	ているところを認め	異なる素材を組
		なりに考え、選び描いた	9	み合わせてつか
		り、切ったり、貼ったり、	・子どもたちのイメージ	っているか
		エ夫して作る	に共感する	・遊びの中でイメー
		・線路を作りながらイメ	・トラブルの様子を見守	ジした事を伝え
		ージを広げ友だちに伝	りながら手が出たり、子	る言葉があるか
		える	どもたちでの解決が難	
		・電車の運転席を占領し	しい時は、仲立ちとなる	
		たり場所の取り合いを		
		48		

り身につけて楽しんでいる自分たちで殺割やルールを決め、その役になりきって演じ、遊んでいる

ごっこあそびに必要な食べ物や小物を廃材を使って作ろうとしたり、ペンダントや指輪を作

やリとりをしながら遊んでいる

・自分たちで役割やルールを決め、その役になりきって演じ、遊んでいる・保育者も一緒になって遊ぶ中で、年少児を招待したり、年長児の刺激も受けながら、少しずつ遊びに広がりが見られる

・作った食べ物からお店ごっこへと発展し、カバン屋やドーナツ屋・ケーキ屋等年長児や年少児を誘ってお店屋さんごっこをしているが、作った満足感がお店のごっこあそびに繋がらない子もいる

4. ねらい

○素材や材料用具を使い、試したり、工夫したりする事を楽しむ ○自分の考えを言ったり、話を聞いたりしながら友だちと関わる楽しさを感じる

5. 保育の内容

・ままごとを使ったごっこ遊びをする ・電車ごっこをする

・遊びのなかで必要なものを製作する。 ・ピタゴラスイッチをつなげる

・自分の好きな遊びを見つけて遊ぶ (LaO、マンダラ、パズル)

6. 内容選択の理由

・遊びを楽しみ、発展していく中で友だちとイメージを共有し、自分たちの遊びに必要な物を 試行錯誤しながら、作る楽しさを感じてほしい

・遊びの中で友だちと思いが違ったり、ぶつかったり、トラブルになった時、思いを伝え合いながら、解決の方向を自分たちでみつけて考えられるようになってほしい



子どもを主体とした保育 公開園 【さくら保育園】

時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
	く指先を使った遊び、構成	<室内遊び>		
	崩び、描く>	・遊びたい物を自分で選	・集中して遊び込む姿を	・自分のしたい遊び
	・コーナーにラキューやパ	び、苗ジ。	認め見守る。	をえらんでいる
	ズル、カードゲーム、塗り	・本を見たり、友だちが	・誘いかけがあれば保育	か
	絵を設置する。	作った物をまねたりし	者も一緒に遊びを楽	・組み合わせを考え
		ながら作る。	しみ、言葉のやりとり	たり、構成してい
	・机を設置する	・細かいところは材料を	や気づきの仲立ちと	るか
	(様子を見て増やす)	使い分けて塗り絵をす	なるよう関わる。	
	・作った作品や途中の作品	%	・遊びを見守りながら、	・友だちの作品を見
	を記名し、置いておける場	・作った物をごっこ遊び	つながりや周りに意	たり、見せ合った
	所を設置しておく。	やままごとで使って遊	識が向くように関わ	りしているか。
	・片付ける場所が分かるよ	ικ̈́	%	
	うに入っている道具や材			
11:30	料を記しておく	<片付け>	・最後まで片付けが協力	・元の場所に戻した
		・自分が使ったものだけ	して出来るよう声を	り、使える物は次
		でなく、まだ片付けが終	掛けながら、1人1人	の遊びに取って
		わっていない所を手伝	方法を知らせたり、目	おこうとしてい
		いに行く。	標を持つ言葉がけを	3 2
		・自分の文が終わると友	4 8.	
		だちとじゃれあったり	・出来たら「ありがと	
		遊びだしてしまう。	う。」と感謝の気持ち	
			を伝える。	

開組	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
		くままごとをつかった		
		じっに遊び>		
	・コーナーに調理器具や子	・調理器具や食材を使っ	・子どもたちが行って	・自分たちで役割や
	どもたちが作った食材や	てごっこ遊びを楽しむ	いるエ夫や遊びを認	ルールを決めよ
	カバン、エプロンなどを設	・役割やルールを自分た	め共感する	うとするやりと
	置しておく	ちで決め、自分の役を演		りがみられるか
	・廃材も近くに設置する	じる		
		・イメージする料理や品	・イメージを膨らませて	・イメージや見立て
		物に合わせたり、調理の	いる様子を見守り、他者	たものを言葉や
		エ程を表現したりしな	とイメージを共有した	動作で伝えてい
		がら描ぶ	り言葉のやりとりが楽	るか
		・遊びの中で必要な食べ	しめるよう援助する	
		物や小物を廃材を使っ		・経験したことを遊
		て作ろうとする		びに取り入れて
		・作った物を友だちに勧		いるか
		めたり、作ったものを持		
		ち寄ってお店やさんご		
		っこをする		
		・遊びの中で自分の思い	・互いの思いを言葉で表	・自分の思いを相手
		を出すが、相手が違う思	し、相手の思いを聞き、	に伝えているか。
		いで受け入れてもらえ	解決の方向を自分たち	・相手の思いを聞こ
		ない	で考えていけるよう仲	うとしているか
		・招待状をつくり年長児	立ちとなる	
		や年少児を誘いに行こ	・遊びの様子を見守りな	
		うとする	がら、さらに発展しそ	
			うな気づきやエピソ	
			一ドがあれば周りの	
			子にも共有し深める	
			役割をする	

- 1. 日時 平成28年11月10日(木曜日)10時00分~11時30分
- 2. さくら保育園 5歳児 さくら組(男児 15名 女児 7名)

担任 鳴戸身知

3. 子どもの姿

<子どもの生活の特徴>

- 〇圏での生活の流れが分かり、友だちと確かめ合ったり話をすることで見通しを持ち行動して いる
- ○生活に結びついた時刻に興味を持ち活動終了時刻や片付けなど数字で示す事により時間や数に関心を持っている

く発達の特徴>

- 〇共通の目的に向かって役割を持って遊びを楽しんでいるがまだまだ自分の意見を通したい 子が多いためうまくいかずケンカになる場面もある
- 〇お友だちがしている考え・作品の良さに気づき、真似したり認めあったり友だち同士で教え 合っている

<遊びの特徴>

〇お店屋さんごっこ

自分たちで作った、たこやきの製作が上手に出来たことから、お店屋さんをやりたい!と考えた女の子からお店屋さんごっこがみんなに広がった

たこやき屋さんでどんなのやった?どうしたらお客さんを呼べるんやろ?お店屋さんを開くためのみんなの疑問がたくさん出てきた遊びとなった

色々話し合い準備をし、実際に異年齢のクラスをお客さんとして呼び、ごっこ遊びを展開すると自分たちで遊びを進めていく事の楽しさに気づいたり、異年齢での交流が増え、ごっこ遊びに対する興味・関心もどんどん深まってきている。

D 木 片 遊び

年中組の時から年長組さんが活動している様子を見ていた子どもたちの楽しみにしている活動であった 実際に釘や金づちを使うのは難しいと感じる場面も見られるが、友だちと協力し合ったり意見を伝え合うことで、友だちと共に作品作りを行っている子どもたちである自分たちで作った作品で遊ぶ楽しさを味わっている

の割布

職場体験で来られた中学生が作ったロケットをきっかけにみんなが宇宙について不思議に思ったり、宇宙に関する製作を行う子どもたちが増えた。自分でも作ってみたロケットの製作をお友だちと見せ合ったり、友だち同士で共通のイメージを持ち、製作を行う場面が多く見られるようになってきている

4. ねらい

○さまざまな用具や材料を使い共同製作を通して友だちと共通のイメージを持ち、作ることを楽しむ

〇自分たちの遊びを通して自分の意見を表現し、友だちの意見も聞こうとするなど、協力し合

う事を楽しむ

保育の内容

〇共同製作を行いながら、子どもたち同志で協力し合い、お店屋さんごっこをする

〇木片遊びで自分たちで作った作品で遊ぶ楽しさを味わう

〇子どもたち同士で共通のイメージを持ち製作する

6. 内容選択の理由

○自分たちの好きな遊びを通して、友だち同士の信頼関係が少しずつ出てきた子どもたち好きな製作を共同で作り遊びを展開させていくことが楽しいと思える場面が見られるようになってきた その中でも活動の場に異年齢との関わりの場が入ると、年長児として友だちに優しく接しようとする姿や、相手の思いを聞こうとする場面を見ることが出来てきた自分の意見は伝える事が出来ているのだが、まだまだ自分本位な場面も見られるため、子どもたちが友だちの意見も聞けるようになり、協力し合い、遊びが楽しく発展していけるようになってほしい



子どもを主体とした保育 公開園【さくら保育園】

暗轴	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
		〇いろいろなもので字		
		宙空間をつくる		
	・製作の場の廃材・材料は	・宇宙のイメージが広が	・ひとりひとりの表現を	・納得のいくまで製
	子どもたちの使いやすい	るよう黒いポリ袋を貼	認める	作に取り組んでい
	ように配置し、興味をひく	りめぐらせ暗い空間を		るか
	ものを用意する	作る		
		・自分のイメージしたも		・自分のイメージや
		のを色々なもので作ろ		目的に合った材料
		うと試し、どの廃村・村		を選び工夫して作
		料を選べば良いのか考		っているか
		える		
	・宇宙に関する絵本・図鑑	・宇宙について調べよう		・友だちと考えを出
	を常時置いておく	とする また自分で作		し合い遊びを進め
		った物を絵本・図鑑で確		ているか
		かめる		
	・大・小様々なダンボール	・ダンボールで製作する	・材料にあった接着方法	
	を用意する	際は、何を使い切ったり	を考えられるように	
		接着するのか、どこをエ	声かけをする	
		夫するのかお友だちと	・子どもたち同士が共通	・友だちと共通のイ
		考え試行錯誤する	のイメージを持ち製	メージを持ち製作
		・共通のイメージを持っ	作が行えるよう、ルー	を行っているか
		て共同製作を進める	ルを作ったり友だち	
		共同製作の中で自分本	の思いが聞けるよう	
		位な考えをしてしまい	1542	
		上手く製作が進まなく	・遊びの中でトラブルが	・自分の思いを伝
		なる	生じた時は、互いの言	え、また友だちの話
	・製作を行う場、作った物	・自分たちで作った製作	い分をしっかり出さ	を聞いて製作を進
	を飾る場を分ける	をどのように飾るかを	せ話し合いを見守る	めているか
		考える	・それぞれの子どもたち	
			の得意とする場面を	
			ほめ、みんなで認めあ	
			ったり個性が発揮さ	
			れるようにする	

時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
10:00	・イメージが膨らむよう製	〇お店屋さんごっこを		
	作の場も使い、遊びに必要	4 &		
	なものを自分たちで考え	・友だち同士で共通のイ	・友だちと一緒に思いを	
	たり作ったりできるよう	メージを持ち、お店屋さ	出し合いながらイメ	
	1543	んを行うための製作を	一ジを共有できるよ	
		4 &	うに声かけをする	
	実際にお客さんを呼び自			
	分たちで考えたことを試	・お店屋さんごっこをす	・自分の思いに自信を持	・役割分担ではやり
	す場を設ける	るための案内役、お店屋	ち友だちと楽しく遊	たい事でも、譲り合
		の店員役は誰がするの	びが進められるよう	うなど、どうすれば
		かなど役割分担を決め	話し合いの場を作っ	良いか考えようと
		るため話し合いをして	たり声かけをする	しているか
		いるが上手く決められ		
		ないこともある		
		・うめ組・ひまわり組に	・遊びが発展していく姿	
		お店屋さんに来てもら	や様子を認める	
		うために呼びかけを自		
		分たちで行う		
		・どのようにすればお客	・ごっこ遊びを進めてい	
		さんが来てくれるのか	く上で、お互いの考え	
		みんなで考える	を進めていく姿を認	
		・さくら組に来たお客さ	88	
		んにお店の紹介をする		
		・お部屋に来た異年齢の	・異年齢の友だちの思い	異年齢のお友だち
		友だちの思いを聞かず、	に気づけるよう配慮	に優しく接してい
		自分の思いを通そうと	48	るか
		4 &		
		・年中・年少児がお店屋		・自分たちで遊びを
		さんごっこを楽しむ姿		進める楽しさを味
		を見て「お客さん一杯来		わっているか
		てくれたね」など感想を		
		言い合い、達成感を味わ		
		10		

目出	七番母 師	み替させる名目の次	日本本の世界と関係	おこれの語り
	が事がある。		不見古の一次の一門の	THIN CONTRACTOR
H	の五の利の毛は固い	つ 今 互 や 屋 を 回 と や こ	・日ガにもに女王に避み	
ておく		冷 担	ことが出来るよう確	
× /·	・イメージが膨らむように	・様々な木片の中から自	認を十分に行う	
様々な	様々な形や大きさの木片	分の作る物のイメージ		
を集め	を集めておく	に合った木片の大きさ		
		長さを見比べ選ぶ		
		・金づち・釘・ボンド・	・道具・用具・材料につ	
		カネダインを用途に合	いて正しい使い方を	
		わせて選んで使う	徹底できるよう一人	
釘は太さ	た太さ・長さの異なる		一人に知らせていく	
物を月	物を用意する	・上手く出来ない場合	保育者も遊びに加わり	・分からないところ
		は、友だち・保育者に声	ながら、うまくいかな	は他者に自ら聞き
		を掛けアドバイスを求	い所などは、子どもの	解決しようとする
・作品	・作品で遊べるコーナーを	めたり一緒に遊びを進	イメージを大切にし	か
設置す	8-	めていこうとする	ながら子ども自ら考	・自分の持っている
			えたり気づかせられ	知識や技術を友だ
		・一人で木片あそびを集	るような声かけを行	ちに伝えられてい
		中して行う子もいれば、	ć	8 <i>t</i> h
		友だち同士で共通のイ	・友だち同士で意見を伝	・難しい作業も友だ
		メージを進めていこう	え合い、刺激を受ける	ちと協力し合うこ
		とする子もいる	ような話し合いの場	とで進めていくこ
			を作る	とが出来ているか
		・自分で作っている作品	・自分なりの目標を持っ	・試しながら作るこ
		を実際に遊びながら完	て、繰り返し挑戦する	とで、さらに工夫し
		成させようとする	姿を認め子どもたち	ようとする姿が見
		・出来た作品をお友だち	の喜びに共感してい	られるか
		に見せ達成感を味わっ	~	・自分たちで作った
		といる	・達成感を共に感じ、他	作品で遊ぶ楽しさ
			の友だちにも意欲が	を味わっているか
			わくような声掛けを	
			行う	

保幼小連携 合同授業・公開園・校【中舞鶴】

生活科 学習指導案

 指導者名
 中舞鶴小学校
 1年1組担任
 演野
 伸司

 1年2組担任
 小谷
 堅亮

 中舞鶴幼稚園
 5 才児担任
 杉山
 智代

 中保育所
 年長担任
 出石真美子

 中保育所
 大塚
 清美

対 象 中舞鶴小学校 第1学年 1組・2組・ひばり 53名

中舞鶴幼稚園 年長児 26名

中保育所 年長児 23名

2 日 時 平成28年11月15日 火曜日 第2校時 9:50~10:35

3 場所 体育館

4 単 元 名 たのしいあき いっぱい 『なか・あきパーティーをしよう!』

5 単元について

本単元は、学習指導要領の内容(5)「身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに気付き、自分たちの生活を工夫したり、単したり、東したり、東したり、身近にある物を使ったりなどして遊びを工夫し、みんなで楽しむことができるようにする。」(8)「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。」について関連を図って指導していく。

中舞鶴小学校は豊かな自然に囲まれた学校である。裏山のたくさんの草花や、木々の秋の変化、昆虫や生きものの生きる様子を身近で見ることのできる環境を児童には精いっぱい楽しんでほしい。見る、触る、聞くなどをはじめとする五感を使って、秋を体全体で楽しみ、自然の持つ美しさやすばらしきを感じてほしい。この単元では、裏山や、あかね川の自然に十分にひたり、落ち葉や木の実などの秋の自然物を使って工作をしたり、発想を生かして活動を考えさせたりしていく。低学年の時期に十分に自然とかかわり、そのよさを感じとらせることで、それがやがて環境に目を向ける基盤となり、自然を大切にしていこうとする態度を身に付けることにつながると考える。

また、地域の園児と一緒に秋みつけに出かけたり、一緒に工作をしたりする中で、児童の主体性を伸ばし、伝え合う力を育成したいと考える。地域の保育所や幼稚園とは、1 学期から交流を重ねているが、ペアを固定することで、親しみや安心感を持ちながら活動できるように配慮している。

共同製作では、初めはテーマを決めずに製作をスタートしたところ、秋の自然物から豊かな発想を膨らませ、多様な遊びを考え出していた。木の枝を使って釣り竿を作ってどんぐりを釣って遊ぶ子、雨といを使ってどんぐりを転がし遊ぶ子、服を作って葉っぱの服を作り着て遊ぶ子、マラカス、ギタ

一、太鼓などの楽器を作って演奏する子など、様々な遊びの姿が見られた。中には教師が想像もしていなかった道具の使い方や、遊び方を思いつき活動している児童がいた。2回目の共同製作からは、移の自然物から様々な遊びを発想し、さらにその遊びが発展する遊びの姿から、「遊び (ゲーム)」「転がし遊び」「ファッション (服)」「楽器」の4つのコーナーを設定し、子どもの興味・関心から自由に選ばせ活動させるようにした。1つの遊びをとことん追求する児童や、どのコーナーの遊びにも参加する児童もいて、ペアによって様々な楽しみ方が見られた。

交流活動を重ねることで、1年生には園児への思いやりや声かけ等が、具体的な活動場面で見られるようになり、相互の豊かな関わりが少しずつ生まれてきている。相互に積極的に関わる場を設定することで、児童にとっても園児にとっても成長の場となるように活動させたい。

6 単元目標

(1年生)

○秋の学校で、身近な自然と関わり、それらを利用して遊ぶことを通して、秋の自然や夏との変化に気付いたり、自分たちの生活を楽しくしたりすることができるようにする。

○園児に教えてあげたり、友達と協力したりすることにより、人と関わる楽しさを味わいながら自己肯定感を感じることができる。

(年長児)

○身近な自然物に触れ、興味を持ったり、作ったり遊んだりすることを楽しむ。

○1年生との関わりを通して、信頼関係を深め一緒に遊ぶことを楽しむ。

○小学校への憧れや期待の気持ちを高める。

7 単元の評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分自身についての気付き
○秋の自然や季節の変化に関心を	○秋の自然や季節の変化に関心を ○四季の変化や、季節によって生活 ○夏から秋になって自然の様子が変	○夏から秋になって自然の様子が変
もち、秋の自然を利用して、みん	もち、秋の自然を利用して、みん の様子が変わることについて自分 化したり、季節によって生活の様	化したり、季節によって生活の様
なで楽しく遊んだり、それらを振	なりに考えたり、身近な自然やも 子が変わったりしていることや、	子が変わったりしていることや、
り返って伝え合ったりするなど	り返って伝え合ったりするなど のを利用した遊びを工夫したりし 身近な自然を利用して遊びをつく	身近な自然を利用して遊びをつく
して、楽しく生活しようとしてい	して、楽しく生活しようとしてい。て、それを素直に表現している。	り出す面白さに気付くとともに、
Ŷ		それらを伝え合い、交流する楽し
		なに気付いている。

単元指導計画(全15時間) ∞

				111	包
評価規準 (評価の観点) 〈評価の方法〉	○秋の自然物や虫などに関 心をもち、それらを観察 したり、集めた自然物で 遊んだりしようとしてい る。(関・意・態) (行動観察・観察カード) ○秋の自然の様子が、夏か ら秋へ移り変わってきて いることに気付いてい る。(気付き)	○諸感覚を使って秋の自然 物を集めたり、それらを 使った遊びを考えたりし て楽しく活動している。 (思考・表現) 《発言・行動観察》	○「なか・あきパーティー」 に向けて、園児や友達と 筋力しながら楽しく製作 しようとしている。 (関・意・態) 《行動観察》	〇共同製作を通して、気付いたことや感じたことを 振り返り、次に活かそう しょっこく (用・主)	こしている。 (応・女) (発言・ワークシート)
指導上の留意点	○集めた自然物を比べる場を設定 するなどし、意欲的に自然物を集 める活動をさせる。 ○夏の自然の様子を思い出し、違い を感じながら活動させる。	○児童と園児のペアを作って活動させる。 させる。 ○安全に気を付けて協力して活動させる。 ○校内や近くの公園に出かけて、自然物を拾いながら遊ばせる。 ○秋の草花や樹木、虫などの動植物の様子を観察しながら活動させる。	○拾った自然物を使ってできる遊びやおもちゃを自由に考えさせる。 る。 ○どんなものを作りたいかを話し合わせながら協力して活動させる。 の圏児や児童がどのようなことに問いたが、よまがアールをお	M-1、米708級フ、マール・国 へポイントを知られる。 ○共同製作を通して、シまくいった にと、シまくいかなかったいとを 板り返らせる。	○MYL2 in動していてて、かに、 ってみたいこと、がんばりたいこ と考えさせる。
学習内容・活動	○校内の自然の中から、初 秋の草花や樹木、虫など の動植物の様子を観察し たり、自然物を集めたり する。 ○校内の自然物を集めなが ら、自然物を使った簡単 な遊びを考える。 ○観察カードをかく。	○園児と一緒に秋の自然物 を拾ったり、自然物を使 って遊んだりする。	○「なか・あきパーティー」 に向けて、1年生と園児 で共同製作をする。	○1回目の共同製作の振り 返りをする。	
盐		m	4 · ro	9	
次	1	11			

	- • α	○「なか・あきパーティー」に向けて、1年生と園児で共同製作をする。	○「遊び」「転がし遊び」「服」「楽器」の4つのコーナーに分かれ、 児童と関児のペアで共同製作を	○「なか・あきパーティー」に向けて、園児や友達と 協力したがら楽しく製作
	0		進みさせる。 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	m, y o z z z z z z z z z z z z z z z z z z
			を伝える。 ○作ったものを「なか・あきパーテ イー」でどのように活躍させるか 考シェサス	
			→ へんできる。○ はかのをおかし、話し合いをしながら協力して活動できるように キャス	
	6	○2回目の共同製作の振り	○共同製作を通して、うまくいった	
			こと、うまくいかなかったことをおいて、	
			板り返りせる。○園児と活動していく中で、次にや	\$ ~
			ってみたいこと、がんばりたいこと、かんばりたいことがように	
			と考えらせる。 〇話合いを活かし、さらに工夫でき	
			ることやもっと必要なものを考えさせる。	
	10	_	〇「遊び」「転がし遊び」「服」「楽	○「なか・あきパーティー」
	₩ #	に向けて、1年生と園児 た井回動作を占く	器」の4つのコーナーに分かれ、 同音と周月のペアで共同製作を	に向けて、園児や友達と協力したがら楽しく戦化
	2		猫のかける。	しようとしている。
			〇作ったもので遊びながら、おらに	(関・節・態)
			「大いさることか問し合わせる。」人大が大のコーナーの中で、作り	〈発言・仃虭観祭〉
			たものの気に入っているところの話に、オー・ファイロエル・	
			か頃嵌りたところに気付かせるようにする。	
	11	○ペアゴとに、作ったものの紹介を考える。	○自分たちの作ったものの、気に入っているところや下去したとこ	○自分たちの作ったものの よいところがみんだに伝
			ろが伝わるような紹介を考えさ	わるように紹介を考えて
			Ł S.	いる。(思・表) 〈発言・ワークシート〉
11]	12	「なか・あきパーティー」を開催し、作ったものを紹	○コーナーの中で、前半と後半でお をおんと紹介する人に分かれて	○友達と一緒に活動するこ レで 自分や友達のよ
	13	介しながら、一緒に楽しく	さいたい話に、シングングのは、一般しませる。	に気付いている。
		成 必。	○秋の自然を利用して遊ぶ楽しさ や友達や園児と遊ぶ楽しさなど に気付かせる。	(気付き) (行動観察・発言)
	14	○「なか・あきパーティー」の振り添りをよる	○気付いたことや感想などを振り おりゅうにんせる終った ほ	○「なか・あきパーティー」 を通」と「気付いた」と
	. 15	0 7 7 7 7 7 XIV	<u>ぬッ</u> グ 「にに入、版、 動を振り返らせる。	9周ラン、2013・16日の名類を表して、16日の表現を、作文や絵に表
			〇当日のことだけでなく、これまで	ている。
			の取り組みか振り返り、気付いたにアをを流いせん。	〈リークシート・名三〉
+	Ť	44 公林 公田) 共立		

生活への関心・意欲・態度 活動や体験についての思考・表現 ・・・(周・麦) 身近な環境や自分にについて気付き ・・・(気付き) 備考



保幼小連携 合同授業・公開園・校【中舞鶴】

本時の目標

(1年生) 秋の自然物を用いた、工作を通して友達や園児と協力しながら、作り方や遊び方

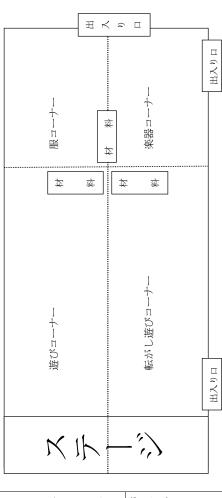
10 本時の展開(10/15)

しむこと	
ることを楽	
、遊んだりすることを楽しむこと	
緒に作ったり、	
1	
、子ども同士の信頼関係を深め、	
秋の自然に興味を持ち、	ができる。
(年長児)	

	11 評価	
方を工夫することができる。	(1年生)	(1年生) ○園児や友達と協力し合い、「なか・あきパーティー」に必要な道具やあそびを楽しく作ろう
んだりすることを楽しむこと		としている。(関・意・態)
	11 1	(子正言) くたくて 君子母与りまり レンス ロービル表面だらぎら タンデ チャンジェリション

○秋の自然に興味を持ち、子ども同士の信頼関係を深め、一緒に作ったり、遊んだりすること を楽しめている。 (年長児)

会場設置図 (場の設定)



って きゅうしゅ かんしゅ かんしゅ かんしゅ しゅんしゅ かんしゅ かんしゅ かんしゅ か	主な活動	予想される幼り	予想される幼児・児童の反応	指導上の留意点
	1 学習のめあてを確認	(5 歳児)	(1年生)	
	400	みんなできょうりょくして、た	なか・あきパーティーのじゅんびをしよ	そしまう。
	○ 「あそび」「ころがし			
	あそび」「服」「楽器」	・楽しそうだな。	・今日はどのコーナーに行こうか	・製作の時間を十分に取
	の4つのグループごと	・ドキドキするな。	<i>\$</i>	ることができるように、
	に、はじまりの会をす	・どのコーナーに行こうかな。	・準備は整っているかな。	必要なことだけを伝える
	ю,	・早くやってみたいな。	・幼稚園の子や、保育所の子は楽	ような簡潔なはじまりの
	初めの検拶。		しんでくれるかな。	会にする。
	2 秋の自然物を使って 工作をする。	なか・あきパーティーにむけて	一にむけて共同製作を始めよう。	・年長児と1年生が対等 な立場で活動し、協力し
	○ 「あそび」「ころがし	・どうすればいいかな。	・うまく作れるかな。	て活動する楽しさを味わ
	あそび」「服」「楽器」	・お兄さん、お姉さんは、どうす	・準備はばっちりだ。	わせる。
	の4つのグループに分	るのかな。真似っこしてみよう。	・材料は足りるかな。	安全に製作ができるよ
	かれて活動する。	・上手にできてすごいな。作り方	・時間までに完成するかな。	うに支援する。
	○ 前回の振り返りを活	を教えてもらおうかな。	・うまくいった。	・ルールを守って、楽し
	かして、着しい描びや	・うまくできた。次はこうしてみ	・みんな上手に作れるかな。	く共同製作ができるよう
	おもちゃを、製作する。	たらどうかな。	・作り方を教えてあげよう。	に支援する。
	○ 作ったもので遊びな	・ちがうものを作ってみよう。	うまくいかない子がいたら、手	・共同製作の中で、困っ
	がら、さらに工夫でき	・あっちのコーナーもおもしろそ	伝ってあげよう。	たことがあったら自分の
	ることはないが話し合	う。	・こんなことをしたら、もっとお	思いが言えるように促
	v.	・欲しい物があったらどうしよう。	もしろくなるかな。	+
	○ はやく製作ができた	1年生にきいてみようかな。	・作った物を使って、できること	・子どもの気付きや、感
	グループについては、	・どこまで転がるかな。	はないかな。	じていることを見逃さ
	興味のあるグループに	・どんな音がでるかな。	・あの遊びは楽しそうだな。	ず、認める言葉をかける。
	移って活動する。	・合う服ができるかな。		遊びが次に発展してい
				くように、声かけをする。
 	3 各グループごとに振	4 4 ()	1	・本時のめあてについて、
	り返りをする。		を発表しよう。	- 振り返りをさせる。
	〇終わりの会をする。	・たくさん遊べて楽しかった。	・前はうまくできなかったところ	・児童の発言に対して、
	・感想交流をする。	・作れて嬉しかった。	が、上手にできた。	工夫したことやがんばり
	・先生のお話	・一緒にしてほしかったな。	・楽しい遊びをたくさん考えるこ	を引き出すように声かけ
	終わりの挨拶	・もっと、こうしてみようかな。	とができた。	をする。

余内小学校との保小連携(東山保育園) 10月31日(月)

「学びと育ちをつなげる連携教育 ~遊び込みから学び込みへ 記録と発信の重要性~

鳴門教育大学大学院 木下 光二 教授

【はじめに】

- ・幼児期から児童期につなげるもの1つ・・・何を思い浮かべるか?
- ・幼児期に遊び込めていることが、児童期の学び込みに入れる。自ら主体的に学んでいる子どもは、チャイムが鳴ってももう少しやりたいと言い、遊び込んでいる子どもと同じ。
- ・スタートカリキュラムが適応指導になっていないか?「学びに向かう力」をつなげなければならない。

【本日の活動について】

- 準備(イモ洗い)のところから、両者が協力して楽しそうにやっていた。 幼児が学校でもいつもと同じように変わりなくできていた。 博士(校長先生)も知っていることで、安心して学校へ入学できる。
- 子どもたちの方から"協力"という言葉が出てきている。 先生同士がつながったから子どもたちの段差がなくなり、ぎくしゃくすることが なかったのでは。
- 教師が徹底して手を出さない。見守っていた。失敗から考えさせ、学ばせることを大事にしたところがよい。
- 指導案に「お世話する」という表現が出てこない。お互いが対等の関係である。
- ▲ 課題としては、「導入」にあった。パーティーをしようと呼びかけているが、この活動では、「クッキング」になっていた。数量的なこと(みんなが食べられるようにするための適切な量)を考えさせることも工夫できたのでは。子どもの気付きや発見を誘う活動を工夫したい。(例) 11個ずつわける→3つの皿なら、あと8個だね。
- ・記録をとる。どんな学びがあったか個々に見取ることが大切。このエピソードが、 小学校にとっては、入学前から子どもの様子を知ることができる利点になる。
- ・クッキングでいくなら、バター焼きについて事前に家庭でも調べてこさせイメージを持たせておけば、探究的な活動になった。
- ・振り返りは、何に気が付いたかまで、教師が聞き取ってやりたい。
- ・机の配置、道具の数等、環境の配慮も必要。

【幼児教育の現状と課題について】

- ・幼児期には、かかわるって楽しいな、変わるって楽しいな(異質の集団とでも)と、 感じられるように育てたい。
- ・遊びと学びの捉え、可視化と共有、学びの連続性
- ・次期改訂において、保育指針と幼児教育要領の整合性について整理され、幼児教育 から高校教育まで柱が通った。アクティブ・ラーニングは、子どもの思いや願いに 基づいて主体的に学ぶ姿を大切にしている。
- ・学びの芽生えは、幼児の生活の中で育っている。(例)伝えたいから、文字を書く。 必要なひもの長さを身長と比べて図りとる。ザリガニを自分が描きたいから描く。 子どもの思いは子どもに聞いてみないと分からない。寄り添う。

【自分の実践から】

「さつまいも大作戦」

- ・3つの数の計算を仕組む。
 - 大・中・小に大きさ分けしたおいもの数、全部でいくつあるかな?2+5+4=? その後、算数の学習がスムーズに。
- ・重さの概念を鍛える。
 - おいも2kg分とってこよう。 図りを準備

「学校探検 オリエンテーリング」

・クイズづくりをさせる。

「いかだプロジェクト」

- ・ペットボトルを4000個集めよう。毎日集めてきては、自力で筆算する子どもたち。習っていなくても、大きな数の計算に挑戦しようとする。
- ・遊びの延長だが、教科の学習が入ってくる活動にする。これがスタートカリキュラムである。
- ・幼児と中学生の交わりも価値があるので、関係性や出会いを作っていくとよい。



さつまいも博士(校長先生)のお話



さつまいもを洗う



さつまいもを運ぶ



バターで焼く



振り返り

【まとめ】

- ・「何を学んだか」「何が育ったか」常に記録し可視化しながら学びをつなげていくことが大事である。
- ・連携活動を教育課程に無理なく入れていくことによって、人が変わってもしっかりと位置付くものになる。

50 平成28年度 公開園・校指導案

ブロック公開園・校

生活科(つながり活動)学習指導案

指導者 舞鶴市立余内小学校 1年2組担任 倉本 理恵 年長担任 井上 絵里 塩見 恵理 東山保育園

平成 28 年 10 月 31 日(月) $13:15\sim14:30$ 1 H

2 場 無鶴市立全内小学校 体育館 所

第1学年2組 (男子16名 女子17名 計33名) 年長児(男子10名 女子11名 計21名) 3 対 象

単 「たのしい あき いっぱい」 元 名 4

育ててきた作物を収穫し、みんなで収穫の喜びを分かち合う。 5 単元のねらい

・ きょうだいペアでかかわる活動を通して、かかわる楽しさを感じ、進んで交流しようとする思いを持つことができるようにする。

6 単元設定の理由

6月にきょうだいペアでさつまいも植えを行う際、さつまいももあさがおやひまわりのように種から育っているということを学習し、さつまいもに対する興味が高まっ た。その後も定期的に水やりを行い、世話をしてきている。しかし、夏休み中の世話ができなかったため、さつまいもの成長に対する気付きは多いとは言えない。そこで、 さつまいもを掘る活動では、事前に植えた時の苗の様子を写真で見て思い出したり、さつまいもの特徴を学習したりすることで、育てた経験のあるあさがおやひまわりと は違った根野菜としての良さに気付かせたい。また、本時の収穫したさつまいもを焼いて食べる活動では、素材の色や形、感触、におい、熱したときの変化についても感 じとらせたい。きょうだいペアとの関わりについては、さつまいもを仲良く分けて食べる場を設定する。数理的な処理を行う場を通して、互いに知恵を出し合い、どうし たら上手く分けられるか考えたり、いろいろな分け方があるという面白さに気付かせたりしたい。そのために、グループごとに場の設定をし、素材の準備をしすぎない環 境を設定する。

7 本時の目標

1年生 調理する活動を通し、切ったときの感触や色、形、におい、熱した時の変化など、さつまいもに関する新たな気付きを楽しむことができる。

(身近な環境や自分についての気付き) (活動や体験についての思考・表現)

互いに知恵を出し合い、どうしたらうまく分けられるかを考えることができる。 さつまいもの色、形、におい、焼いたときの変化など、気付き・楽しむことができる。

きょうだいペアで協力し合って、めあてを達成することを喜ぶ。

8 本時の展開

8 2	本時の展開主な活動	予想される幼児・児童の反応および具体的な支援				指導上の留意点	準備物	
	1 はじめのあいさつ。	きょうだいペアで座り、話を聞く。				1年生が事前にさつまいもを洗い始		
		おっきいのあるわ さつまいもあらっといたで				める。		
導	2 さつまいもについて校 長先生の話を聞く。	採ってきたさつまさつまいもについ	こっちのちいさいで	子どもたちのさつまいもへの気付き の言葉をひろい、共感していく。				
入	3 今日のめあてと活動の 流れを確かめる。	これからの活動を 「とりにいく」「きる」	めあて 『きょうだいで仲良く さつまいもパーティーをしよう。』 ・ これからの活動を分かりやすく伝えるために視覚支援を活用する。 「とりにいく」「きる」「やく」「バターをいれる」「わける」「さつまいもをわける」「おちゃをわまる。					
	4 調理を始める。	ける」「たべる」「かたづける」 とれにする? 大きいのにしよ 切れるん?				視覚支援の教材を用意しておき、戸惑	視覚支援 さつまいも	
		きょうだいペアに分かれ、必要な道具・食材を相談して準備する。				っている幼児・児童がいたら確認できる	包丁	
		A	カルイル、必要な過去・」 B	C C C C C C C C C C C C C C C C C C C	D	ようにする。 人数を考えて、さつまいもの量や大き	まな板 量り	
	・道具、食材の準備をする。	準備物が理解できてい ない。		* 準備がしっかり整えら れていない。	_	さを確認し、子どもたちが気付くような 言葉がけをする。 準備物は種類ごとにまとめて置いて おき、子どもたちが自分たちで考えて必	トレー割り箸	
		視覚支援で確認するよ うに言葉かけをする。 必要な道具がある場 所を伝える。	協力し合ってできてい るか確認したり、働き かけたりする。		考え、協力し合っていることを評価し、次の活動に移 るように助言する。	準備物がその時に全て整っていなく ても、これから不足に気が付けばよいこ		
						ととする。 さつまいもを切ったり焼いたりする		
	さつまいもを切る。	A	В	С	D	中で、自らの五感を使ってさつまいもの		
		どう切ればよいのか、 切り方や大きさについ て困っている。	一人で準備しようとする。他の子の活動がストップする。	が、うまくいかず困っ	みんなで考え合い、協力し 合いながら楽しく活動で きている。	特性に気付かせる。 「焼けたかどうか確かめるには」「上 手に分ける方法は」など、子どもたちが 自分たちで考えて進めていけるように		
展	・ホットプレートで焼く。	困っていることは何な のかを引き出す。	一人の子の意欲や切り 方を評価しながら、き ょうだいペアで活動で きているかを再確認さ	向けてみるように助言 する。	子どもたちの楽しむ姿に 共感し、次の活動へ移るよ うに助言する。	言葉かけをしていく。 使い終わった包丁を元の位置に戻す ように助言する。	ホットプレ	
		せる。 ・ 切ったさつまいもをホットプレートに入れ、焼き始める。				安全に配慮しながら、調理中に起こる 変化を見逃さずに発見できるように気	ート	
		1.5	siくらんできた X	を配る。	竹串			
開		あついで ・ ひっくり返す道具	つくりかえそう	こげとんちゃう	つまようじ			
		さつまいもの色、いいにおい	形、におい、熱した時のとけた	か変化など子どもたちが: じゅわ~って音がす	気付いたことに共感する。 「る			
	・バターを入れて焼く。	 バターを加えたことによって、香りが一気に広がり、自分たちが作ったものを食べてみたいという意欲を持てるようにする。 きょうだいペアの数の紙皿と紙コップを持ってくる。 困っている幼児・児童には、きょうだいペアでどうすればいいか考えるように 				この活動から子どもたちの動きは一 気に加速していくと考えられるので、一 つ一つの活動を指示することなく、共感 の姿勢で見守る。	バター (切れ目を入 れておく)	
	5 食べる準備をする。	働きかける。 あまったらどうする こっちが小さいよ					紙皿	
		どうわける		司じように分けよう	紙コップ お茶			
	一つずつ おかわりしたらいいんちゃう					少しずついれよう		
	6 食べながら感想を交流 する。	おいしくできたね ちょっとかたい いっしょにできた				食べながら、感想交流がうまく進むよ うに言葉かけをする。		
	7 食器とコップを片付け る。	ひっくりか	vえすんむずかしかった					
+	8 使った道具の片付けを	【期待する年長児の感想】 【期待する1年生の感想】						
まとい	する。 9 振り返りをする。	・食べたらおいしかったです。 ・きょうだいペアで一緒に作れてよかったです。 ・じょうずに焼けてよかったです。 ・バターがとけたところが、おもしろかったです。 今日の活動の中で見られたよのからいです。 ・かわいくできました。 ・また家でもしてみたいです。 毎日の活動の中で見られたよのよう。						
め	10 終わりのあいさつ。	・ ガガルハ ときよしだ。 ・ また家ともしてみたいとり。			張りを伝える。			
9	評 価					II.	l	

評

1年生 さつまいもの感触や色、形、におい、熱した時の変化など新たな気付きを楽しむことができたか。 互いに知恵を出し合い、分け方を考え、工夫することができたか。 さつまいもについていろんな発見をし、楽しめたか。

年長児

きょうだいペアと協力して活動ができたか。